

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

(1) 学生確保の見通し

(1)-1 全国及び中国地方における教育学学部・学科の状況

下の表は、全国私立大学の教育学系統の近年の志願者増減指数推移についてのデータである。教育学系統への志願者がここ 10 年で約 2.5 倍に増えたことがわかる。この伸び率は他の学系と比べても、医療・衛生学系統の 264.3 に次いで 2 番目であった。

私立大学学部系統別志願者増減・指数推移

学部系統	03 年度	08 年度	12 年度	13 年度	対前年(13 対 12)指数	(13 対 08)指数	(13 対 03)指数
教育学系	40,244	47,799	89,089	98,537	110.6	206.1	244.8

大学リレーション・パートナーズデータ集 2013 より作成

本学が独自で行った高校生アンケート調査(詳細は(1)-2 で記述)も、教育学系統への高校生の関心の高さを示すものとなった。別資料「広島修道大学人文学部教育学科新設に係るニーズアセスメント調査報告書」(以下、報告書と略す。)の「グラフ 興味のある学問分野 p.12」のとおり、興味のある学問分野として「教育・保育」を選択したものが一番多かったのである。

表 1 と表 2 は、平成 23 年度から平成 26 年度までの最近 4 年間の中国地方の教育学学部・学科における志願状況、中国地方の教育学・学科における定員充足状況をそれぞれ示したものである。全体としては、実質倍率が 11 年度 2.8 倍、12 年度 2.5 倍、13 年度 2.6 倍、14 年度 2.3 倍であり、4 年間での定員充足率も 107.2%と安定している。大学別に見ると、特に広島地区の教育学部・学科では新設校 1 校を除いては、おおむね学生を確保していることがわかる。

また、グラフ 1 は、広島修道大学教育学科の母体となる教育学専攻の平成 23 年度から平成 26 年度までの志願状況と定員充足率を示したものである。実質倍率は平成 23 年度 4.6 倍、平成 24 年度 4.1 倍、平成 25 年度 3.2 倍、平成 26 年度が 3.5 倍である。本学の倍率は、中国地方の私立大学の中では、過去 4 年間のうち、3 年間は最も高く、定員充足率は 124.5%であった。これらは表 1 に示す中国地方の教育学学部・学科の実質倍率の中でも他大学に比べて極めて高い倍率であり、教育学専攻は中国地区の中心的私立大学として高校生が進学したい専攻として位置付いている。

以上の全国及び中国地方における教育学学部・学科の状況や教育学専攻の現況から見て、18 歳人口の減少する中においても、本学教育学科には十分な志願者と定員を充足すること

ができると考えられる。

(1)-2 高校生アンケート調査の結果

広島修道大学が平成 28 年に新設を予定する「人文学部 教育学科」の学生確保の見通しを得るために平成 26 年 9 月から 10 月上旬にかけて、「新設構想についての高校生アンケート調査」を実施した（客観性を保つため、第三者機関に依頼）。広島修道大学に志願者・入学者が多い広島県を中心とした中・四国地方の実績校 85 校（島根県 9 校、岡山県 7 校、広島県 52 校、山口県 14 校、愛媛県 3 校）に調査を依頼し、28 年度入試を受験する可能性が最も高い高校 2 年生 11,961 人から回答を得ることができた。

アンケート調査より明らかになったことは次の通りである。

- ① 広島修道大学が人文学部に新設を予定する「教育学科」の概要を示し、受験意欲の有無についての回答を求めた結果、回答を得た高校生 11,961 人のうちの約 1 割に当たる 1,230 人が「受験したい」と答えた。

（報告書 p.13 グラフ広島修道大学教育学科の受験意欲の有無）

- ② 広島修道大学の「教育学科」を「受験したい」とした 1,230 人に対し、合格した場合の入学意欲について回答を求めた結果、予定される入学定員 100 名の 5.8 倍となる 579 人が「入学したい」と回答、621 人が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。

（報告書 p.13 広島修道大学教育学科への受験・入学意欲）

- ③ 広島修道大学の「教育学科」を「受験したい」とした 1,230 人に対し、現時点で最も選択したいと思うコースについて回答を求めた結果、「初等教育コース」が 569 人、「学校教育コース」が 260 人、「教育科学コース」が 172 人、「未定」が 192 人であった。

（報告書 p.14 広島修道大学教育学科に入学した場合、最も選択したいコース）

以上のアンケート調査結果からは、アンケートを実施した 85 校にとどまらず広く募集活動を展開することで学生確保に十分な入学ニーズが期待できることが明らかとなった。

(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

表 3 は、教育学科が設置される平成 28 年度から平成 44 年度までの都道府県別の 18 歳人口の推移を示したものである。これによると 16 年間で全国では 87.3%の減少が見られるが、広島県は 91.3%で、東京都 114.1%、沖縄県 102.5%、福岡県 96.8%、愛知県 93.5%、神奈川県 92.8%、滋賀県 91.4%に次いで 7 番目に減少率が少ない県となっている。しかしながら中国地方全体では、86.7%と全国平均を下回る減少率である。

現在は中国地区では高い競争力を維持し、学生の約 81%が広島県出身で占める本学ではあるが、これからの学生確保に向けて一層魅力的な大学づくりを行うことが、今後の最大の課題であるといえよう。

(2)-1 大学全体の取り組み

① 「地域イノベーションコース」「グローバルコース」の新設

平成 26 年度より、専門性を活かしながら持続可能なコミュニティの発展に能動的に寄与できる人材、地域課題の発見を通して新たな価値を創造できる人材を養成するための「地域イノベーションコース」とグローバルな視野を持ちながら地域に根ざして活躍できる人材を養成する「グローバルコース」を全学部対象にスタートさせた。「地域イノベーションコース」には 252 名の学生が履修登録している。また、「グローバルコース」については、入試出願時希望者 724 名、内入学者実数 217 名の中から 29 名を選考したが、その TOEIC 平均値は 549 であった。

② 「地(知)の拠点 (COC) 整備事業」の発展

本学は平成 25 年に COC に採択され、上記「地域イノベーションコース」を含む「イノベーションブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト」に取り組んでいる。今後も「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業～地(知)の拠点 COC プラス～」等に積極的に参画し、地方大学等への進学、地元企業への就職など地元学生定着促進に貢献していきたい。

③ 高大連携事業の強化

広島県備北地区の高校と本学をインターネット回線で結び、双方向で行う高大連携遠隔授業や「はばたけ未来に向けて～大学での学びと私たちの未来～」などの高校生向けの公開講座などを積極的に実施し、大学の学びを理解するとともに本学の様子を高校生が知る機会を提供している。

④ 奨学金制度・スカラシップ制度の充実

奨学金制度については、学生支援機構奨学金以外に本学独自の 8 種(貸与 3, 給付 5)の奨学金制度を整備して学生の学びを支援するとともに学業、課外活動、資格取得、国際交流に関するスカラシップ(給付)も充実させている。

⑤ 社会的ニーズに応じた大学づくり

保護者や高校生の関心が職業や資格志向に移行していることに対応して、平成 28 年には幼児期から青年期にわたる複数の教員免許や資格が取得できる教育学科、平成 29 年には臨床心理士を養成する心理学科及び管理栄養士を養成する管理栄養学科の 2 学科で構成する健康科学部の設置を決定して準備に取りかかっている。

また、人口減少とグローバル化に対応する国際系・政策系・環境系の新学部新学科設置の検討にも入っている。

(2)-2 教育学科の取り組み

① 教育学科の魅力のアピール

幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、中学校教諭、高校教諭、特別支援学校教諭の免許・資格課程を置き、3 つのコース制によって、今日要請されている学校段階間を繋ぐ、あるいは特別支援教育を充実させる 2 種類の免許取得を保障する学科は他にあまり例を見ない。

この魅力をしっかり強調して広報し、学生の確保に努める。

② 複数の多様な入試による学生確保

AO インターアクション入試、公募推薦入試、指定校推薦入試、一般入試(前期 A 日程、前期 B 日程、前期 C 日程、後期日程) 大学入試センター試験利用入試(前期日程、後期日程) 一般・センター併用入試、社会人入試、外国人留学生入試の複数の多様な入試を行い、教育学科のアドミッションポリシーに基づいた学生の確保に努める。

③ 広島修道大学附属鈴峯女子高等学校からの内部推薦枠の設定

合併により附属の女子高等学校が誕生する。そこで①の入試に加え、附属高校からの内部推薦枠を設定し、一定の優秀な女子学生を確保する。

④ 少人数教育によるきめ細かな教育

教育学科は13名の専任教員と4名の教職課程担当教員の17名のスタッフで運用するので、少人数教育によるきめ細やかな教育が可能となる。たとえば、1年生から4年生まで、教育調査演習、教育研究演習Ⅰ・Ⅱ、教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの各演習を必修としている。特に、2年次の教育研究演習と3年・4年次の教育学演習は14クラスを開設して、平均7名の少人数指導で、教育に関する幅広い事象について学問的に読む・書く・聴く・議論する・解析する総合力や主体的に学ぶ力を確実に付けていく。この他、各種の丁寧な教育の取り組みを通して確実な教育成果をあげ、一層の学生の確保に繋げる。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の要請に関する目的その他の教育研究上の目的

教育学科は、『人間の発達と形成』に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行い、現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と教育実践力を備えた人材を養成することを目的とする。

また、教育学科は教員養成を主たる目的とする学科である。そこで、教育学科の教員養成に対する理念・構想として以下の4点をあげる。なお、以下に記す「教育者」とは、保育所、幼稚園・小学校をはじめとした学校教員及び家庭・職場・地域社会にあって教育的な責任を果たす社会人を指す。

① 社会の幅広い教育的ニーズに対応できる教育者の育成

平成26年7月3日、教育再生実行会議は「今後の学制等のあり方について」と題する第5次提言を公にした。そこでは、「子供の発達に応じた教育の充実、様々な挑戦を可能にする制度の柔軟化など、新しい時代にふさわしい学制を構築する」ことが掲げられ、具体的には「全ての子供に質の高い幼児教育を保障するため、無償教育、義務教育の期間を見直

す」こと、「小中一貫教育を制度化するなど学校段階間の連携、一貫教育を推進する」こと、さらには、「発達障害児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒に対して、きめ細かい指導や社会的自立に向けた支援を行う」ことを求められている。これらを受けて複数学校種の免許状取得を促進するための免許制度の改革などが進行している。

こうした社会の教育的ニーズの変化や広がりに対応できる人材の養成のため、教育学科では、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、特別支援学校教諭一種免許状、保育士資格及び社会教育主事任用資格の各課程を設置し、複数免許・資格を学生に取得させることをめざす。学生は2年次より、□幼児期から児童期への子どもたちへの教育的働きかけに重点を置いて学ぶ初等教育コース、□思春期・青年期を視野に入れた児童・生徒への教育的働きかけを重点に学ぶ学校教育コース、□人間に対する理解を高めるとともに、自らのキャリア形成に活かしていくために教育学を深く学ぶ教育科学コースに分かれて、複数免許の取得を目指すことになる(コースの定員は設けない)。複数免許とは、初等教育コースでは幼稚園＋小学校、保育士＋幼稚園、幼稚園＋特別支援学校、小学校＋特別支援学校、学校教育コースでは小学校＋中学校、中学校＋高校、小学校＋特別支援学校、中学校＋特別支援学校、高校＋特別支援学校、教育科学コースでは中学校＋高校、中学校＋特別支援学校、高校＋特別支援学校のいずれかの組み合わせである。

② 個性的・自律的な教育者の養成

平成9年の教員養成審議会第一次答申には、教員に求められる資質・能力として、「得意分野を持つ個性豊かな教員」があげられている。言うまでもなく、得意分野や個性は教員としての基本的な知識・技能が修得されたうえで実現されるべきものである。そこで、認定を受けようとする課程の「教科に関する科目」では内容知の修得を前面に出し、学士課程教育にふさわしい幅広く基礎的な知識・技能の修得を図っていく。また、すべての学生に20単位以上の教育学専門科目の履修を義務づけ、広く教育学的識見を有することを保障する。加えて、文科系総合大学としての強みを活かし、幅広く開講されている科目の履修を奨励していく。

こうして、幅広い知識や技能の確実な定着を図るとともに、従来から力を入れてきた初年次からの少人数の演習形態の授業を継続させ、担当教員の面接指導や学生の自己評価、学生同士の相互評価によって学修成果の振り返りを定期的に行っていくなど、評価方法にも工夫をこらし、幅広い学修をとおした自己理解の伸長をめざす。

③ 他者や環境に配慮できるコミュニケーション能力を備えた教育者の育成

「個性豊かな教員」とは、自らが個性的であるとともに、児童生徒に個性を見出し、その可能性の発現のために助力できる存在でなければならない。そのためには、児童生徒の保護者や地域社会と適切な関係をもつことができるようになることが求められ、他者や多

様な環境の独自性に配慮できる態度と主体的かつ共感的に関わることのできるコミュニケーション能力が必要となる。

前述能力の育成のために本学は、誕生から成熟、死に至る生涯学習の視点と家庭・学校・社会に関わる社会的視点から教育課程を組織し、幅広くバランスのとれた教育学的教養を提供する。各教科の指導法に関する科目については内容の充実を図り、模擬授業の機会を増やし、学生が相互に授業分析を行うことを教育内容に盛り込んでいく。また、卒業の為の必修科目である英語科目はもとより、英語以外の言語や国際理解に関して開講されている様々な科目の履修及び海外セミナー等の異文化体験を奨励するほか、小学校課程の外国語活動の必修化に対応した科目を設けるなど、地球的視野の育成を図る。さらに、10人程度の少人数で行われる演習、各種インターンシップ、教育実習、社会教育実習、その他のボランティア活動をとおして多面的なコミュニケーション能力の育成をめざす。その他、本学は、地域密着型の大学として地域社会との交流を推進し、それらの活動への参加も促していく。

教育現場における体験を通した学修に関しては、教育学専攻は、平成18年度から広島市教育委員会との連携事業「大学生による学校支援活動」として学校教育インターンシップを実施、保育学科は、文部科学省の補助事業の採択を受け、「広島西部子育て文化研究センター」を設け、幼稚園・保育所・児童館等においてボランティア活動を実施、高い評価を得てきた。教育学科においても、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、これらの活動の集約化と充実を図っていく。

教育実習については、複数の担当教員によって効果的な実施を期していく。4年次後期に必修とする「教職実践演習」においては、4年間の学修成果を担当教員が厳格に評価するとともに、学生同士のピア・レビューを行っていく。

4年次修了時には、「卒業研究」を必修とし、公開発表会を行い、ディプロマ・ポリシーの達成度から成績評価を行い、教育の質を確保する。

④ 生涯にわたって研究と修養に励むことのできる教育力を備えた教育者の養成

本学は、『中庸』の一節を「天はすべての人にそれぞれ個性を与えた。その個性を伸ばしていくのが人間の生きる道である。そしてこの道をわかりやすく説くことが教育である。」と解釈している。これは本学教職員が果たすべき責任を示すものであるが、教育学科で学ぶ学生にも求められるべき資質・能力であるといえる。21世紀を迎え、社会と学問の変化はさらに激しさを増している。こうした状況にあって、教育者としての責任を果たし続けるためには、生涯にわたって研究と修養に励むことのできる態度と資質が不可欠である。「個性を伸ばしていくのが人間の生きる道である」というとき、それは生涯発達の全過程を意味する。平成9年の教員養成審議会第一次答申にも「教科等に関する専門的知識及び技能の教授に当たっては、単にそれぞれの学問分野の研究成果や特定の技能の修得にとどまらず、教職に就いてから後も、社会の変化や学問研究の進展等に自ら対応し、自立的に学

習を進めることができる基礎的な能力を養うことが、特に求められる。」と記されている通りである。「学び続ける教員像」の確立は、教員養成の今日的課題である。

生涯にわたって自ら問題を発見し、その解決に向かって、他者と協働的にとりくむことのできる態度と資質の育成は容易なものではない。しかし、上記の学士課程教育にふさわしい幅広く基礎的な知識・技能を確実に修得させていくことは、生涯にわたって持続する学習力を高めることに通じると考える。

(2) 人材需要の見通し

(2)-1 人材需要アンケート調査の結果(幼稚園・保育所等)

教育学科の卒業生の人材需要の見通しを測定するために、平成 26 年 9 月に、広島県及び山口県東部の幼稚園、保育所、認定子ども園、児童養護施設、病児保育園など計 756 カ所を対象として人材需要アンケート調査を行い、269 カ所(回収率 35.6%)から回答を得た。

短期大学で取得できる幼稚園教諭免許や保育士資格を 4 年生大学で取得した学生に、幼稚園や保育所等がどの程度、採用の意向を持っているかの見通しを探ってみた。以下がその結果である。

- ① 6 割以上の施設等で 4 年生大学卒の幼稚園教諭・保育士が勤務し、採用幅は拡大傾向にある。(報告書 p.33)
- ② 平成 27 年 4 月 1 日の「子ども・子育て新支援制度」の開始を控え、幼稚園教諭免許状・保育士資格の両方を持つものが不足気味である。(報告書 p.34)
- ③ 回答施設の半数近くが教育学科卒業生に採用意欲を示し、118 人の採用数が示された。(報告書 p.36)

上記アンケート調査結果からは、幼稚園、保育所等では人材需要の見通しが立つと考えられる。

また、厚生労働省は平成 27 年 1 月に「保育士確保プラン」を公表し、その中で、保育の質の充実のために平成 29 年度までに新たに 6.9 万人の保育士が必要となること、平成 30 年以降も継続的に保育士確保に取り組むことを述べている。一方、「子ども・子育て新支援制度」の下で、幼稚園と保育所の両機能を持つ認定子ども園の新設や既存の保育所、幼稚園からの認定子ども園への移行が、積極的に政策誘導されることを考えると、幼稚園教諭、保育士の養成は今後の社会のニーズに対応するものであることを確信している。

(2)-2 教員の需要見通し

(2)-2-1 近年の教員採用試験の結果

中国・四国地方の平成 24 年度から 26 年度までの 3 カ年の教員採用試験の結果を概観してみる。表 4 は小学校、表 5 は中学校、表 6 は高等学校、表 7 は特別支援学校の採用試験結果である。いわゆる「団塊の世代」の教員の退職に伴って全般的に採用数は伸びている。

小学校に関しては、岡山県・岡山市、広島県・広島市、山口県では3桁の採用があり好調である。中学校社会科については、岡山県・岡山市、広島県・広島市、山口県、香川県で2桁の採用が見られる。高等学校地歴科には、広島県・広島市で2桁の採用があるが鳥取県のように募集のない県も見られる。特別支援学校では、全ての県で2桁の採用がある。

同3カ年の、広島修道大学教員採用候補者選考試験結果は次の通りである。

広島修道大学教員採用候補者選考試験結果(過去3年間)

年度	受験校種・職種		合格者	
			卒業見込	既卒者
2012	小学校		4	8
	中学校	英語	1	3
		社会		5
	高等学校	英語	1	3
		地理・歴史		1
		公民		
		商業		1
	特別支援学校	情報		
	計		6	21
2013	小学校		6	6
	中学校	英語	1	3
		社会		4
	高等学校	英語	2	1
		地理・歴史	1	
		公民		
		商業		
	特別支援学校			2
	計		10	16
2014	小学校		12	11
	中学校	英語	2	5
		社会	1	3
		数学		1
	高等学校	英語		1
		地理・歴史		1
		公民		
		商業		
	特別支援学校			3
	計		15	25

※データは主に広島県・広島市採用試験結果。県外採用試験に関しては自己申告人数を計上。2013年度までの小学校免許は聖徳大学とのプログラムにて取得。

(2)-2-2 今後の教員の需要見込み

教育学科が完成年度を迎える平成31年度以降の教員の需要見通しを得るために、平成22年度学校教員統計調査に基づいて、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援教育学校の各教員退職者数(公私立合計)について予測した。

表8が幼稚園(公私立)、表9が小学校(公立)、表10が中学校(公立)、表11が高等学校(公私立)、表12が特別支援学校(公立)である。一方、グラフ2～6は、平成31年度の各教員退職者数を100として、以降の増減推移を表している。グラフ2が幼稚園、グラフ3が小学校、グラフ4が中学校、グラフ5が高等学校、グラフ6が特別支援学校である。

幼稚園(公私立)の教員退職者に関しては、平成30年まで緩やかに増加し、平成31年度に減少して後横ばいとなり、平成48年度より全国、広島県ともに急激に増加する。先に述べた「子ども・子育て新支援制度」の展開とともに、今後一定の教員需要が継続するとみることができる。

小学校の教員退職者は、全国では平成29年度をピークに平成39年度に平成24年度のレベルまで落ち、その後も減少を続ける。

中学校の教員退職者は、全国では平成32年度にピークを迎え、その後減少していき、平成46年度には平成24年度と同程度になる。広島県は全国に比べて減少率が高い。また、四国地方のピークは平成33年度であり、平成35年度まで平成31年度の退職者数を上回る。

高等学校の教員退職者は、全国では平成34年度にピークを迎えその後減少するが平成37

年度までは平成 31 年度の退職者数を上回る。四国地方の減少率は平成 38 年度にいったん減少するが、その後は平成 47 年度まで平成 31 年度を上回る退職者があり、その後減少していく。

特別支援学校の退職教員者は、全国では平成 35 年度、広島県は平成 31 年度をピークに減少する。中国地方や四国地方ではピークはそれぞれ平成 32 年度、平成 35 年度であり、平成平成 38 年度までは平成 31 年度を上回る退職者があることが分かる。特別支援学校については、特別支援教育の重要性が認識される中で、教育再生実行会議が「教師が特別支援教育に関する知識・技能を身につけることができるよう、特別支援学校の教師は必須化も視野に入れ、特別支援学校免許状の取得を促進する。」としている。このような政策が今後浸透していけば、長期にわたり一定の教員需要が期待できるともいえる。

小学校、中学校、高等学校の教員の今後の需要の見込みに関しては、教育学科の第 1 期生が就職する平成 31 年から平成 24 年と同程度の退職者数に減少するまで、全国で見ると、小学校で約 8 年、中学校で 15 年、高等学校で 7 年程度しかない。子どもの人口動態から考えても、教育委員会が教員構成のバランスを取るために一定数の教員を採用したり、教職員定数法が改定されたり、自治体レベルで少人数教育政策が促進されたりしない限り、その教員需要の増加を期待することは難しいのが現実であると言える。幸い、広島市では「少人数教育推進のための段階的プラン」が平成 16 年に公表されている。その目的は「小学校・中学校で概ね 20 人程度の少人数学級による教育を行うこととし、その実現に向けて計画的・段階的に取り組むため、第一段階として、小学校低学年を概ね 20 人程度の学級とし、その他を概ね 30 人程度の学級編制とすること」である。現在、段階的プランの第一期が終了し、小学校 1 年生から中学校 1 年生までのすべての学級が 35 人以下であることが実現している。このプランの最終目標は、小学校、中学校のすべてを 20 人程度のクラスにすることである。第 2 期の段階的プランの提示はまだなされていないが、地域貢献を設置理念とする教育学科では、その早期の展開に期待するものである。

このように小学校、中学校、高等学校の教員需要が減少する傾向の中で、本学教育学科が一定の社会貢献を果たしていくための方策として考えているのが、これまで何度も述べた社会のニーズに応えていくための意味のある複数免許状取得の奨励である。

初等教育コース、学校教育コース、教育科学コースの 3 コースを通じて、児童理解のできている保育士・幼稚園教諭、乳幼児理解のできている小学校教諭、青年期理解のできている小学校教諭、児童理解のできている中学校・高等学校教諭の養成を目指す。このことは小 1 プロブレムや中 1 ギャップの問題に見られる学校段階連携の課題解決に貢献するとともに、認定子ども園、中等教育学校、中学校・高等学校一貫校、構想中の小中一貫教育学校(仮称)、小中一貫型小学校・中学校(仮称)の教員需要に応えるものである。また、小学校免許を基礎とする特別支援学校教諭免許取得者が全国的に多い中で、それに加えて幼稚園教諭免許、中学校教諭免許、高等学校教諭免許のそれぞれを基礎とした特別支援学校教諭の免許状を取得させることにより、特別支援教育分野で活躍できる人材を輩出したい。

このことは、これからの教員需要が減少する中でも、本学教育学科がその存在意義を示すことができる点であると確信している。

教育学専攻の合格者平均偏差値

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
代々木ゼミ	53.7	53.2	54.5
ベネッセ	54.9	55.4	55.2

上記の表は、教育学専攻の過去3年間の偏差値の推移である。(1)-2 高校生アンケート調査の結果からすると、教育学科になっても同等あるいはそれ以上の偏差値を有する学力の高い学生を確保することができると考えている。加えて、教育学科担当教員17名の丁寧な少人数教育の下、次のような取り組みや選択科目の履修等を通して学生に付加価値をつけ、教育界に有為な人材を送り出していく。教員採用状況が厳しくなっても、教育委員会が求める質の高い人材養成を行い、確実に合格者を出していきたい。

① 教職フォーラム

有識者の講演を聴き、初等、中等教育現場で活躍するOB・OG教員と教職をめざす学生との交流を通して、教職をめざす学生の資質能力の一層の向上と意欲喚発とを目指すものとして平成18年度から毎年開催している。(参加者：平成25年度96名、平成26年度83名)

② 大学生による学校支援活動

広島市立、廿日市市立及び呉市立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校で各教科・領域や部活動の指導補助など各園・校が必要とする教育活動の支援活動を行うことにより、実際の教育現場に関する理解を深め、教育学理論との接合を目指す。原則1年間を通じて行うが、学生によっては3年間続ける者もいる。(参加者：平成25年度43名、平成26年度58名)

③ 教職課程学習室での自主学習

教科書、参考書、問題集及びこれまで蓄積された採用試験に関する諸資料が整備された教職課程学習室は朝9時から夜10時まで、教員採用試験を受ける学生たちが利用する。複数のグループを作り、自主的に勉強会等を企画し切磋琢磨している。そこを巣立ったOB・OG教員も日曜日などに自ら訪れ、学生たちの疑問に答えたり指導を行う伝統が確立している。

④ 学内での教育採用試験受験対策模擬試験の実施

年に3回、東京アカデミーの教育採用試験受験対策模擬試験を学内で実施している。学生は、それらの試験結果を参考に自分の学力を客観的に把握し、採用試験に向けての各自の学習計画を立てている。

⑤ 教育学特論

教育学特論Ⅰ(教職教養研究)、教育学特論Ⅱ(教科内容研究)、教育学特論Ⅲ(体育実技指導研究)、教育学特論Ⅳ(ひろしまの教育)、教育学特論Ⅴ(野外活動指導法)、教育学特論

VI(絵画表現)、教育学特論Ⅶ(レクリエーション)、教育学特論Ⅷ・Ⅸ(音楽理論とピアノ実技)、教育学特論Ⅹ(発声法)等の選択履修を通して、教師としての付加価値をつける。

(2)-3 人材需要アンケート調査の結果(企業・団体等)

教育学科の卒業生は、全員が教員免許・資格を取って教育現場に就職する者ばかりではなく、免許・資格を取って一般就職する者、教育学のみを学問として深く研究して一般就職する者、大学院へ進学する者などがいる。そこで、広島修道大学卒業生の採用実績がある広島県内を中心とした中国・四国地方の企業・団体など計 609 カ所に人材需要アンケート調査を依頼し、教育学科卒業生の採用意向について、その見通しを確かめた。回収率は 39.1% であり、幅広い業種にわたる様々な規模の企業・団体 238 カ所から回答を得ることができた。調査結果は以下の通りである。

- ① 一般企業の採用においては出身学部・学科よりも、社会的基礎力を重視する傾向がある。(報告書 p.49)
- ② 7 割が広島修道大学の卒業生を定期的に採用し、4 割以上が「教育学科」の必要性を認めている。(報告書 p.49)
- ③ 3 割以上が「教育学科」卒業生に採用意欲を示し、採用可能人数の合計は 105 人、「採用したい」のみに限っても 54 人であった。採用意欲を示しながらも人数未提示だった事業所が 33 カ所を含めると、更なる人材需要があると推察される。(報告書 p.50)

以上のように、これまでの広島修道大学卒業生の社会的評価にも助けられながら、一般就職に関しても、人材需要の見通しは十分にあると考えられる。

資料目次

表 1 . . . 中国地方の教育系学部・学科における志願状況（平成 23 年度～平成 26 年度）
表 2 . . . 中国地方の教育系学部・学科における定員充足状況（平成 23 年度～平成 26 年度）
表 3 . . . 都道府県別の人口推移（18 歳人口）
表 4 . . . 中国・四国地方 教員採用試験（小学校）結果（平成 24～26 年度）
表 5 . . . 中国・四国地方 教員採用試験（中学校）結果（平成 24～26 年度）
表 6 . . . 中国・四国地方 教員採用試験（高校）結果（平成 24～26 年度）
表 7 . . . 中国・四国地方 教員採用試験（特別支援学校）結果（平成 24～26 年度）
表 8 . . . 幼稚園（公私立）年齢別・退職年別教員数
表 9 . . . 小学校（公立）年齢別・退職年別教員数
表 10 . . . 中学校（公立）年齢別・退職年別教員数
表 11 . . . 高校（公私立）年齢別・退職年別教員数
表 12 . . . 特別支援学校（公立）年齢別・退職年別教員数

グラフ 1 . . . 広島修道大学教育専攻の志願・定員充足状況
グラフ 2 . . . 幼稚園（公私立）平成 31 年を 100 とした場合の退職教員数の推移
グラフ 3 . . . 小学校（公立）平成 31 年を 100 とした場合の退職教員数の推移
グラフ 4 . . . 中学校（公立）平成 31 年を 100 とした場合の退職教員数の推移
グラフ 5 . . . 高校（公私立）平成 31 年を 100 とした場合の退職教員数の推移
グラフ 6 . . . 特別支援学校（公立）平成 31 年を 100 とした場合の退職教員数の推移

広島修道大学「人文学部教育学科（仮称）」新設に係るニーズアセスメント調査 報告書

1章 学生確保の見通し調査【新設構想についての高校生アンケート調査】結果
2章 人材需要の見通し調査①【新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）】結果
3章 人材需要の見通し調査②【新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）】結果
【添付①】「新設構想についての高校生アンケート調査」
【添付②】「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」
【添付③】「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」

表1 中国地方の教育系学部・学科における志願状況（平成23年度～平成26年度）

番号	大学名	学部名	学科・専攻名	所在地	設置 区分	設置 年度	入学 定員	入試別	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			
									志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	
1	鳥取大学	地域学部	地域教育学科	鳥取県	国立	1949	49	一般	291	54	5.4	244	53	4.6	176	54	3.3	285	55	5.2	
								推薦・AO	41	6	6.8	31	4	7.8	26	4	6.5	19	2	9.5	
								合計	332	60	5.5	275	57	4.8	202	58	3.5	304	57	5.3	
2	島根大学	教育学部	学校教育課程	島根県	国立	1949	170	一般	475	118	4.0	375	127	3.0	625	129	4.8	295	127	2.3	
								推薦・AO	148	61	2.4	126	57	2.2	150	56	2.7	129	54	2.4	
								合計	623	179	3.5	501	184	2.7	775	185	4.2	424	181	2.3	
3	岡山大学	教育学部	学校教育教員養成課程	岡山県	国立	1949	250	一般	404	177	2.3	331	170	1.9	429	174	2.5	341	171	2.0	
								推薦・AO	273	87	3.1	272	90	3.0	251	88	2.9	258	93	2.8	
								合計	677	264	2.6	603	260	2.3	680	262	2.6	599	264	2.3	
4	広島大学	教育学部	第一期(学校教育系)	広島県	国立	1949	180	一般	525	174	3.0	396	176	2.3	482	192	2.5	415	184	2.3	
								推薦・AO	50	17	2.9	52	15	3.5	64	1	64.0	40	9	4.4	
								合計	575	191	3.0	448	191	2.3	546	193	2.8	455	193	2.4	
5	福山市立大学	教育学部	児童教育学科	広島県	公立	2011	100	一般	925	107	8.6	730	104	7.0	897	114	7.9	623	109	5.7	
								推薦・AO	122	10	12.2	104	11	9.5	91	11	8.3	117	10	11.7	
								合計	1,047	117	8.9	834	115	7.3	988	125	7.9	740	119	6.2	
6	山口大学	教育学部	学校教育教員養成課程	山口県	国立	1949	130	一般	309	116	2.7	316	115	2.7	348	115	3.0	350	117	3.0	
								推薦・AO	155	25	6.2	170	29	5.9	184	29	6.3	148	29	5.1	
								合計	464	141	3.3	486	144	3.4	532	144	3.7	498	146	3.4	
7	環太平洋大学	次世代教育学部	子ども発達学科 ^{※1}	岡山県	私立	2007	80	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
								推薦・AO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
								合計	98	98	1.0	87	88	1.0	101	88	1.1	-	-	-	
8	吉備国際大学	心理学部	子ども発達教育学科	岡山県	私立	2007	40	一般	20	17	1.2	25	22	1.1	35	27	1.3	37	23	1.6	
								推薦・AO	12	12	1.0	24	24	1.0	27	26	1.0	26	25	1.0	
								合計	32	29	1.1	49	46	1.1	62	53	1.2	63	48	1.3	
9	くらしき作陽大学	子ども教育学部	子ども教育学科	岡山県	私立	2008	110	一般	205	49	4.2	150	93	1.6	185	105	1.8	257	118	2.2	
								推薦・AO	122	76	1.6	108	56	1.9	108	88	1.2	133	94	1.4	
								合計	327	125	2.6	258	149	1.7	293	193	1.5	390	212	1.8	
10	就実大学	教育学部	初等教育学科	岡山県	私立	2011	75	一般	428	147	2.9	400	149	2.7	465	127	3.7	479	148	3.2	
								推薦・AO	200	55	3.6	216	52	4.2	213	51	4.2	214	56	3.8	
								合計	628	202	3.1	616	201	3.1	678	178	3.8	693	204	3.4	
11	中国学園大学	子ども学部	子ども学科	岡山県	私立	2006	70	一般	53	53	1.0	48	43	1.1	93	29	3.2	67	36	1.9	
								推薦・AO	50	50	1.0	70	68	1.0	90	84	1.1	121	73	1.7	
								合計	103	103	1.0	118	111	1.1	183	113	1.6	188	109	1.7	
12	ノートルダム清心女子大学	人間生活学部	児童学科	岡山県	私立	1996	120	一般	573	208	2.8	441	181	2.4	461	181	2.5	435	181	2.4	
								推薦・AO	115	45	2.6	109	54	2.0	125	46	2.7	111	46	2.4	
								合計	688	253	2.7	550	235	2.3	586	227	2.6	546	227	2.4	
13	美作大学	生活科学部	児童学科	岡山県	私立	1967	80	一般	142	71	2.0	142	59	2.4	167	58	2.9	89	64	1.4	
								推薦・AO	96	77	1.2	119	76	1.6	150	82	1.8	127	75	1.7	
								合計	238	148	1.6	261	135	1.9	317	140	2.3	216	139	1.6	
14	比治山大学	現代文化学部	子ども発達教育学科	広島県	私立	1994	70	一般	245	85	2.9	270	84	3.2	274	114	2.4	271	104	2.6	
								推薦・AO	170	58	2.9	159	61	2.6	106	49	2.2	67	34	2.0	
								合計	415	143	2.9	429	145	3.0	380	163	2.3	338	138	2.4	
15	広島修道大学	人文学部	人間関係学科 教育学専攻	広島県	私立	1973	50	一般	774	161	4.8	732	171	4.3	705	216	3.3	654	184	3.6	
								推薦・AO	36	15	2.4	26	16	1.6	19	12	1.6	33	14	2.4	
								合計	810	176	4.6	758	187	4.1	724	228	3.2	687	198	3.5	
16	広島女学院大学	人間生活学部 ^{※2}	幼児教育心理学科	広島県	私立	2012	90	一般	276	127	2.2	186	118	1.6	220	111	2.0	173	108	1.6	
								推薦・AO	56	50	1.1	69	50	1.4	63	57	1.1	64	62	1.0	
								合計	332	177	1.9	255	168	1.5	283	168	1.7	237	170	1.4	
17	広島都市学園大学	子ども教育学部	子ども教育学科	広島県	私立	2014	80	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
								推薦・AO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
								合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
18	広島文化学園大学	学芸学部	子ども学科	広島県	私立	2010	80	一般	62	58	1.1	89	75	1.2	92	86	1.1	89	83	1.1	
								推薦・AO	45	45	1.0	47	47	1.0	59	59	1.0	69	65	1.1	
								合計	107	103	1.0	136	122	1.1	151	145	1.0	158	148	1.1	
19	広島文教女子大学	人間科学部	初等教育学科	広島県	私立	2000	100	一般	393	170	2.3	332	170	2.0	403	163	2.5	313	192	1.6	
								推薦・AO	85	73	1.2	71	61	1.2	109	83	1.3	94	76	1.2	
								合計	478	243	2.0	403	231	1.7	512	246	2.1	407	268	1.5	
20	福山平成大学	福祉健康学部	子ども学科 ^{※3}	広島県	私立	2004	50	一般	176	140	1.3	125	108	1.2	178	140	1.3	196	142	1.4	
								推薦・AO	25	21	1.2	26	21	1.2	45	26	1.7	36	25	1.4	
								合計	201	161	1.2	151	129	1.2	223	166	1.3	232	167	1.4	
21	安田女子大学	教育学部	児童教育学科 ^{※4}	広島県	私立	2012	110	一般	712	157	4.5	467	171	2.7	568	206	2.8	566	201	2.8	
								推薦・AO	221	66	3.3	167	62	2.7	207	67	3.1	182	66	2.8	
								合計	933	223	4.2	634	233	2.7	775	273	2.8	748	267	2.8	
22	東亜大学	人間科学部	心理臨床・ 子ども学科 ^{※5}	山口県	私立	2007	40	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
								推薦・AO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
								合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
23	梅光学院大学	子ども学部	子ども未来学科	山口県	私立	2005	80	一般	63	56	1.1	62	58	1.1	112	105	1.1	99	80	1.2	
								推薦・AO	31	29	1.1	15	15	1.0	51	51	1.0	63	62	1.0	
								合計	94	85	1.1	77	73	1.1	163	156	1.0	162	142	1.1	
24	山口学芸大学	教育学部	子ども教育学科	山口県	私立	2007	60	一般	115	72	1.6	-	-	-	168	94	1.8	183	93	2.0	
								推薦・AO	29	24	1.2	-	-	-	-	-	-	28	23	1.2	
								合計	144	96	1.5	-	-	-	168	94	1.8	211	116	1.8	
合計								2,264	一般	7,166	2,317	3.1	5,861	2,247	2.6	7,083	2,540	2.8	6,217	2,520	2.5
								推薦・AO	2,082	902	2.3	1,981	869	2.3	2,138	970	2.2	2,079	993	2.1	
								合計	9,344	3,315	2.8	7,974	3,247	2.5	9,371	3,646	2.6	8,338	3,555	2.3	

※「-」は非公表、斜線は未設置を示す。

(※1) 平成24年、乳幼児教育学科が名称変更。

(※2) 平成24年、文学部と生活科学部を国際教育学部と人間生活学部の2学部へ改組。

(※3) 入試結果は、こども学科以外の他2学科を含む福祉健康学部全体の結果。

(※4) 平成24年、文学部児童教育学科を改組。

(※5) 平成24年、人間社会学科を心理臨床・子ども学科と国際交流学科へ改組。

表2 中国地方の教育系学部・学科における定員充足状況（平成23年度～平成26年度）

番号	大学名	学部名	学科名	所在地	設置 区分	設置 年度	入学 定員	収容定員	学生数	定員充足率	備考
1	鳥取大学	地域学部	地域教育学科	鳥取県	国立	1949	49	196	236	120.4%	平成26年5月1日現在
2	島根大学	教育学部	学校教育課程	島根県	国立	1949	170	680	715	105.1%	平成26年5月1日現在
3	岡山大学	教育学部	学校教育教員養成課程	岡山県	国立	1949	250	1,000	1,074	107.4%	平成26年5月1日現在
4	広島大学	教育学部	第一類（学校教育系）	広島県	国立	1949	180	1,980	2,148	108.5%	平成26年5月1日現在 教育学部全体の結果
5	福山市立大学	教育学部	児童教育学科	広島県	公立	2011	100	400	410	102.5%	平成26年5月1日現在
6	山口大学	教育学部	学校教育教員養成課程	山口県	国立	1949	130	520	562	108.1%	平成26年5月1日現在
7	環太平洋大学	次世代教育学部	こども発達学科※1	岡山県	私立	2007	80	340	305	89.7%	平成26年5月1日現在 平成24年、100名から入学定員減
8	吉備国際大学	心理学部	子ども発達教育学科	岡山県	私立	2007	40	160	129	80.6%	
9	くらしき作陽大学	子ども教育学部	子ども教育学科	岡山県	私立	2008	110	420	428	101.9%	平成26年5月1日現在
10	就実大学	教育学部	初等教育学科	岡山県	私立	2011	75	310	359	115.8%	平成26年5月1日現在
11	中国学園大学	子ども学部	子ども学科	岡山県	私立	2006	70	300	334	111.3%	平成26年5月1日現在
12	ノートルダム清心 女子大学	人間生活学部	児童学科	岡山県	私立	1996	120	480	587	122.3%	平成26年5月1日現在
13	美作大学	生活科学部	児童学科	岡山県	私立	1967	80	840	959	114.2%	平成26年5月1日現在 生活科学部全体の結果
14	比治山大学	現代文化学部	子ども発達教育学科	広島県	私立	1994	70	300	328	109.3%	平成26年5月1日現在
15	広島修道大学	人文学部	人間関係学科 教育学専攻	広島県	私立	1973	50	200	249	124.5%	平成26年5月1日現在
16	広島女学院大学	人間生活学部※2	幼児教育心理学科	広島県	私立	2012	90	270	273	101.1%	平成26年5月1日現在 収容定員は3学年分
17	広島都市学園大学	子ども教育学部	子ども教育学科	広島県	私立	2014	80	80	16	20.0%	平成26年5月1日現在
18	広島文化学園大学	学芸学部	子ども学科	広島県	私立	2010	80	340	322	94.7%	平成26年5月1日現在
19	広島文教女子大学	人間科学部	初等教育学科	広島県	私立	2000	100	360	495	137.5%	平成26年5月1日現在
20	福山平成大学	福祉健康学部	こども学科	広島県	私立	2004	50	200	214	107.0%	平成26年5月1日現在
21	安田女子大学	教育学部	児童教育学科※3	広島県	私立	2012	110	330	365	110.6%	平成26年5月1日現在 収容定員は3学年分
22	東亜大学	人間科学部	心理臨床・ 子ども学科※4	山口県	私立	2012	40	120	86	71.7%	平成26年5月1日現在 収容定員は3学年分
23	梅光学院大学	子ども学部	子ども未来学科	山口県	私立	2005	80	330	287	87.0%	平成26年5月1日現在
24	山口学芸大学	教育学部	子ども教育学科	山口県	私立	2007	60	250	270	108.0%	平成26年5月1日現在
合計							2,264	10,406	11,151	107.2%	

（※1）平成24年、乳幼児教育学科から名称変更。

（※2）平成24年、文学部と生活科学部を国際教養学部と人間生活学部の2学部へ改組。

（※3）平成24年、文学部児童教育学科を改組。

（※4）平成24年、人間社会学科を心理臨床・子ども学科と国際交流学科へ改組。

表3 都道府県別の人口推移(18歳人口)

大学進学年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度	平成41年度	平成42年度	平成43年度	平成44年度	減少率 (H28→H44)
全国	1,179,212	1,184,555	1,165,566	1,164,101	1,152,243	1,137,151	1,106,667	1,088,270	1,047,581	1,050,216	1,057,294	1,061,358	1,032,856	1,033,580	1,050,806	1,037,231	1,029,800	87.3%
北海道	48,553	47,978	46,370	45,449	45,306	45,526	43,889	43,355	40,754	40,726	41,016	40,382	39,030	39,365	39,292	38,686	38,189	78.7%
青森県	13,548	13,443	12,902	12,454	12,460	12,060	11,517	10,991	10,254	10,192	9,891	9,916	9,081	9,303	9,531	9,168	9,126	67.4%
岩手県	12,647	12,572	12,498	12,126	12,000	11,817	11,188	10,904	10,524	10,111	10,237	9,947	9,735	9,578	9,310	9,276	9,231	73.0%
宮城県	22,019	22,092	21,543	21,714	21,587	21,199	20,614	20,156	19,309	19,071	19,259	19,849	18,442	18,749	18,062	18,707	18,949	86.1%
秋田県	9,647	9,539	9,151	9,043	8,594	8,385	8,129	7,791	7,668	7,401	7,416	7,282	6,767	6,640	6,658	6,543	6,177	64.0%
山形県	11,115	10,948	10,686	10,655	10,646	10,431	9,881	9,717	9,284	9,327	9,091	9,179	8,570	8,445	8,555	8,212	8,159	73.4%
福島県	20,469	20,411	20,172	19,703	19,627	19,145	18,299	18,058	17,119	17,044	16,756	16,437	15,881	15,579	15,072	13,770	14,546	71.1%
茨城県	28,481	28,594	28,138	28,188	27,689	27,504	26,476	26,304	24,808	24,787	24,726	24,445	23,596	23,272	23,219	22,896	22,358	78.5%
栃木県	18,899	18,670	18,553	18,404	18,695	18,516	17,973	17,759	17,232	17,069	16,798	16,992	16,445	16,070	15,913	15,973	15,588	82.5%
群馬県	19,667	19,481	19,223	19,394	18,917	18,843	18,238	17,887	17,143	16,804	16,647	16,674	16,153	15,444	15,637	14,914	14,732	74.9%
埼玉県	67,210	66,782	65,693	65,695	65,141	64,595	63,077	62,016	59,903	60,302	60,371	60,322	58,667	58,050	58,059	56,943	57,470	85.5%
千葉県	54,703	54,832	54,336	54,913	54,116	54,142	53,012	52,511	50,598	50,448	50,607	51,047	49,920	49,317	50,379	48,881	48,344	88.4%
東京都	96,351	97,485	96,606	98,440	96,697	96,810	95,204	94,596	91,921	93,299	96,108	98,467	99,215	101,791	106,027	107,401	109,984	114.1%
神奈川県	81,629	81,629	80,649	81,171	80,593	79,412	78,131	77,417	74,752	75,797	76,217	77,268	75,941	76,465	76,000	75,477	74,319	92.8%
新潟県	22,594	22,626	21,536	21,644	21,049	20,535	19,485	19,574	18,467	18,684	18,614	18,244	17,442	17,576	17,667	17,476	17,066	75.5%
富山県	10,184	10,200	10,002	10,118	10,040	9,999	9,444	9,455	8,918	8,775	8,629	8,622	8,207	8,047	7,823	7,880	7,722	75.8%
石川県	11,155	11,566	11,034	11,386	11,101	10,858	10,791	10,289	10,020	9,981	10,169	10,065	9,625	9,424	9,555	9,544	9,449	84.7%
福井県	8,136	8,024	7,891	7,926	7,662	7,544	7,453	7,144	7,005	7,016	7,047	6,930	6,807	6,578	6,728	6,712	6,461	79.4%
山梨県	8,611	8,551	8,135	8,227	7,936	7,814	7,633	7,403	6,997	6,984	6,872	6,725	6,463	6,496	6,412	6,336	6,198	72.0%
長野県	21,144	21,220	20,984	20,726	20,616	20,365	19,599	19,230	18,570	18,412	18,359	18,023	17,129	16,970	16,917	16,661	16,326	77.2%
岐阜県	20,450	20,765	20,546	20,775	19,983	19,984	19,458	18,676	18,005	17,953	17,498	17,727	16,792	16,317	16,851	16,496	16,000	78.2%
静岡県	35,375	35,196	35,200	35,145	34,604	34,643	33,628	33,340	31,967	31,970	32,571	32,191	31,148	31,140	31,172	30,810	30,260	85.5%
愛知県	71,483	72,801	72,382	72,494	71,911	70,628	69,133	68,983	66,293	66,921	68,074	68,940	67,736	67,894	68,973	67,913	66,818	93.5%
三重県	17,874	17,971	17,641	17,439	17,444	17,157	16,689	16,457	15,411	15,805	15,558	15,440	15,071	14,778	15,080	14,729	14,514	81.2%
滋賀県	14,241	14,378	14,540	14,393	14,422	14,345	14,005	13,839	13,282	13,323	13,518	13,472	12,941	13,006	13,338	13,236	13,014	91.4%
京都府	23,175	23,401	23,480	23,185	22,925	22,509	22,387	21,323	21,107	21,375	21,123	21,084	20,522	20,353	20,707	20,111	20,104	86.7%
大阪府	81,321	82,666	82,615	81,482	80,355	78,824	76,073	74,721	71,562	71,748	72,462	72,913	71,101	71,845	73,919	73,012	72,053	88.6%
兵庫県	53,226	54,558	53,572	53,255	52,386	51,419	50,247	48,978	46,900	47,041	47,370	47,634	45,814	45,640	47,351	46,436	45,672	85.8%
奈良県	13,615	13,638	13,289	13,209	12,933	12,608	12,338	11,748	11,419	11,490	11,369	11,013	10,617	10,352	10,400	10,565	10,190	74.8%
和歌山県	9,759	9,775	9,397	9,449	9,092	8,801	8,566	8,043	7,747	7,724	7,724	7,411	7,660	7,310	7,144	7,460	7,424	73.0%
鳥取県	5,644	5,532	5,445	5,402	5,531	5,189	5,286	5,206	4,900	5,063	4,854	4,873	4,707	4,580	4,931	4,771	4,759	84.3%
島根県	6,630	6,536	6,404	6,476	6,550	6,250	6,089	5,951	5,847	5,757	5,822	5,721	5,422	5,574	5,582	5,585	5,534	83.5%
岡山県	18,996	18,999	18,531	18,353	18,387	18,420	17,560	17,186	16,534	16,491	16,558	16,675	16,053	16,187	16,635	16,279	16,210	85.3%
広島県	27,070	26,970	26,422	26,125	26,488	25,929	25,588	24,974	24,359	24,343	24,799	24,774	24,448	24,509	25,469	24,846	24,713	91.3%
山口県	13,111	13,281	13,053	12,911	12,921	12,758	12,158	11,869	11,582	11,448	11,364	11,347	11,147	11,030	11,222	10,797	10,705	81.6%
中国地方合計	71,451	71,318	69,855	69,267	69,877	68,546	66,681	65,186	63,222	63,102	63,397	63,390	61,777	61,880	63,839	62,278	61,921	86.7%
徳島県	7,023	7,176	6,955	7,032	6,717	6,759	6,513	6,213	5,946	5,869	5,932	5,778	5,657	5,573	5,914	5,744	5,665	80.7%
香川県	9,158	9,434	9,340	9,273	9,309	9,209	8,758	8,741	8,531	8,052	8,269	8,159	7,905	7,994	8,311	8,161	8,059	88.0%
愛媛県	13,777	13,653	13,231	13,049	12,862	12,585	12,342	12,007	11,432	11,427	11,366	11,431	11,041	11,080	11,329	11,130	10,696	77.6%
高知県	6,947	6,709	6,599	6,588	6,626	6,448	6,120	5,876	5,740	5,763	5,687	5,569	5,449	5,353	5,244	5,266	5,266	75.8%
福岡県	47,423	47,620	46,386	46,568	46,697	45,729	44,558	44,051	42,784	43,131	44,575	45,086	43,939	44,714	46,220	45,815	45,897	96.8%
佐賀県	9,031	9,150	8,727	8,752	8,763	8,283	8,075	7,983	7,681	7,583	7,689	7,777	7,280	7,347	7,613	7,440	7,276	80.6%
長崎県	14,455	14,385	13,892	13,852	13,428	13,078	12,651	12,268	11,828	12,011	11,817	11,821	11,580	11,494	11,727	11,723	11,566	80.0%
熊本県	17,791	17,462	17,233	17,040	16,745	16,395	16,123	15,599	15,582	15,781	16,158	15,755	15,714	16,118	15,996	15,954	15,945	89.7%
大分県	11,067	11,077	10,685	10,733	10,801	10,448	10,166	9,912	9,743	9,900	9,855	10,000	9,690	9,690	9,988	9,650	9,605	86.8%
宮崎県	11,660	11,351	11,027	10,940	10,937	10,703	10,256	10,184	9,760	9,831	10,148	10,097	9,783	10,037	10,152	9,858	9,854	84.5%
鹿児島県	16,904	16,551	15,831	16,038	15,844	15,875	15,409	15,085	14,656	14,656	14,723	15,096	14,570	14,745	15,244	14,841	14,637	86.6%
沖縄県	16,783	16,724	16,812	16,574	16,815	16,325	16,186	15,976	15,720	15,729	16,071	16,106	16,062	16,331	16,918	17,074	17,209	102.5%
年齢(平成36年時点)	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	

※「大学進学年度」が平成28～41年の人数は平成22年国勢調査人口等基本集計に基づく。平成24年人口動態統計月報年計(概数)に基づく。

※「大学進学年度」が平成42年の人数は平成23年人口動態統計(確定数)に基づく。合計数は海外で出生した122人を含む。

※「大学進学年度」が平成43年の人数は平成24年人口動態統計(確定数)に基づく。合計数は海外で出生した67人を含む。

※「大学進学年度」が平成44年の人数は平成25年人口動態統計月報年計(概数)に基づく。合計数は海外で出生した54人を含む。

表4 中国・四国地方 教員採用試験(小学校) 結果(平成24～26年度)

【中国】

自治体名	年度	小学校	備考
鳥取県	24	採用予定数	70
		受験者数	318
		1次合格者数	187
		最終合格者数	70
		競争率	4.5
	25	採用予定数	95
		受験者数	341
		1次合格者数	192
		最終合格者数	95
		競争率	3.6
	26	採用予定数	約85
		受験者数	312
		1次合格者数	179
		最終合格者数	85
		競争率	3.7
島根県	24	採用予定数	約70
		受験者数	369
		1次合格者数	171
		最終合格者数	74
		競争率	5.0
	25	採用予定数	約50
		受験者数	335
		1次合格者数	122
		最終合格者数	50
		競争率	6.7
	26	採用予定数	約50
		受験者数	300
		1次合格者数	126
		最終合格者数	51
		競争率	5.9
岡山県 岡山市	24	採用予定数	310
		受験者数	1,044
		1次合格者数	533
		最終合格者数	310
		競争率	3.4
	25	採用予定数	270
		受験者数	1,178
		1次合格者数	540
		最終合格者数	270
		競争率	4.4
	26	採用予定数	300
		受験者数	1,266
		1次合格者数	553
		最終合格者数	300
		競争率	4.2

自治体名	年度	小学校	備考
広島県・ 広島市	24	採用予定数	約335
		受験者数	853
		1次合格者数	400
		最終合格者数	347
		競争率	2.5
	25	採用予定数	約365
		受験者数	900
		1次合格者数	438
		最終合格者数	388
		競争率	2.3
	26	採用予定数	約375
		受験者数	966
		1次合格者数	499
		最終合格者数	390
		競争率	2.5
山口県	24	採用予定数	140
		受験者数	465
		1次合格者数	220
		最終合格者数	140
		競争率	3.3
	25	採用予定数	185
		受験者数	451
		1次合格者数	254
		最終合格者数	186
		競争率	2.4
	26	採用予定数	約195
		受験者数	425
		1次合格者数	220
		1次免除者数	53
		最終合格者数	195
		競争率	2.2

【四国】

自治体名	年度	小学校	備考
徳島県	24	採用予定数	約132
		受験者数	488
		1次合格者数	173
		最終合格者数	108
		競争率	4.5
	25	採用予定数	約148
		受験者数	528
		1次合格者数	210
		最終合格者数	109
		競争率	4.8
	26	採用予定数	約126
		受験者数	458
		1次合格者数	167
		最終合格者数	88
		競争率	5.2
香川県	24	採用予定数	約217
		受験者数	478
		1次合格者数	267
		最終合格者数	159
		競争率	3.0
	25	採用予定数	約228
		受験者数	374
		1次合格者数	250
		最終合格者数	149
		競争率	2.5
	26	採用予定数	約230
		受験者数	414
		1次合格者数	254
		最終合格者数	154
		競争率	2.7
愛媛県	24	採用予定数	約70
		受験者数	468
		1次合格者数	96
		最終合格者数	72
		競争率	6.5
	25	採用予定数	50
		受験者数	506
		1次合格者数	75
		最終合格者数	52
		競争率	9.7
	26	採用予定数	約50
		受験者数	448
		1次合格者数	78
		最終合格者数	52
		競争率	8.6

自治体名	年度	小学校	備考
高知県	24	採用予定数	約40
		受験者数	266
		1次合格者数	123
		最終合格者数	49
		競争率	5.4
	25	採用予定数	約40
		受験者数	259
		1次合格者数	93
		最終合格者数	47
		競争率	5.5
	26	採用予定数	約60
		受験者数	246
		1次合格者数	113
		最終合格者数	63
		競争率	3.9

【中國】

	年度・項目	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技術	家庭	英語	備考
鳥取県	採用予定数	26(中学校全体、技術専修なし)										
	受験者数	48	74	49	48	20	17	66	-	20	62	
	1次合格者数	15	10	25	32	7	7	16	-	3	8	
	最終合格者数	3	1	7	9	1	1	2	-	1	1	
	競争率	16.0	74.0	7.0	5.3	20.0	17.0	33.0	-	20.0	62.0	
鳥取県	採用予定数	50(中学校全体)										
	受験者数	42	78	61	61	22	16	86	4	17	57	【備考(鳥取県)】「㊦」は中高共通。24年・特別支援教育担当を含みます。
	1次合格者数	15	12	25	30	4	6	36	3	9	17	
	最終合格者数	5	5	8	12	1	2	9	1	1	6	
	競争率	8.4	15.6	7.6	5.1	22.0	8.0	9.6	4.0	17.0	9.5	
鳥取県	採用予定数	約28(中学校全体)、約25(中高並立)										
	受験者数	㉗2	75	㉗5	57	24	15	83	3	16	㉗0	
	1次合格者数	㉗3	22	㉗3	30	4	6	37	2	3	㉗2	
	最終合格者数	㉗6	7	12	10	1	2	5	1	1	9	
	競争率	㉗12.0	10.7	㉗7.1	5.7	24.0	7.5	16.6	3.0	16.0	㉗7.8	
鳥取県	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	38	43	57	36	33	9	47	9	14	42	
	1次合格者数	11	12	17	16	10	5	11	5	7	20	
	最終合格者数	3	2	8	5	2	1	2	1	1	6	
	競争率	12.7	21.5	7.1	7.2	16.5	9.0	23.5	9.0	14.0	7.0	
鳥取県	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	41	50	62	37	30	13	45	9	10	33	【備考(鳥取県)】24年・特別支援教育担当を含みます。
	1次合格者数	14	22	15	17	12	6	19	6	7	15	
	最終合格者数	6	6	3	5	3	1	3	1	1	1	
	競争率	10.3	8.3	20.7	7.4	10.0	13.0	15.0	9.0	10.0	8.3	
鳥取県	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	32	48	62	36	24	15	55	6	10	29	
	1次合格者数	14	22	17	14	11	6	21	3	5	17	
	最終合格者数	4	5	3	6	2	1	5	0	1	5	
	競争率	8.0	9.6	20.7	6.0	12.0	15.0	11.0	-	10.0	5.8	
岡山県・岡山市	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	104	148	124	114	93	30	145	22	22	157	
	1次合格者数	33	24	41	39	20	14	37	12	12	46	
	最終合格者数	16	13	21	22	8	5	17	4	4	25	
	競争率	6.5	11.4	5.9	5.2	11.6	6.0	8.5	5.5	5.5	6.3	
岡山県・岡山市	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	17	18	16	17	9	4	15	3	6	25	
	1次合格者数	108	159	157	141	98	31	145	19	23	159	
	最終合格者数	34	36	32	34	21	10	32	11	16	50	
	競争率	17	18	16	17	9	3	16	4	5	25	
岡山県・岡山市	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	6.4	8.8	9.8	8.3	10.9	10.3	9.1	4.8	4.6	6.4	
	1次合格者数	20	18	20	19	3	4	17	2	3	23	
	最終合格者数	128	168	164	129	72	32	148	13	29	167	
	競争率	40	140	42	40	9	9	36	6	13	49	
岡山県・岡山市	採用予定数	約30(中学校全体)										
	受験者数	20	18	20	18	2	3	18	2	3	25	
	最終合格者数	6.4	8.8	8.2	7.2	36.0	10.7	8.2	6.5	9.7	6.7	

	年度・項目	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技術	家庭	英語	備考	
広島県・ 広島市	採用予定数	約180(中学校全体)											
	受験者数	142	160	108	89	74	21	133	13	27	214	【備考(広島県・広島市)】 25年・受験者数・1次合格者数に1次免除者・現職教員選考・特別選考を含みます。	
	1次合格者数	19	21	29	47	17	12	27	8	7	55		
	最終合格者数	13	18	25	36	16	8	25	8	4	43		
	競争率	10.9	8.9	4.3	2.5	4.6	2.6	5.3	1.6	6.8	5.0		
	採用予定数	約180(中学校全体)											
	受験者数	128	163	118	89	56	31	149	12	39	211		
	1次合格者数	27	34	38	23	17	18	44	5	8	37		
	最終合格者数	23	29	31	19	9	11	35	2	3	29		
	競争率	5.6	5.6	3.8	4.7	6.2	2.8	4.3	6.0	13.0	7.3		
山口県	採用予定数	約180(中学校全体)											
	受験者数	118	161	129	96	76	29	148	12	35	220	【備考(山口県)】24年・身体障害者特別選考を含みます。	
	1次合格者数	40	39	38	26	18	11	35	9	8	46		
	最終合格者数	28	27	28	18	10	6	25	4	3	34		
	競争率	4.2	6.0	4.6	5.3	7.6	4.8	5.9	3.0	11.7	6.5		
	採用予定数	4	6	12	16	3	2	2	1	1	11		
	受験者数	39	63	65	67	34	20	70	3	8	80		
	1次合格者数	12	17	26	32	9	6	7	2	4	27		
	最終合格者数	4	6	12	17	3	2	2	1	1	11		
	競争率	9.8	10.5	5.4	3.9	11.3	10.0	35.0	3.0	8.0	7.3		
愛媛県	採用予定数	8	10	11	13	1	2	3	1	1	14		【備考(山口県)】24年・身体障害者特別選考を含みます。
	受験者数	47	71	76	56	34	22	63	4	16	70		
	1次合格者数	22	28	29	33	6	8	12	2	4	33		
	最終合格者数	8	10	11	14	1	2	3	1	1	14		
	競争率	5.9	7.1	6.9	4.0	34.0	11.0	21.0	4.0	16.0	5.0		
	採用予定数	12	12	16	18	5	4	7	2	2	16		
	受験者数	45	76	84	42	38	26	62	5	11	59		
	1次合格者数	25	27	31	22	14	12	18	4	6	29		
	最終合格者数	4	8	9	5	0	3	5	1	0	9		
	競争率	3.5	6.3	5.3	2.5	7.6	6.5	8.9	2.5	5.5	3.7		

【圖解】

[illegible]

	年度・項目	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技術	家庭	英語	備考
	採用予定数	約10	若干名	約10	約10	約1	約1	若干名	約5	約1	約10	
	受験者数	41	66	57	29	29	5	55	7	16	55	
	1次合格者数	19	9	21	15	5	3	10	3	3	21	
	最終合格者数	10	3	14	8	2	1	4	1	1	11	
	競争率	4.1	22.0	4.1	3.6	14.5	5.0	13.8	7.0	16.0	5.0	
	採用予定数	約6	約6	約6	約29	約1	約1	約5	約1	約1	約5	
	受験者数	42	67	47	29	21	14	59	8	7	47	
	1次合格者数	13	14	13	17	5	4	12	3	3	13	
	最終合格者数	6	6	4	5	1	1	5	0	1	5	
	競争率	7.0	11.2	11.8	5.8	21.0	14.0	11.8	7.0	9.4	9.4	
	採用予定数	約5	約3	約8	約23	約3	約1	約5	約1	約1	約5	
	受験者数	40	55	58	25	33	10	61	6	16	49	
	1次合格者数	13	10	16	15	9	4	11	3	5	12	
	最終合格者数	5	3	8	8	3	1	5	1	1	5	
	競争率	8.0	18.3	7.3	3.1	11.0	10.0	12.2	6.0	16.0	9.8	

【備考(高知県)】25年…受験者1、1次合格者数に東京都選考会を含まず。

表6 中国・四国地方 教員採用試験(高校) 結果(平成24～26年度)

【中国】

	年度・項目	国語	日本史	世界史	地理	倫理	政経	数学	物理	化学	生物	地学	音楽	美術	書道	保健	家庭	英語	農業	商業	工業	水産	情報	看護	福祉	備考
鳥取県	採用予定数	2(高校全体・国語・日本史・世界史・地理・倫理・政経・物理・化学・生物・地学・音楽・美術・書道・保健・家庭・英語・農業・商業・水産・情報・看護・福祉募集なし)																								
	受験者数	-	-	-	-	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-
	1次合格者数	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	最終合格者数	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	競争率	-	-	-	-	-	-	37.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13.0	-	-	-	-
	採用予定数	5(高校全体・日本史・世界史・地理・倫理・政経・化学・生物・地学・音楽・美術・書道・保健・家庭・農業・商業・工業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	受験者数	26	-	-	-	-	-	32	13	-	-	-	-	-	-	-	-	23	-	-	-	2	-	-	-	-
	1次合格者数	8	-	-	-	-	-	10	4	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	2	-	-	-	-
	最終合格者数	3	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	0	-	-	-	-
	競争率	26.0	-	-	-	-	-	32.0	13.0	-	-	-	-	-	-	-	-	11.5	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥根県	採用予定数	約23(高校全体・生物・地学・書道・家庭・情報・看護・福祉募集なし)																								
	受験者数	31(34(地歴)	-	-	-	-	-	56	8	19	-	-	13	8	-	-	59	-	48	14	17	7	6	-	-	-
	1次合格者数	12(6(地歴)	-	-	-	-	-	10	4	6	-	-	6	5	-	-	11	-	10	6	6	6	6	-	-	-
	最終合格者数	3(1(地歴)	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	1	1	-	-	2	-	2	1	2	1	4	-	-	-
	競争率	10.3(34.0(地歴)	-	-	-	-	-	28.0	8.0	19.0	-	-	13.0	8.0	-	-	29.5	-	24.0	14.0	8.5	7.0	1.5	-	-	-
	採用予定数	約37(高校全体・地学・書道・情報・看護募集なし)																								
	受験者数	35(41(地歴)	-	-	-	-	-	61	6	14	16	-	9	7	-	-	55	12	39	17	23	13	2	-	-	5
	1次合格者数	14(14(地歴)	-	-	-	-	-	12	4	6	6	-	6	6	-	-	23	6	14	6	11	11	2	-	-	4
	最終合格者数	2(4(地歴)	-	-	-	-	-	4	1	1	1	-	1	1	-	-	4	1	5	2	3	6	1	-	-	1
	競争率	17.5(10.3(地歴)	-	-	-	-	-	15.3	6.0	14.0	16.0	-	9.0	7.0	-	-	13.8	12.0	7.8	8.5	7.7	2.2	2.0	-	-	5.0
岡山県・岡山市	採用予定数	約37(高校全体・地学・美術・書道・情報・看護募集なし)																								
	受験者数	30(37(地歴)	-	-	-	-	-	62	6	14	12	-	7	-	-	-	57	10	40	10	18	12	0	-	-	-
	1次合格者数	15(16(地歴)	-	-	-	-	-	13	4	6	6	-	6	-	-	-	19	6	16	4	10	10	-	-	-	-
	最終合格者数	4(4(地歴)	-	-	-	-	-	4	1	1	1	-	0	-	-	-	5	1	5	1	3	4	-	-	-	-
	競争率	7.5(9.3(地歴)	-	-	-	-	-	15.5	6.0	14.0	12.0	-	-	-	-	-	11.4	10.0	8.0	10.0	6.0	3.0	-	-	-	-
	採用予定数	11	3	3	2	-	-	12	2	2	1	-	1	2	1	12	1	12	1	5	7	-	2	3	2	
	受験者数	73	45	35	11	-	-	102	25	27	49	-	22	17	14	121	38	83	15	57	33	-	19	10	18	
	1次合格者数	22	9	8	5	-	-	25	7	9	4	-	6	6	5	27	6	24	4	12	18	-	5	7	6	
	最終合格者数	10	3	3	2	-	-	12	2	2	1	-	1	2	1	12	1	10	1	5	9	-	2	4	2	
	競争率	7.3	15.0	11.7	5.5	-	-	8.5	12.5	13.5	79.0	-	22.0	8.5	14.0	10.1	38.0	8.3	15.0	11.4	3.7	-	9.5	2.5	9.0	
広島県・広島市	採用予定数	約130(高校全体・水産募集なし)																								
	受験者数	83	48	25	14	-	9	28	133	21	43	42	7	32	20	19	152	28	112	10	43	28	-	23	0	8
	1次合格者数	19	13	6	10	-	5	6	21	6	10	8	6	5	5	6	27	2	15	2	10	17	-	2	-	3
	最終合格者数	13	9	3	4	-	2	3	19	3	6	3	1	4	3	4	20	1	8	1	7	10	-	1	-	1
	競争率	6.4	5.4	8.3	3.5	-	4.5	9.7	7.0	7.2	14.0	7.0	8.0	6.7	4.8	7.6	28.0	14.0	10.0	6.1	2.8	-	23.0	-	8.0	
	採用予定数	約135(高校全体・水産募集なし)																								
	受験者数	87	50	24	19	-	10	25	130	24	45	51	10	27	29	14	163	39	107	13	43	56	-	28	13	5
	1次合格者数	19	11	9	6	-	3	7	22	10	11	12	5	6	10	5	17	10	25	3	6	38	-	3	11	2
	最終合格者数	12	5	3	5	-	2	3	17	5	4	7	2	2	4	2	11	3	15	1	3	15	-	1	3	1
	競争率	7.3	10.0	8.0	3.8	-	5.0	8.3	7.6	4.8	11.3	7.3	5.0	13.5	7.3	7.0	14.8	13.0	7.1	13.0	14.3	3.7	-	28.0	4.3	5.0
山口県	採用予定数	約145(高校全体・水産募集なし)																								
	受験者数	88	53	28	25	-	10	32	146	25	48	38	6	30	24	15	154	41	104	7	47	44	-	28	2	2
	1次合格者数	19	10	9	3	-	2	10	27	7	17	9	6	6	2	4	33	7	29	5	14	30	-	3	2	4
	最終合格者数	14	4	5	1	-	1	2	19	3	10	4	1	2	1	1	18	3	22	2	7	12	-	1	1	1
	競争率	6.3	13.8	5.6	25.0	-	10.0	16.0	7.7	8.3	4.8	9.5	6.0	15.0	24.0	15.0	8.6	13.7	4.7	3.5	6.7	3.7	-	28.0	2.0	2.0
	採用予定数	6	2	2	1	-	-	1	8	1	4	4	-	1	1	-	2	-	6	2	3	7	2	-	-	-
	受験者数	46	18	17	10	-	-	15	71	7	15	21	-	12	6	-	83	-	49	9	25	22	11	-	-	-
	1次合格者数	18	7	6	5	-	-	4	19	3	10	9	-	4	3	-	6	-	18	4	9	11	0	-	-	-
	最終合格者数	6	2	2	1	-	-	1	8	2	3	5	-	1	1	-	2	-	6	2	3	6	-	-	-	-
	競争率	7.7	9.0	8.5	10.0	-	-	15.0	8.9	3.5	5.0	4.2	-	12.0	6.0	-	41.5	-	8.2	4.5	8.3	3.7	-	-	-	-
山口県	採用予定数	3	1	1	-	-	-	5	1	3	2	-	1	1	-	-	2	-	5	1	2	5	2	1	-	-
	受験者数	42	21	17	-	-	-	62	6	18	17	-	15	9	-	-	66	-	47	9	25	28	8	4	-	-
	1次合格者数	11	1	1	-	-	-	18	2	6	6	-	8	1	-	-	19	5	9	12	6	3	-	-	-	
	最終合格者数	3	1	1	-	-	-	5	1	3	2	-	1	1	-	-	5	1	2	4	2	1	0	-	-	-
	競争率	13.7	21.0	17.0	-	-	-	12.4	6.0	6.0	8.5	-	15.0	9.0	-	-	33.0	-	9.4	9.0	14.0	6.5	4.5	6.0	-	-
	採用予定数	7	1	1	1	-	-	1	6	2	2	2	1	1	-	-	1	3	1	6	2	1	6	2	1	1
	受験者数	43	14	14	8	-	-	14	62	7	20	20	3	12	-	-	4	66	6	43	9	22	21	1	3	8
	1次合格者数	18	4	5	4	-	-	4	18	3	6	6	2	4	-	-	4	10	3	18	3	4	10	1	1	3
	1次免除者数	5	2	1	1	-	-	1	5	0	0	4	0	0	-	-	0	4	1	4	0	3	2	1	0	0
	最終合格者数	7	1	1	1	-	-	1	6	2	2	2	1	1	-	-	1	6	1	1	1	6	1	1	1	1
競争率	6.1	14.0	14.0	8.0	-	-	14.0	10.3	3.5	10.0	10.0	3.0	12.0	-	-	4.0	16.5	6.0	7.2	9.0	22.0	3.5	1.0	3.0	-	8.0

【四国】

	年度・項目	国語	日本史	世界史	地理	倫理	政経	数学	物理	化学	生物	地学	音楽	美術	書道	保健	家庭	英語	農業	商業	工業	水産	情報	看護	福祉	備考
徳島県	採用予定数	約41(高校・特別支援学校全体・地学・商船・情報募集なし)																								
	受験者数	44	27	14	10	20(公民)		60	10	18	23	-	中高共通		13	55	中高共通	37	7	19	17	1	-		2	3
	1次合格者数	10	3	3	3	4(公民)		13	5	4	4	-			3	10		13	1	6	4	1	-		2	0
	最終合格者数	3	1	2	1	1(公民)		5	2	1	2	-			1	3		4	1	2	1	1	-		1	-
	競争率	14.7	27.0	7.0	10.0	20.0(公民)		12.0	5.0	18.0	11.5	-			13.0	18.3		9.3	7.0	9.5	17.0	1.0	-		2.0	-
	採用予定数	約46(高校・特別支援学校全体・地学・商船・情報募集なし)																								
	受験者数	52	37	16	11	18(公民)		75	14	20	16	-	中高共通		8	68	中高共通	39	4	14	20	1	-		1	3
	1次合格者数	9	4	3	4	5(公民)		17	3	4	5	-			3	12		10	1	6	3	0	-		1	3
	最終合格者数	3	1	1	1	1(公民)		6	1	2	1	-			1	4		3	1	2	1	1	-		1	1
	競争率	17.3	37.0	16.0	11.0	18.0(公民)		12.5	14.0	10.0	16.0	-			8.0	17.0		13.0	4.0	7.0	20.0	-	-		1.0	3.0
採用予定数	約41(高校・特別支援学校全体・政経・情報募集なし)																									
受験者数	43	18	17	19	18	-	67	14	22	22	2	中高共通		9	69	中高共通	36	4	11	19	2	-		2	5	
1次合格者数	9	3	3	3	3	-	12	3	3	3	1			0	11		10	2	4	5	2	-		1	1	
最終合格者数	3	1	1	1	1	-	4	1	1	2	0			0	3		3	1	1	2	1	1	-		1	0
競争率	14.3	18.0	17.0	19.0	18.0	-	16.8	14.0	22.0	11.0	-			-	23.0		12.0	4.0	11.0	9.5	2.0	-		2.0	-	
採用予定数	約83(高校・特別支援学校全体・地学・商船・情報募集なし)																									
受験者数	42	24	10	8	12(公民)		37	13	10	22	-	9	7	19	46	10	58	10	18	17	1	-		1	3	
1次合格者数	15	6	4	3	3(公民)		15	4	3	6	-	4	5	5	17	3	21	6	6	10	1	-		0	3	
最終合格者数	7	3	1	1	1(公民)		8	2	1	3	-	2	2	2	8	1	7	3	3	5	1	-		-	2	
競争率	6.0	8.0	10.0	8.0	12.0(公民)		4.6	6.5	10.0	7.3	-	4.5	3.5	9.5	5.8	10.5	8.3	3.3	6.0	3.4	1.0	-		-	1.5	
香川県	採用予定数	約82(高校・特別支援学校全体・政経・水産募集なし)																								
	受験者数	41	20	12	11	8(公民)	-	41	9	8	16	2	9	12	10	59	10	45	8	24	12	-		4	1	2
	1次合格者数	16	6	3	4	2(公民)	-	15	2	4	4	2	7	6	3	19	3	20	3	6	8	-		2	0	1
	最終合格者数	7	3	1	2	1(公民)	-	7	1	2	2	1	3	3	1	7	1	8	1	3	3	-		1	1	1
	競争率	5.9	6.7	12	5.5	8.0(公民)	-	5.9	9.0	4.0	8.0	2.0	3.0	4.0	10.0	8.4	10.0	5.6	8.0	8.0	4.0	-		4.0	-	2.0
	採用予定数	約64(高校・特別支援学校全体・倫理・政経・福祉募集なし)																								
	受験者数	339(高校全体・倫理・政経・福祉募集なし)																								
	1次合格者数	113(高校全体・倫理・政経・福祉募集なし)																								
	最終合格者数	48(高校全体・倫理・政経・福祉募集なし)																								
	競争率	7.1(高校全体・倫理・政経・福祉募集なし)																								
愛媛県	採用予定数	10(5(地歴))		若干名(公民)				10(10(理科))				若干名		若干名	-	若干名	若干名	若干名	-	若干名	若干名	若干名	-	-	-	
	受験者数	587(高校・特別支援学校全体・書道・農業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	1次合格者数	137(高校・特別支援学校全体・書道・農業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	最終合格者数	78(高校・特別支援学校全体・書道・農業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	競争率	7.5(高校・特別支援学校全体・書道・農業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	採用予定数	5(若干名(地歴))		若干名(公民)				5(5(理科))				若干名		若干名	-	若干名	若干名	若干名	-	若干名	-	-	-	-	-	
	受験者数	646(高校・特別支援学校全体・書道・工業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	1次合格者数	114(高校・特別支援学校全体・書道・工業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	最終合格者数	64(高校・特別支援学校全体・書道・工業・情報・看護・福祉募集なし)																								
	競争率	10.1(高校・特別支援学校全体・書道・工業・情報・看護・福祉募集なし)																								
採用予定数	若干名		若干名(公民)				5(若干名(理科))				若干名		若干名	-	若干名	若干名	5(若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	-	-	-		
受験者数	580(高校・特別支援学校全体・書道・情報・看護・福祉募集なし)																									
1次合格者数	112(高校・特別支援学校全体・書道・情報・看護・福祉募集なし)																									
最終合格者数	58(高校・特別支援学校全体・書道・情報・看護・福祉募集なし)																									
競争率	10.0(高校・特別支援学校全体・書道・情報・看護・福祉募集なし)																									
高知県	採用予定数	約2	-	-	-	約1(公民)		約1	約2(理科)		-	-	約1	-	約5	-	約2	約1	-	約2	約1	-	-	約1	-	-
	受験者数	34	-	-	-	45(公民)		32	49(理科)		-	16	-	57	-	52	15	-	10	1	-	-	-	0	-	
	1次合格者数	15	-	-	-	8(公民)		7	10(理科)		-	5	-	18	-	9	2	-	3	1	-	-	-	-	-	
	最終合格者数	5	-	-	-	3(公民)		-	2(理科)		-	2	-	10	-	3	1	-	3	0	-	-	-	-	-	
	競争率	6.8	-	-	-	15.0(公民)		-	10.7(24.5(理科))		-	8.0	-	5.7	-	17.3	15.0	-	3.3	-	-	-	-	-	-	
	採用予定数	約2	約1(地歴)	-	-	-	-	約1	約2(理科)		約1	-	-	約3	約1	約1	-	約2	約3	約3	-	-	-	約2	-	
	受験者数	37	34(地歴)	-	-	-	-	37	49(理科)		12	-	-	44	22	44	-	29	15	3	-	-	4	-	-	
	1次合格者数	11	5(地歴)	-	-	-	-	8	13(理科)		4	-	-	13	5	9	-	9	7	3	-	-	3	-	-	
	最終合格者数	2	2(地歴)	-	-	-	-	2	2(理科)		1	-	-	3	1	1	-	2	4	1	-	-	1	-	-	
	競争率	18.5	17.0(地歴)	-	-	-	-	18.5	24.5(理科)		12.0	-	-	14.7	22.0	44.0	-	14.5	3.8	3.0	-	-	4.0	-	-	
採用予定数	約2	-	-	-	約1(公民)		約3	約3(理科)		-	-	-	約2	-	約2	約1	-	約5	約2	-	-	約2	-	-		
受験者数	37	-	-	-	41(公民)		40	59(理科)		-	-	-	55	-	41	9	-	20	2	-	-	3	-	-		
1次合格者数	10	-	-	-	10(公民)		-	11(7(理科))		-	-	-	12	-	10	5	-	12	2	-	-	3	-	-		
最終合格者数	2	-	-	-	1(公民)		-	3(3(理科))		-	-	-	2	-	2	1	-	3	2	-	-	2	-	-		
競争率	18.5	-	-	-	41.0(公民)		-	13.3	19.7(理科)		-	-	27.5	-	20.5	9.0	-	6.7	1.0	-	-	1.5	-	-		

表7 中国・四国地方 教員採用試験(特別支援学校) 結果(平成24～26年度)

【中国】	自治体名	年度・項目	特別支援	養護教諭	栄養教諭	備考
鳥取県	24	採用予定数	18	8	-	
		受験者数	95	47	-	
		1次合格者数	70	20	-	
		最終合格者数	18	8	-	
		競争率	5.3	5.9	-	
	25	採用予定数	20	7	-	
		受験者数	101	54	-	
		1次合格者数	72	22	-	
		最終合格者数	20	7	-	
		競争率	5.1	7.7	-	
	26	採用予定数	20	6	-	
		受験者数	89	62	-	
		1次合格者数	66	18	-	
		最終合格者数	20	6	-	
		競争率	4.5	10.3	-	
島根県	24	採用予定数	約18	約15	約3	
		受験者数	90	72	27	
		1次合格者数	50	34	12	
		最終合格者数	18	15	4	
		競争率	5.0	4.8	6.8	
	25	採用予定数	約30	約14	約1	
		受験者数	92	69	17	
		1次合格者数	60	36	6	
		最終合格者数	30	14	1	
		競争率	3.1	4.9	17.0	
	26	採用予定数	約30	約16	約2	
		受験者数	94	84	20	
		1次合格者数	62	44	11	
		最終合格者数	27	17	2	
		競争率	3.5	4.9	10.0	
岡山県・岡山市	24	採用予定数	30	30	-	
		受験者数	127	212	-	
		1次合格者数	61	60	-	
		最終合格者数	30	30	-	
		競争率	4.2	7.1	-	
	25	採用予定数	40	30	6	
		受験者数	163	216	129	
		1次合格者数	85	60	16	
		最終合格者数	40	30	6	
		競争率	4.1	7.2	21.5	
	26	採用予定数	45	40	5	
		受験者数	195	217	70	
		1次合格者数	93	80	12	
		最終合格者数	45	40	5	
		競争率	4.3	5.4	14.0	
広島県・広島市	24	採用予定数	約70	約40	-	【備考(広島県・広島市)】25年…受験者数・1次合格者数に各特別選考・1次免除者・現職教員選考を含まず。
		受験者数	181	203	-	
		1次合格者数	69	53	-	
		最終合格者数	55	40	-	
		競争率	3.3	5.1	-	
	25	採用予定数	約75	約35	-	
		受験者数	150	181	-	
		1次合格者数	75	42	-	
		最終合格者数	63	34	-	
		競争率	2.4	5.3	-	
	26	採用予定数	約85	約30	-	
		受験者数	202	178	-	
		1次合格者数	103	40	-	
		最終合格者数	68	30	-	
		競争率	3.0	5.9	-	
山口県	24	採用予定数	11	20	-	【備考(山口県)】身体障害者特別選考を含まず。24年…受験者数・1次合格者数に1次免除者を含まず。
		受験者数	51	104	-	
		1次合格者数	29	37	-	
		最終合格者数	11	20	-	
		競争率	4.6	5.2	-	
	25	採用予定数	10	22	-	
		受験者数	51	99	-	
		1次合格者数	33	43	-	
		最終合格者数	10	22	-	
		競争率	5.1	4.5	-	
	26	採用予定数	約13	約22	-	
		受験者数	52	98	-	
		1次合格者数	24	32	-	
		1次免除者数	10	10	-	
		最終合格者数	13	22	-	
		競争率	4.0	4.5	-	
【四国】	徳島県	採用予定数	約41	約18	-	【備考(徳島県)】特別支援の採用予定者数は高・特全体
		受験者数	80	147	-	
		1次合格者数	29	42	-	
		最終合格者数	14	20	-	
		競争率	5.7	7.4	-	
	25	採用予定数	約46	約18	-	
		受験者数	79	139	-	
		1次合格者数	31	45	-	
		最終合格者数	15	19	-	
		競争率	5.3	7.3	-	
	26	採用予定数	約41	約19	-	
		受験者数	71	118	-	
		1次合格者数	30	42	-	
		最終合格者数	14	19	-	
		競争率	5.1	6.2	-	
香川県	24	採用予定数	約83	約18	約4	【備考(香川県)】特別支援の採用予定者数は高・特全体
		受験者数	71	103	24	
		1次合格者数	37	32	8	
		最終合格者数	18	18	4	
		競争率	3.9	5.7	6.0	
	25	採用予定数	約82	約17	約4	
		受験者数	67	113	31	
		1次合格者数	40	30	8	
		最終合格者数	20	17	4	
		競争率	3.4	6.6	7.8	
	26	採用予定数	約64	約18	約1	
		受験者数	49	96	24	
		1次合格者数	33	39	6	
		最終合格者数	16	18	1	
		競争率	3.1	5.3	24.0	
愛媛県	24	採用予定数	約15	約25	若干名	【備考(愛媛県)】障害者特別選考を含まず。※は高・特全体。26年…スポーツ振興特別選考を含まず。
		受験者数	※587	117	48	
		1次合格者数	※137	32	6	
		最終合格者数	※78	26	4	
		競争率	※7.5	4.5	12.0	
	25	採用予定数	15	15	若干名	
		受験者数	※646	96	43	
		1次合格者数	※114	22	6	
		最終合格者数	※64	15	2	
		競争率	※10.1	6.4	21.5	
	26	採用予定数	10	10	若干名	
		受験者数	※580	89	37	
		1次合格者数	※112	15	6	
		最終合格者数	※58	12	3	
		競争率	※10.0	7.4	12.3	
高知県	24	採用予定数	約16	約10	約4	
		受験者数	79	56	47	
		1次合格者数	39	19	9	
		最終合格者数	21	8	6	
		競争率	3.8	7.0	7.8	
	25	採用予定数	約16	約8	約4	
		受験者数	77	63	36	
		1次合格者数	33	17	9	
		最終合格者数	15	9	4	
		競争率	5.1	7.0	9.0	
	26	採用予定数	約16	約12	約3	
		受験者数	84	75	33	
		1次合格者数	37	22	8	
		最終合格者数	17	10	3	
		競争率	4.9	7.5	11.0	

表8 幼稚園(公私立) 年齢別・退職年別教員数

平成22年度 学校教員統計調査に基づく

全国		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	775
63	H23退職	953
62	H24退職	1,073
61	H25退職	1,295
60	H26退職	1,332
59	H27退職	1,432
58	H28退職	1,527
57	H29退職	1,605
56	H30退職	1,579
55	H31退職	1,384
54	H32退職	1,412
53	H33退職	1,350
52	H34退職	1,375
51	H35退職	1,223
50	H36退職	1,331
49	H37退職	1,444
48	H38退職	1,103
47	H39退職	1,442
46	H40退職	1,433
45	H41退職	1,389
44	H42退職	1,406
43	H43退職	1,605
42	H44退職	1,603
41	H45退職	1,622
40	H46退職	1,682
39	H47退職	1,836
38	H48退職	1,807
37	H49退職	2,014
36	H50退職	2,213
35	H51退職	2,370
34	H52退職	2,685
33	H53退職	3,108
32	H54退職	3,688
31	H55退職	4,518
30	H56退職	5,514
29	H57退職	6,599
28	H58退職	7,457
27	H59退職	7,925
26	H60退職	6,784

広島県		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	14
63	H23退職	17
62	H24退職	24
61	H25退職	28
60	H26退職	30
59	H27退職	23
58	H28退職	38
57	H29退職	39
56	H30退職	53
55	H31退職	34
54	H32退職	26
53	H33退職	21
52	H34退職	25
51	H35退職	35
50	H36退職	31
49	H37退職	33
48	H38退職	33
47	H39退職	34
46	H40退職	35
45	H41退職	24
44	H42退職	36
43	H43退職	35
42	H44退職	37
41	H45退職	28
40	H46退職	32
39	H47退職	36
38	H48退職	35
37	H49退職	44
36	H50退職	42
35	H51退職	43
34	H52退職	41
33	H53退職	54
32	H54退職	55
31	H55退職	122
30	H56退職	115
29	H57退職	120
28	H58退職	160
27	H59退職	135
26	H60退職	148

中国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	43
63	H23退職	54
62	H24退職	86
61	H25退職	104
60	H26退職	106
59	H27退職	103
58	H28退職	127
57	H29退職	118
56	H30退職	132
55	H31退職	105
54	H32退職	89
53	H33退職	83
52	H34退職	80
51	H35退職	73
50	H36退職	77
49	H37退職	85
48	H38退職	76
47	H39退職	91
46	H40退職	86
45	H41退職	74
44	H42退職	87
43	H43退職	111
42	H44退職	94
41	H45退職	81
40	H46退職	88
39	H47退職	117
38	H48退職	107
37	H49退職	124
36	H50退職	115
35	H51退職	111
34	H52退職	114
33	H53退職	136
32	H54退職	139
31	H55退職	215
30	H56退職	240
29	H57退職	272
28	H58退職	288
27	H59退職	307
26	H60退職	260

四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	27
63	H23退職	35
62	H24退職	49
61	H25退職	66
60	H26退職	72
59	H27退職	79
58	H28退職	99
57	H29退職	89
56	H30退職	85
55	H31退職	70
54	H32退職	83
53	H33退職	63
52	H34退職	51
51	H35退職	53
50	H36退職	55
49	H37退職	54
48	H38退職	37
47	H39退職	61
46	H40退職	60
45	H41退職	60
44	H42退職	62
43	H43退職	48
42	H44退職	70
41	H45退職	66
40	H46退職	78
39	H47退職	61
38	H48退職	80
37	H49退職	80
36	H50退職	66
35	H51退職	71
34	H52退職	72
33	H53退職	84
32	H54退職	75
31	H55退職	107
30	H56退職	125
29	H57退職	128
28	H58退職	163
27	H59退職	153
26	H60退職	138

中国・四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	70
63	H23退職	89
62	H24退職	135
61	H25退職	170
60	H26退職	178
59	H27退職	182
58	H28退職	226
57	H29退職	207
56	H30退職	217
55	H31退職	175
54	H32退職	172
53	H33退職	146
52	H34退職	131
51	H35退職	126
50	H36退職	132
49	H37退職	139
48	H38退職	113
47	H39退職	152
46	H40退職	146
45	H41退職	134
44	H42退職	149
43	H43退職	159
42	H44退職	164
41	H45退職	147
40	H46退職	166
39	H47退職	178
38	H48退職	187
37	H49退職	204
36	H50退職	181
35	H51退職	182
34	H52退職	186
33	H53退職	220
32	H54退職	214
31	H55退職	322
30	H56退職	365
29	H57退職	400
28	H58退職	451
27	H59退職	460
26	H60退職	398

表9 小学校(公立) 年齢別・退職年別教員数

平成22年度 学校教員統計調査に基づく

全国		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	4,532
63	H23退職	8,960
62	H24退職	10,674
61	H25退職	12,310
60	H26退職	14,076
59	H27退職	15,841
58	H28退職	16,611
57	H29退職	16,923
56	H30退職	16,791
55	H31退職	15,763
54	H32退職	14,181
53	H33退職	13,086
52	H34退職	12,138
51	H35退職	11,631
50	H36退職	11,137
49	H37退職	11,439
48	H38退職	9,051
47	H39退職	11,245
46	H40退職	10,016
45	H41退職	9,011
44	H42退職	8,487
43	H43退職	8,504
42	H44退職	8,082
41	H45退職	8,067
40	H46退職	7,782
39	H47退職	7,391
38	H48退職	7,121
37	H49退職	7,347
36	H50退職	7,755
35	H51退職	8,093
34	H52退職	8,194
33	H53退職	8,161
32	H54退職	7,859
31	H55退職	7,916
30	H56退職	7,541
29	H57退職	7,095
28	H58退職	5,928
27	H59退職	4,833
26	H60退職	1,866

広島県		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	75
63	H23退職	196
62	H24退職	209
61	H25退職	258
60	H26退職	316
59	H27退職	423
58	H28退職	518
57	H29退職	515
56	H30退職	488
55	H31退職	417
54	H32退職	388
53	H33退職	315
52	H34退職	264
51	H35退職	283
50	H36退職	257
49	H37退職	253
48	H38退職	161
47	H39退職	209
46	H40退職	183
45	H41退職	196
44	H42退職	200
43	H43退職	166
42	H44退職	153
41	H45退職	137
40	H46退職	139
39	H47退職	154
38	H48退職	132
37	H49退職	122
36	H50退職	110
35	H51退職	137
34	H52退職	165
33	H53退職	113
32	H54退職	132
31	H55退職	144
30	H56退職	139
29	H57退職	180
28	H58退職	164
27	H59退職	131
26	H60退職	46

中国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	199
63	H23退職	484
62	H24退職	597
61	H25退職	767
60	H26退職	901
59	H27退職	1,142
58	H28退職	1,327
57	H29退職	1,404
56	H30退職	1,341
55	H31退職	1,244
54	H32退職	1,138
53	H33退職	1,086
52	H34退職	953
51	H35退職	914
50	H36退職	878
49	H37退職	817
48	H38退職	607
47	H39退職	799
46	H40退職	685
45	H41退職	629
44	H42退職	567
43	H43退職	519
42	H44退職	498
41	H45退職	459
40	H46退職	473
39	H47退職	425
38	H48退職	417
37	H49退職	369
36	H50退職	370
35	H51退職	389
34	H52退職	416
33	H53退職	345
32	H54退職	350
31	H55退職	329
30	H56退職	312
29	H57退職	359
28	H58退職	314
27	H59退職	250
26	H60退職	88

四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	102
63	H23退職	247
62	H24退職	337
61	H25退職	404
60	H26退職	502
59	H27退職	672
58	H28退職	809
57	H29退職	803
56	H30退職	869
55	H31退職	811
54	H32退職	762
53	H33退職	711
52	H34退職	630
51	H35退職	589
50	H36退職	521
49	H37退職	594
48	H38退職	423
47	H39退職	527
46	H40退職	448
45	H41退職	381
44	H42退職	340
43	H43退職	311
42	H44退職	308
41	H45退職	291
40	H46退職	241
39	H47退職	202
38	H48退職	193
37	H49退職	176
36	H50退職	191
35	H51退職	200
34	H52退職	188
33	H53退職	166
32	H54退職	172
31	H55退職	129
30	H56退職	154
29	H57退職	124
28	H58退職	134
27	H59退職	108
26	H60退職	52

中国・四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	301
63	H23退職	731
62	H24退職	934
61	H25退職	1,171
60	H26退職	1,403
59	H27退職	1,814
58	H28退職	2,136
57	H29退職	2,207
56	H30退職	2,210
55	H31退職	2,055
54	H32退職	1,900
53	H33退職	1,797
52	H34退職	1,583
51	H35退職	1,503
50	H36退職	1,399
49	H37退職	1,411
48	H38退職	1,030
47	H39退職	1,326
46	H40退職	1,133
45	H41退職	1,010
44	H42退職	907
43	H43退職	830
42	H44退職	806
41	H45退職	750
40	H46退職	714
39	H47退職	627
38	H48退職	610
37	H49退職	545
36	H50退職	561
35	H51退職	589
34	H52退職	604
33	H53退職	511
32	H54退職	522
31	H55退職	458
30	H56退職	466
29	H57退職	483
28	H58退職	448
27	H59退職	358
26	H60退職	140

表10 中学校(公立) 年齢別・退職年別教員数

平成22年度 学校教員統計調査に基づく

全国		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	2,174
63	H23退職	4,324
62	H24退職	4,798
61	H25退職	5,640
60	H26退職	6,191
59	H27退職	6,766
58	H28退職	7,168
57	H29退職	7,958
56	H30退職	9,008
55	H31退職	9,509
54	H32退職	9,535
53	H33退職	9,158
52	H34退職	8,907
51	H35退職	8,435
50	H36退職	7,810
49	H37退職	7,311
48	H38退職	5,447
47	H39退職	6,513
46	H40退職	5,975
45	H41退職	5,713
44	H42退職	5,373
43	H43退職	5,340
42	H44退職	5,429
41	H45退職	5,493
40	H46退職	5,262
39	H47退職	4,734
38	H48退職	4,534
37	H49退職	4,246
36	H50退職	4,320
35	H51退職	4,235
34	H52退職	4,318
33	H53退職	4,106
32	H54退職	3,969
31	H55退職	3,860
30	H56退職	3,718
29	H57退職	3,271
28	H58退職	2,644
27	H59退職	2,163
26	H60退職	813

広島県		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	40
63	H23退職	84
62	H24退職	129
61	H25退職	148
60	H26退職	145
59	H27退職	189
58	H28退職	191
57	H29退職	244
56	H30退職	256
55	H31退職	290
54	H32退職	245
53	H33退職	253
52	H34退職	237
51	H35退職	219
50	H36退職	186
49	H37退職	175
48	H38退職	96
47	H39退職	108
46	H40退職	93
45	H41退職	101
44	H42退職	70
43	H43退職	97
42	H44退職	101
41	H45退職	80
40	H46退職	97
39	H47退職	53
38	H48退職	62
37	H49退職	53
36	H50退職	46
35	H51退職	50
34	H52退職	64
33	H53退職	49
32	H54退職	54
31	H55退職	61
30	H56退職	59
29	H57退職	46
28	H58退職	47
27	H59退職	41
26	H60退職	19

中国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	95
63	H23退職	228
62	H24退職	288
61	H25退職	342
60	H26退職	362
59	H27退職	476
58	H28退職	484
57	H29退職	602
56	H30退職	644
55	H31退職	753
54	H32退職	719
53	H33退職	745
52	H34退職	688
51	H35退職	646
50	H36退職	619
49	H37退職	557
48	H38退職	388
47	H39退職	445
46	H40退職	428
45	H41退職	399
44	H42退職	310
43	H43退職	342
42	H44退職	329
41	H45退職	349
40	H46退職	344
39	H47退職	301
38	H48退職	259
37	H49退職	207
36	H50退職	211
35	H51退職	229
34	H52退職	206
33	H53退職	183
32	H54退職	155
31	H55退職	160
30	H56退職	136
29	H57退職	124
28	H58退職	91
27	H59退職	86
26	H60退職	29

四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	49
63	H23退職	110
62	H24退職	137
61	H25退職	185
60	H26退職	203
59	H27退職	273
58	H28退職	293
57	H29退職	340
56	H30退職	411
55	H31退職	419
54	H32退職	448
53	H33退職	470
52	H34退職	435
51	H35退職	449
50	H36退職	370
49	H37退職	419
48	H38退職	286
47	H39退職	299
46	H40退職	317
45	H41退職	278
44	H42退職	217
43	H43退職	228
42	H44退職	220
41	H45退職	205
40	H46退職	195
39	H47退職	138
38	H48退職	132
37	H49退職	128
36	H50退職	121
35	H51退職	119
34	H52退職	102
33	H53退職	92
32	H54退職	72
31	H55退職	92
30	H56退職	77
29	H57退職	70
28	H58退職	63
27	H59退職	58
26	H60退職	19

中国・四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	144
63	H23退職	338
62	H24退職	425
61	H25退職	527
60	H26退職	565
59	H27退職	749
58	H28退職	777
57	H29退職	942
56	H30退職	1,055
55	H31退職	1,172
54	H32退職	1,167
53	H33退職	1,215
52	H34退職	1,123
51	H35退職	1,095
50	H36退職	989
49	H37退職	976
48	H38退職	674
47	H39退職	744
46	H40退職	745
45	H41退職	677
44	H42退職	527
43	H43退職	570
42	H44退職	549
41	H45退職	554
40	H46退職	539
39	H47退職	439
38	H48退職	391
37	H49退職	335
36	H50退職	332
35	H51退職	348
34	H52退職	308
33	H53退職	275
32	H54退職	227
31	H55退職	252
30	H56退職	213
29	H57退職	194
28	H58退職	154
27	H59退職	144
26	H60退職	48

表11 高校(公私立) 年齢別・退職年別教員数

平成22年度 学校教員統計調査に基づく

全国		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	3,986
63	H23退職	6,334
62	H24退職	6,860
61	H25退職	7,163
60	H26退職	7,082
59	H27退職	7,333
58	H28退職	7,643
57	H29退職	7,813
56	H30退職	7,834
55	H31退職	8,192
54	H32退職	8,673
53	H33退職	9,290
52	H34退職	9,318
51	H35退職	8,952
50	H36退職	8,402
49	H37退職	8,119
48	H38退職	5,759
47	H39退職	6,490
46	H40退職	5,893
45	H41退職	5,482
44	H42退職	5,507
43	H43退職	5,877
42	H44退職	6,062
41	H45退職	5,980
40	H46退職	5,807
39	H47退職	5,255
38	H48退職	5,050
37	H49退職	4,759
36	H50退職	4,487
35	H51退職	4,212
34	H52退職	4,005
33	H53退職	3,745
32	H54退職	3,417
31	H55退職	3,240
30	H56退職	2,939
29	H57退職	2,404
28	H58退職	1,925
27	H59退職	1,425
26	H60退職	605

広島県		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	83
63	H23退職	138
62	H24退職	157
61	H25退職	160
60	H26退職	167
59	H27退職	186
58	H28退職	177
57	H29退職	173
56	H30退職	190
55	H31退職	238
54	H32退職	243
53	H33退職	257
52	H34退職	279
51	H35退職	224
50	H36退職	231
49	H37退職	249
48	H38退職	154
47	H39退職	146
46	H40退職	121
45	H41退職	106
44	H42退職	136
43	H43退職	130
42	H44退職	103
41	H45退職	109
40	H46退職	122
39	H47退職	99
38	H48退職	93
37	H49退職	75
36	H50退職	78
35	H51退職	81
34	H52退職	74
33	H53退職	58
32	H54退職	59
31	H55退職	51
30	H56退職	49
29	H57退職	44
28	H58退職	33
27	H59退職	23
26	H60退職	6

中国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	213
63	H23退職	348
62	H24退職	411
61	H25退職	432
60	H26退職	430
59	H27退職	443
58	H28退職	479
57	H29退職	507
56	H30退職	507
55	H31退職	622
54	H32退職	597
53	H33退職	638
52	H34退職	703
51	H35退職	662
50	H36退職	662
49	H37退職	681
48	H38退職	443
47	H39退職	510
46	H40退職	453
45	H41退職	378
44	H42退職	453
43	H43退職	429
42	H44退職	422
41	H45退職	382
40	H46退職	419
39	H47退職	342
38	H48退職	319
37	H49退職	279
36	H50退職	283
35	H51退職	239
34	H52退職	239
33	H53退職	196
32	H54退職	181
31	H55退職	157
30	H56退職	134
29	H57退職	110
28	H58退職	79
27	H59退職	57
26	H60退職	19

四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	117
63	H23退職	186
62	H24退職	226
61	H25退職	251
60	H26退職	213
59	H27退職	206
58	H28退職	234
57	H29退職	257
56	H30退職	238
55	H31退職	250
54	H32退職	273
53	H33退職	311
52	H34退職	362
51	H35退職	338
50	H36退職	350
49	H37退職	363
48	H38退職	225
47	H39退職	311
46	H40退職	290
45	H41退職	261
44	H42退職	265
43	H43退職	271
42	H44退職	279
41	H45退職	301
40	H46退職	309
39	H47退職	265
38	H48退職	247
37	H49退職	243
36	H50退職	203
35	H51退職	191
34	H52退職	150
33	H53退職	166
32	H54退職	106
31	H55退職	91
30	H56退職	88
29	H57退職	75
28	H58退職	67
27	H59退職	27
26	H60退職	16

中国・四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	330
63	H23退職	534
62	H24退職	637
61	H25退職	683
60	H26退職	643
59	H27退職	649
58	H28退職	713
57	H29退職	764
56	H30退職	745
55	H31退職	872
54	H32退職	870
53	H33退職	949
52	H34退職	1,065
51	H35退職	1,000
50	H36退職	1,012
49	H37退職	1,044
48	H38退職	668
47	H39退職	821
46	H40退職	743
45	H41退職	639
44	H42退職	718
43	H43退職	700
42	H44退職	701
41	H45退職	683
40	H46退職	728
39	H47退職	607
38	H48退職	566
37	H49退職	522
36	H50退職	486
35	H51退職	430
34	H52退職	389
33	H53退職	362
32	H54退職	287
31	H55退職	248
30	H56退職	222
29	H57退職	185
28	H58退職	146
27	H59退職	84
26	H60退職	35

表12 特別支援学校(公立) 年齢別・退職年別教員数

平成22年度 学校教員統計調査に基づく

全国		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	548
63	H23退職	1,026
62	H24退職	1,253
61	H25退職	1,482
60	H26退職	1,598
59	H27退職	1,866
58	H28退職	2,028
57	H29退職	2,134
56	H30退職	2,236
55	H31退職	2,283
54	H32退職	2,238
53	H33退職	2,246
52	H34退職	2,282
51	H35退職	2,198
50	H36退職	2,095
49	H37退職	2,071
48	H38退職	1,604
47	H39退職	1,884
46	H40退職	1,760
45	H41退職	1,747
44	H42退職	1,677
43	H43退職	1,727
42	H44退職	1,722
41	H45退職	1,756
40	H46退職	1,697
39	H47退職	1,582
38	H48退職	1,515
37	H49退職	1,419
36	H50退職	1,417
35	H51退職	1,294
34	H52退職	1,276
33	H53退職	1,182
32	H54退職	1,121
31	H55退職	1,115
30	H56退職	1,081
29	H57退職	959
28	H58退職	788
27	H59退職	663
26	H60退職	258

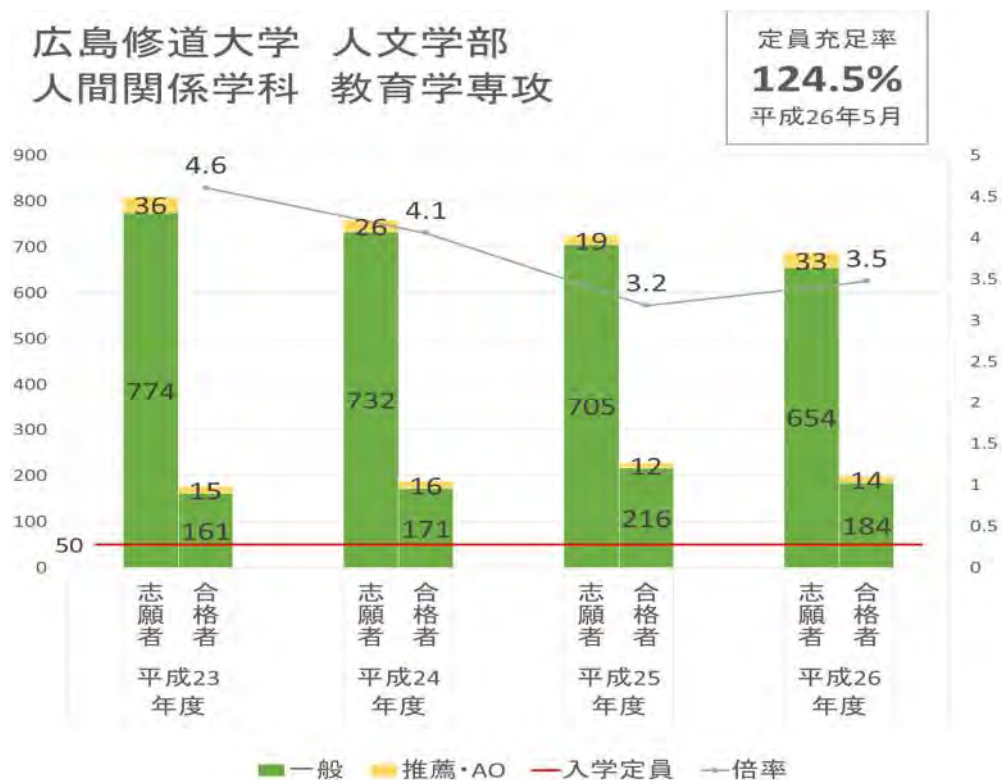
広島県		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	14
63	H23退職	20
62	H24退職	18
61	H25退職	32
60	H26退職	35
59	H27退職	53
58	H28退職	43
57	H29退職	55
56	H30退職	56
55	H31退職	61
54	H32退職	56
53	H33退職	51
52	H34退職	52
51	H35退職	41
50	H36退職	45
49	H37退職	40
48	H38退職	29
47	H39退職	25
46	H40退職	23
45	H41退職	17
44	H42退職	16
43	H43退職	19
42	H44退職	10
41	H45退職	12
40	H46退職	17
39	H47退職	13
38	H48退職	12
37	H49退職	11
36	H50退職	10
35	H51退職	12
34	H52退職	16
33	H53退職	17
32	H54退職	13
31	H55退職	18
30	H56退職	12
29	H57退職	8
28	H58退職	13
27	H59退職	12
26	H60退職	3

中国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	36
63	H23退職	58
62	H24退職	68
61	H25退職	98
60	H26退職	99
59	H27退職	140
58	H28退職	132
57	H29退職	172
56	H30退職	163
55	H31退職	156
54	H32退職	200
53	H33退職	170
52	H34退職	179
51	H35退職	167
50	H36退職	161
49	H37退職	173
48	H38退職	134
47	H39退職	160
46	H40退職	146
45	H41退職	117
44	H42退職	102
43	H43退職	94
42	H44退職	94
41	H45退職	98
40	H46退職	69
39	H47退職	81
38	H48退職	72
37	H49退職	87
36	H50退職	67
35	H51退職	56
34	H52退職	60
33	H53退職	60
32	H54退職	57
31	H55退職	61
30	H56退職	52
29	H57退職	35
28	H58退職	36
27	H59退職	37
26	H60退職	7

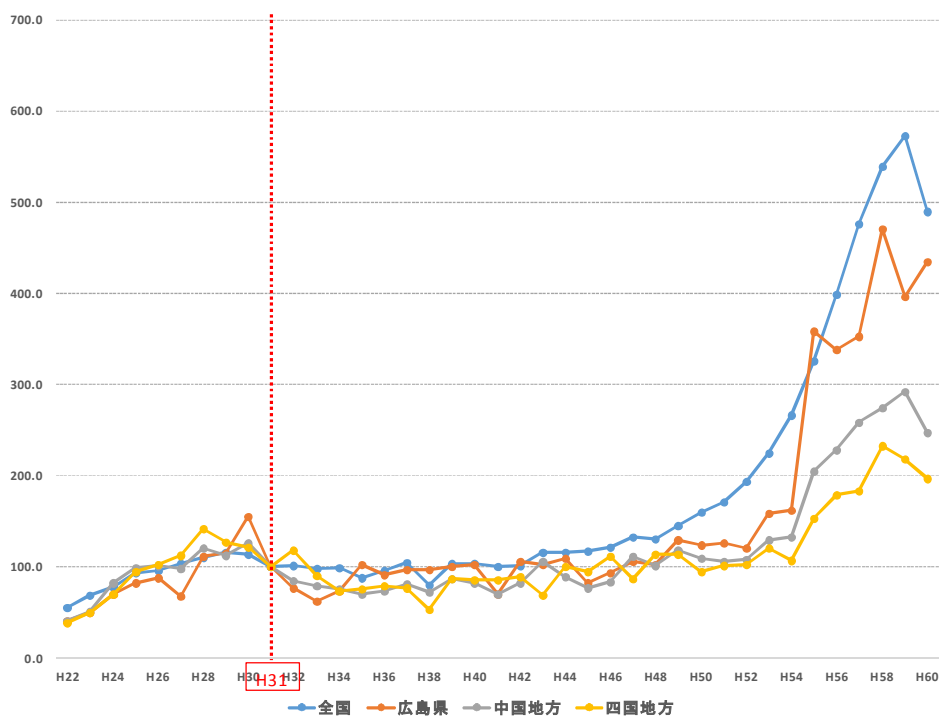
四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	23
63	H23退職	39
62	H24退職	39
61	H25退職	55
60	H26退職	52
59	H27退職	67
58	H28退職	67
57	H29退職	72
56	H30退職	82
55	H31退職	88
54	H32退職	72
53	H33退職	102
52	H34退職	112
51	H35退職	101
50	H36退職	97
49	H37退職	93
48	H38退職	51
47	H39退職	79
46	H40退職	70
45	H41退職	86
44	H42退職	59
43	H43退職	70
42	H44退職	62
41	H45退職	75
40	H46退職	66
39	H47退職	64
38	H48退職	55
37	H49退職	54
36	H50退職	67
35	H51退職	55
34	H52退職	43
33	H53退職	28
32	H54退職	27
31	H55退職	32
30	H56退職	19
29	H57退職	31
28	H58退職	19
27	H59退職	16
26	H60退職	4

中国・四国地方		
年齢(H26)	退職年	人数
64	H22退職	59
63	H23退職	97
62	H24退職	107
61	H25退職	153
60	H26退職	151
59	H27退職	207
58	H28退職	199
57	H29退職	244
56	H30退職	245
55	H31退職	244
54	H32退職	272
53	H33退職	272
52	H34退職	291
51	H35退職	268
50	H36退職	258
49	H37退職	266
48	H38退職	185
47	H39退職	239
46	H40退職	216
45	H41退職	203
44	H42退職	161
43	H43退職	164
42	H44退職	156
41	H45退職	173
40	H46退職	135
39	H47退職	145
38	H48退職	127
37	H49退職	141
36	H50退職	134
35	H51退職	111
34	H52退職	103
33	H53退職	88
32	H54退職	84
31	H55退職	93
30	H56退職	71
29	H57退職	66
28	H58退職	55
27	H59退職	53
26	H60退職	11

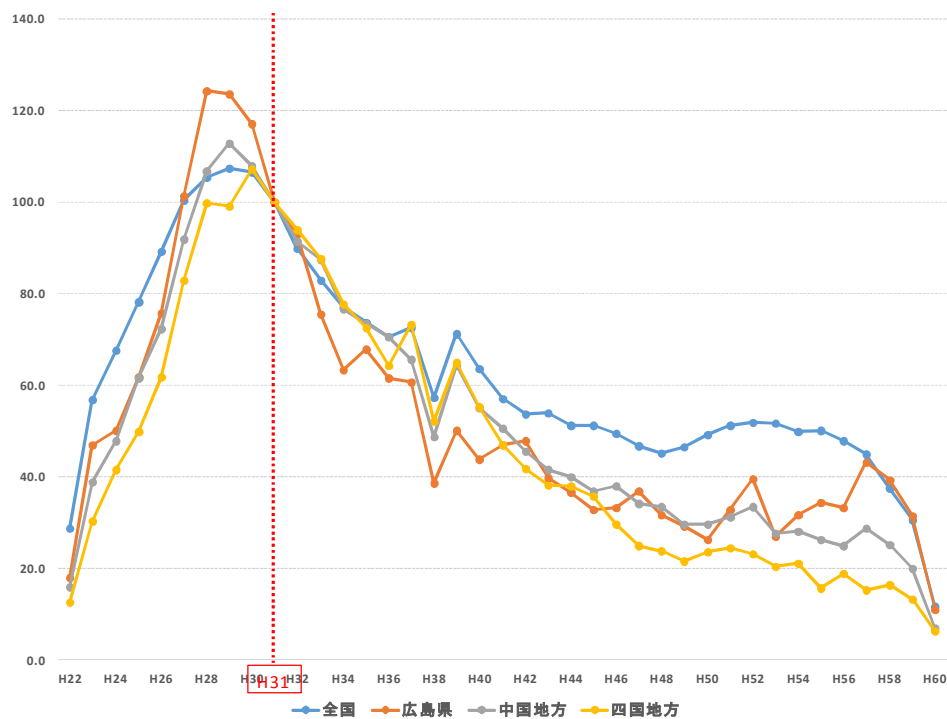
グラフ１ 広島修道大学教育学専攻の志願・定員充足状況



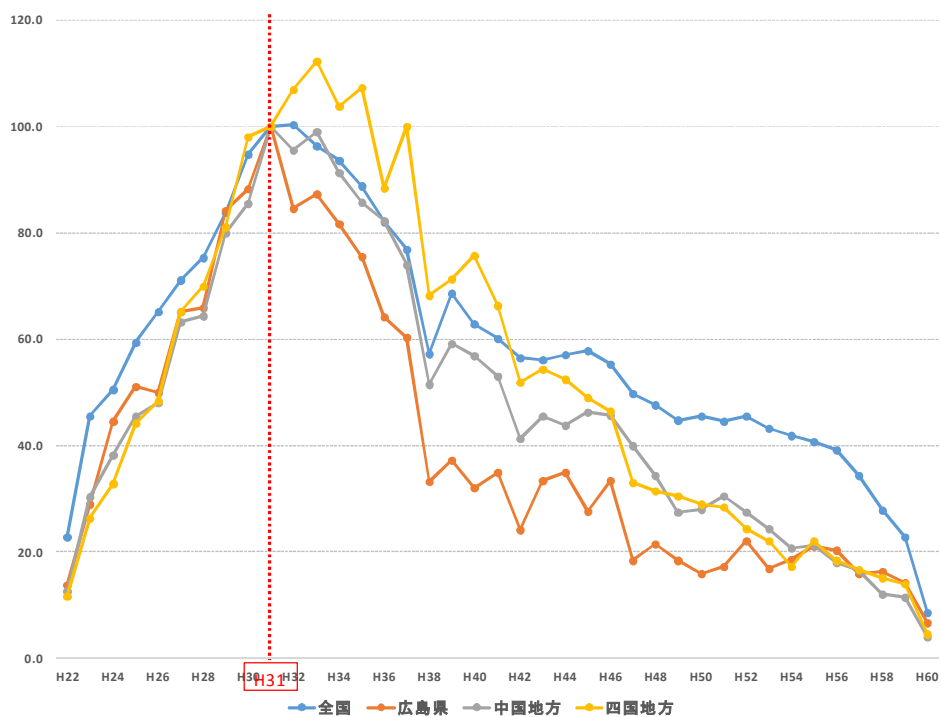
グラフ２ 幼稚園（公私立）平成31年を100とした場合の退職教員数の推移



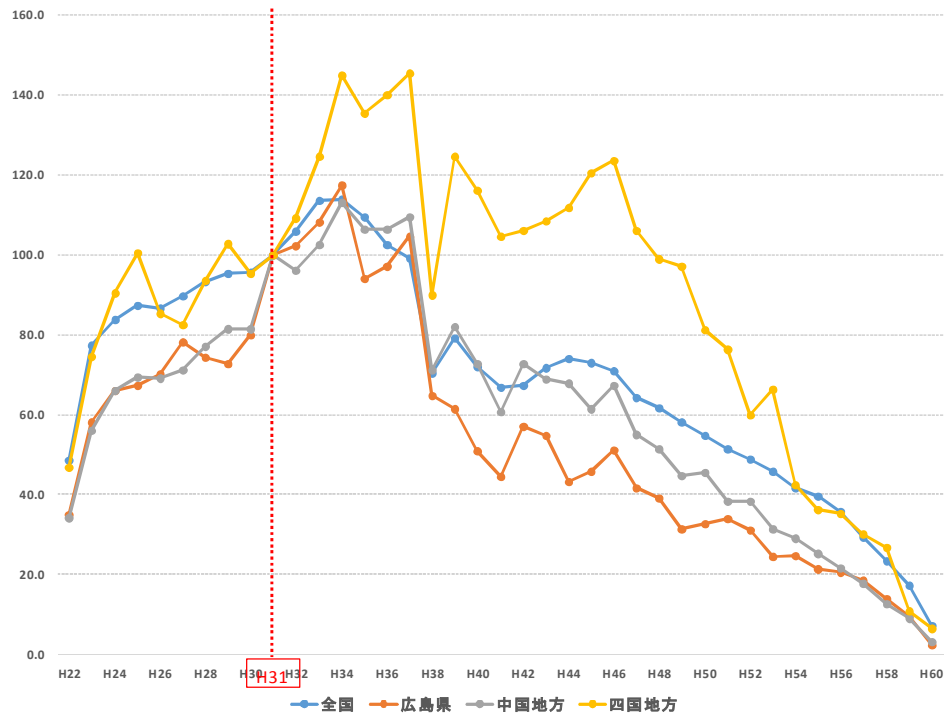
グラフ3 小学校（公立）平成31年を100とした場合の退職教員数の推移



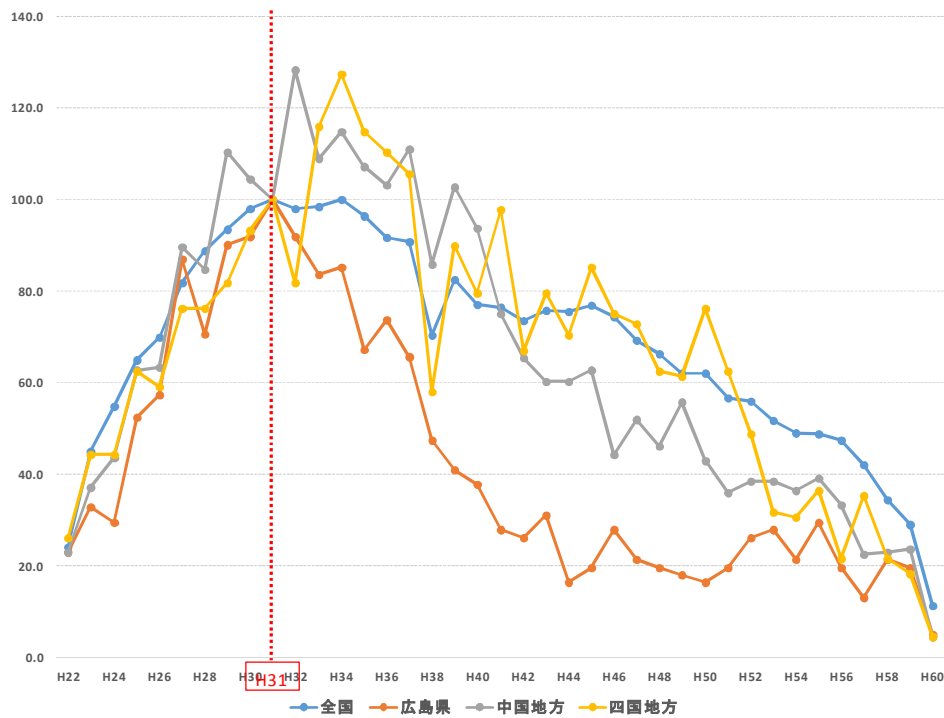
グラフ4 中学校（公立）平成31年を100とした場合の退職教員数の推移



グラフ5 高校（公私立）平成31年を100とした場合の退職教員数の推移



グラフ6 特別支援学校（公立）平成31年を100とした場合の退職教員数の推移



広島修道大学
「人文学部 教育学科（仮称）」
新設に係るニーズアセスメント調査 報告書

株式会社 紀伊國屋書店

目次

1章 学生確保の見通し調査【新設構想についての高校生アンケート調査】結果	3
1. 「新設構想についての高校生アンケート調査」概要	5
2. 「新設構想についての高校生アンケート調査」集計結果	6
3. 「新設構想についての高校生アンケート調査」集計結果のポイント	11
2章 人材需要の見通し調査①【新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）】結果	15
1. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」概要	17
2. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」集計結果	18
3. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」集計結果のポイント	23
3章 人材需要の見通し調査②【新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）】結果	37
1. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」概要	39
2. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」集計結果	40
3. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」集計結果のポイント	48
添付資料	
【添付①】「新設構想についての高校生アンケート調査」	51
【添付②】「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」	57
【添付③】「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」	63

※本調査の実施主体： 株式会社紀伊國屋書店（実施委託先：株式会社高等教育総合研究所）

1 章

学生確保の見通し調査

【新設構想についての高校生アンケート調査】

結 果

1. 「新設構想についての高校生アンケート調査」概要

- ◆ **調査内容：** 広島修道大学が平成 28 年度に新設を予定する「人文学部 教育学科（仮称）」の学生確保の見通しを測定するために、高校生アンケート調査を実施した。
→ 配布アンケート用紙は 51 ページ・【添付①】「新設構想についての高校生アンケート調査」
- ◆ **調査時期：** 平成 26 年 9～10 月上旬
- ◆ **調査対象：** 平成 28 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校 2 年生（平成 28 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。
- ◆ **調査方法：** アンケート実施の了承が得られた高校に高校生アンケート用紙（必要部数）を送付。各校の教職員から調査対象者（高校 2 年生）にアンケート用紙を配布の上、10 分程度の回答時間を設け、その場で回収頂いた。
- ◆ **実施高校：** 広島修道大学に志願者・入学者が多い広島県を中心とした中国・四国地方の実績校にアンケート実施を依頼し、85 校にご協力頂いた。

実施高校の県別内訳

	公立	私立	合計	割合
島根県	7	2	9	10.6%
岡山県	4	3	7	8.2%
広島県	32	20	52	61.2%
山口県	9	5	14	16.5%
愛媛県	2	1	3	3.5%
合計	54	31	85	100.0%
割合	63.5%	36.5%	100.0%	

- ◆ **実施人数：** 11,961 人 （男子 5,521 人、女子 6,314 人、性別無回答 126 人）

2. 「新設構想についての高校生アンケート調査」集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 あなたがお住まいの市町村または都道府県をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 広島市	3,885	32.5%
2. 府中町	199	1.7%
3. 海田町	119	1.0%
4. 熊野町	102	0.9%
5. 坂町	52	0.4%
6. 廿日市市	332	2.8%
7. 大竹市	40	0.3%
8. 安芸太田町	26	0.2%
9. 北広島町	90	0.8%
10. 安芸高田市	57	0.5%
11. 江田島市	59	0.5%
12. 呉市	554	4.6%
13. 東広島市	367	3.1%
14. 大崎上島町	4	0.0%
15. 竹原市	14	0.1%
16. 三原市	93	0.8%
17. 世羅町	20	0.2%
18. 三次市	170	1.4%
19. 尾道市	187	1.6%
20. 福山市	1,345	11.2%
21. 府中市	93	0.8%
22. 神石高原町	13	0.1%
23. 庄原市	32	0.3%
24. 山口県	1,399	11.7%
25. 島根県	1,141	9.5%
26. 鳥取県	2	0.0%
27. 岡山県	785	6.6%
28. 愛媛県	627	5.2%
29. その他	40	0.3%
(無回答)	114	1.0%
合計	11,961	100.0%

⇒ 問1の結果を広島県内・広島県外別にみた場合、以下の通りである。

選択項目	回答数	構成比
広島県内	7,853	65.7%
広島県外	3,994	33.4%
(無回答)	114	1.0%
合計	11,961	100.0%

問2 あなたの性別をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 男性	5,521	46.2%
2. 女性	6,314	52.8%
(無回答)	126	1.1%
合計	11,961	100.0%

問3 高校卒業後の希望進路についてお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 大学	9,132	76.3%
2. 短期大学	1,197	10.0%
3. 専門学校	2,090	17.5%
4. 就職	868	7.3%
5. その他	162	1.4%

※ 問3は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 11,961 人 (全回答者の人数)

問4 あなたの興味のある学問分野をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 文学・歴史・心理	2,055	17.2%
2. 経済・経営・商学	1,764	14.7%
3. 法学・政治	807	6.7%
4. 社会・社会福祉・観光	785	6.6%
5. 外国語・国際関係	1,240	10.4%
6. 教育・保育	2,760	23.1%
7. 理学・工学・情報	1,855	15.5%
8. 農・畜産・水産	466	3.9%
9. 医学・歯学・薬学	789	6.6%
10. 医療（看護）	1,354	11.3%
11. 医療（看護以外）	770	6.4%
12. 栄養・家政	1,034	8.6%
13. スポーツ・健康科学	1,559	13.0%
14. 芸術	971	8.1%
15. その他	525	4.4%

※ 問4は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 11,961 人 (全回答者の人数)

問5 あなたが将来、希望する進路をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 教員	1,779	14.9%
2. 公務員	2,338	19.5%
3. 一般企業	2,156	18.0%
4. 専門職（資格をいかす職業）	3,757	31.4%
5. 起業・会社経営	383	3.2%
6. まだ決めていない	3,499	29.3%
7. その他	413	3.5%

※ 問5は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 11,961 人（全回答者の人数）

問6以降は広島修道大学「教育学科（仮称）の概要」を見た上での回答を求めた。

問6 あなたは広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 受験したい	1,230	10.3%
2. 受験しない	10,363	86.6%
（無回答）	368	3.1%
合計	11,961	100.0%

次の問7・問8は、問6で「1. 受験したい」を選択した高校生（1,230人）のみが回答対象

問7 あなたは広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 合格した場合、入学したい	579	47.1%
2. 合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい	621	50.5%
(無回答)	30	2.4%
合計	1,230	100.0%

(問7で) 2の方は、併願先として検討中の大学・学部をお答えください。

	選択項目	回答数	構成比
他大学等	1. 国公立大学の教育系学部・学科	279	44.9%
	2. その他の私立大学の教育系学部・学科	137	22.1%
	3. 短期大学の保育科	75	12.1%
	4. その他	24	3.9%
広島修道大の他学科	5. 商学科	14	2.3%
	6. 経営学科	11	1.8%
	7. 人間関係学科心理学専攻	31	5.0%
	8. 人間関係学科社会学専攻	17	2.7%
	9. 英語英文学科	32	5.2%
	10. 法律学科	8	1.3%
	11. 国際政治学科	8	1.3%
	12. 現代経済学科	11	1.8%
	13. 経済情報学科	6	1.0%
	14. 人間環境学科	11	1.8%

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 621人 (問7で2を選択した者)

問8 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」は入学後、3つのコースに分かれ、将来の目標に応じた教員免許状等の取得を目指します。あなたが現時点で最も選択したいと思うコースをお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 初等教育コース	569	46.3%
2. 学校教育コース	260	21.1%
3. 教育科学コース	172	14.0%
4. 未定	192	15.6%
(無回答)	37	3.0%
合計	1,230	100.0%

次の問9・10は、問6で「2. 受験しない」を選択した高校生（10,363人）のみが回答対象

問9 あなたが広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」を「受験しない」とされた理由をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 興味・関心のある学問分野ではないから	6,278	60.6%
2. 国公立大学への進学を希望しているから	2,884	27.8%
3. 他の私立大学への進学を希望しているから	1,460	14.1%
4. 短期大学への進学を希望しているから	473	4.6%
5. 専門学校への進学を希望しているから	1,065	10.3%
6. アクセスが不便そうだから	367	3.5%
7. 学費が高いから	1,049	10.1%
8. その他	495	4.8%

※ 問9は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 10,363人（問6で2を選択した者）

問10 以下は広島修道大学が新設を構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」以外の学科です。
あなたが受験を検討したいと思う学科、もしくは興味・関心がある学科はありますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 商学科	890	8.6%
2. 経営学科	1,280	12.4%
3. 人間関係学科心理学専攻	1,498	14.5%
4. 人間関係学科社会学専攻	462	4.5%
5. 英語英文学科	1,000	9.6%
6. 法律学科	719	6.9%
7. 国際政治学科	404	3.9%
8. 現代経済学科	598	5.8%
9. 経済情報学科	697	6.7%
10. 人間環境学科	1,042	10.1%

※ 問10は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 10,363人（問6で2を選択した者）

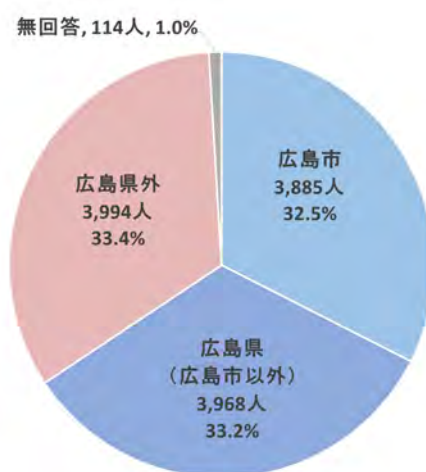
3. 「新設構想についての高校生アンケート調査」集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

● 回答者の約 7 割が広島県内、約 3 割が県外の高校生。

高校生アンケート調査の回答を得た高校生 11,961 人のうち、約 7 割にあたる 7,853 人が広島県内、約 3 割にあたる 3,994 人が県外に住む高校生であった。また、広島県内の高校生のうち、約半数にあたる 3,885 人が、広島修道大学の所在地である広島市内に住む高校生であった。

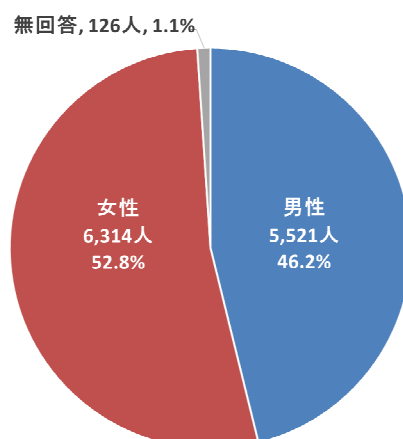
グラフ 回答を得た高校生の居住地（「問 2」結果より）



● 回答者の男女比はほぼ同じで、バランスのとれた結果。

回答を得た高校生 11,961 人のうち、男性は 5,521 人(46.2%)、女性は 6,314 人 (52.8%) であった。女性がわずかに多かったが、男女比はほぼ同じでバランスのとれた結果となった。

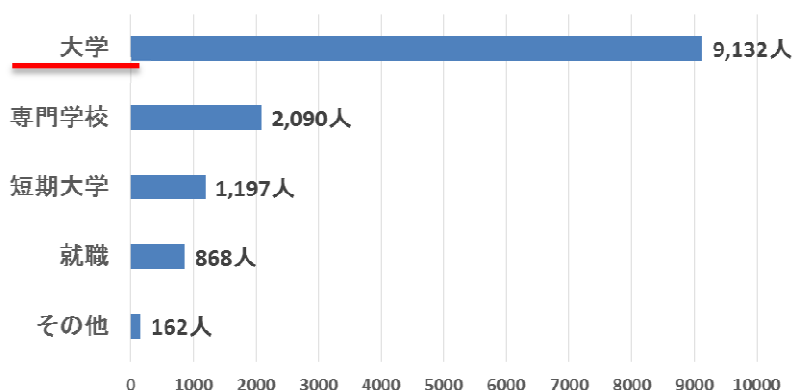
グラフ 回答を得た高校生の男女別（「問 2」結果より）



● 回答者の7割以上が、高校卒業の進路として大学進学を検討。

回答を得た高校生 11,961 人のうち、7 割以上にあたる 9,132 人が高校卒業後の進路として「大学」を選択した（複数回答の結果）。近年、高まる大学進学志向を裏付ける結果であった。

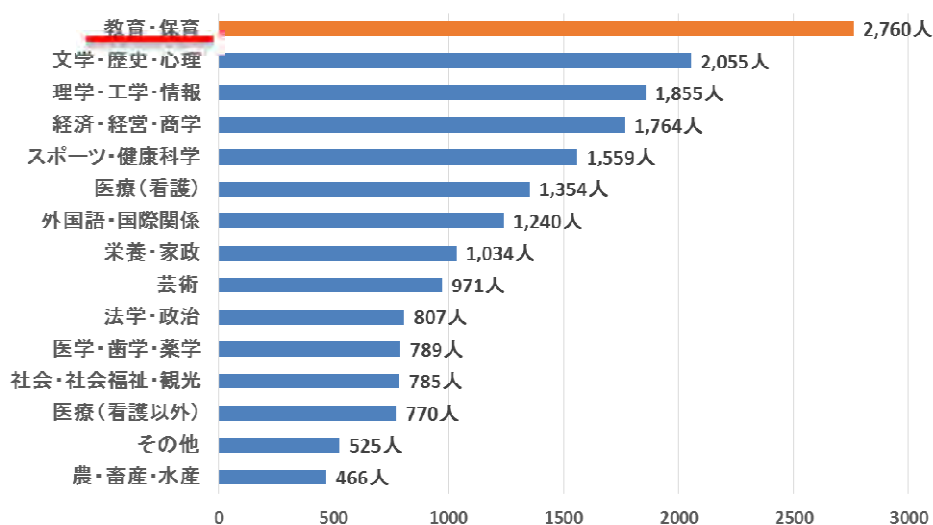
グラフ 高校卒業後の希望進路（「問3」結果より）※複数回答の結果



● 興味のある学問分野として「教育・保育」を選択した者が最も多い結果。

回答を得た高校生 11,961 人のうち、興味のある学問分野として「教育・保育」を挙げた者は 2,760 人（全体の 23.1%）おり、設問項目に置いた 15 の選択肢のうちで最も多い結果となった（複数回答の結果）。

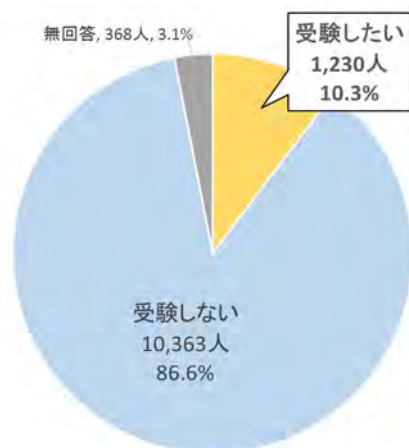
グラフ 興味のある学問分野（「問4」結果より）※複数回答の結果



● 回答者の1割にあたる1,230人が広島修道大学の「教育学科（仮称）」を「受験したい」と回答。

広島修道大学が人文学部に新設を予定する「教育学科（仮称）」の概要を示し、受験意欲の有無についての回答を求めた結果、回答を得た高校生11,961人のうち約1割にあたる1,230人が「受験したい」と答えた。

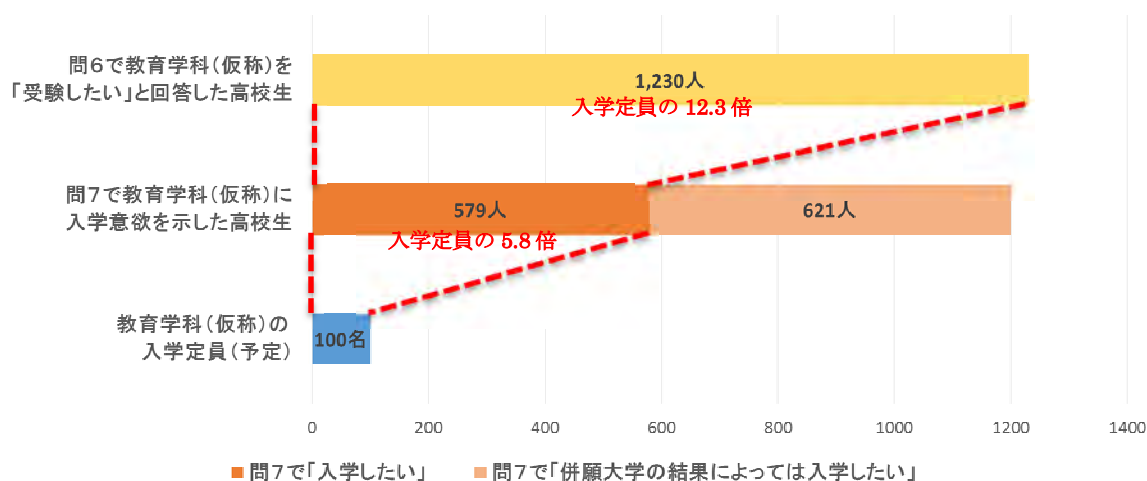
グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」の受験意欲の有無（「問6」結果より）



● 入学定員の5.8倍となる579人が広島修道大学の「教育学科（仮称）」に「入学したい」と回答。

広島修道大学の「教育学科（仮称）」を「受験したい」とした1,230人に対し、合格した場合の入学意欲について回答を求めた結果、予定される入学定員100名の5.8倍となる579人が「入学したい」と回答、621人が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。

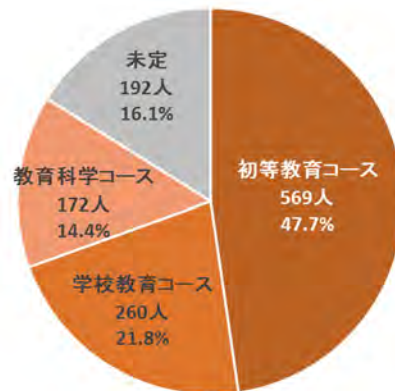
グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」への受験・入学意欲（「問6」「問7」結果より）



● 受験意欲を示した者のうち、約半数が「初等教育コース」を希望。

広島修道大学の「教育学科（仮称）」を「受験したい」とした 1,230 人に対し、現時点で最も選択したいと思うコースについて回答を求めた結果、「初等教育コース」と答えた者が 569 人おり、全体の約半数を占めた。

グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」に入学した場合、最も選択したいコース（「問 8」結果より）



2章

人材需要の見通し調査①

【新設構想についての人材需要アンケート調査(幼稚園・保育所等)】

結 果

1. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」概要

- ◆ **調査内容：** 広島修道大学が平成 28 年度に新設を予定する「人文学部 教育学科（仮称）」の卒業生の人材需要の見通しを測定するために、人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）を実施した。

→ 配布アンケート用紙は 57 ページ・【添付②】「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」

- ◆ **調査時期：** 平成 26 年 9 月
- ◆ **調査対象：** 広島県内および山口県東部の幼稚園、保育所、認定こども園、児童養護施設、病児保育園など、計 756 ヶ所を調査対象とした。
- ◆ **調査方法：** 調査対象先の採用担当者宛にアンケート調査用紙 1 部・依頼状・返送用封筒を送付した。ご協力可能な場合、回答済のアンケート調査用紙をご返送頂くかたちとした。
- ◆ **回収件数：** 269 箇所（回収率 35.6%）／756 箇所

2. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 貴園・貴所についてお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 幼稚園	68	25.3%
2. 認定こども園	9	3.3%
3. 保育所	174	64.7%
4. 児童福祉施設（保育所以外）	14	5.2%
5. その他	4	1.5%
（無回答）	0	0.0%
合 計	269	100.0%

問2 貴園・貴所の所在地をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 広島市	116	43.1%
2. 府中町	4	1.5%
3. 海田町	3	1.1%
4. 熊野町	2	0.7%
5. 坂町	0	0.0%
6. 廿日市市	10	3.7%
7. 大竹市	2	0.7%
8. 安芸太田町	0	0.0%
9. 北広島町	5	1.9%
10. 安芸高田市	9	3.3%
11. 江田島市	9	3.3%
12. 呉市	28	10.4%
13. 東広島市	26	9.7%
14. 大崎上島町	0	0.0%
15. 竹原市	4	1.5%
16. 三原市	3	1.1%
17. 世羅町	0	0.0%
18. 三次市	0	0.0%
19. 尾道市	2	0.7%
20. 福山市	20	7.4%
21. 府中市	0	0.0%
22. 神石高原町	0	0.0%
23. 庄原市	0	0.0%
24. 山口県	25	9.3%
25. その他	1	0.4%
（無回答）	0	0.0%
合計	269	100.0%

問3 現時点の園児・幼児数をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
～35名	24	8.9%
36～70名	62	23.0%
71～105名	61	22.7%
106～140名	49	18.2%
141～175名	24	8.9%
176～210名	26	9.7%
211名以上	22	8.2%
(無回答)	1	0.4%
合計	269	100.0%

問4以降、次ページにつづく。

問4 貴園・貴所において勤務されている幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。

◆ 勤務する幼稚園教諭（合計）

該当人数	回答数	人数合計
1 名	3	3
2 名	4	8
3 名	3	9
4 名	7	28
5 名	6	30
6 名	8	48
7 名	8	56
8 名	8	64
9 名	5	45
10 名	7	70
11 名	3	33
12 名	4	48
13 名	4	52
14 名	1	14
15 名	2	30
16 名	3	48
17 名	1	17
18 名	2	36
19 名	1	19
20 名	4	80
21 名	1	21
22 名	1	22
25 名	3	75
31 名	1	31
32 名	1	32
43 名	1	43
（無回答）	177	-
合計	269	962

◆ 勤務する幼稚園教諭のうち、4 年制大学卒業者

該当人数	回答数	人数合計
1 名	18	18
2 名	19	38
3 名	15	45
4 名	5	20
5 名	5	25
6 名	1	6
7 名	2	14
8 名	1	8
9 名	2	18
10 名	1	10
（無回答）	23	-
合計	92	202

● 269 ヶ所のうち、92 ヶ所（34.2%）で幼稚園教諭が勤務。

● 上記 92 ヶ所のうち、4 年制大学卒業の幼稚園教諭が勤務するのは 69 ヶ所（75.0%）。

● 勤務する幼稚園教諭の合計 962 人のうち、4 年制大学卒業者 202 人の割合は 21.0%

(問4) つづき)

◆ 勤務する保育士（合計）

該当人数	回答数	人数合計
1 名	4	4
2 名	1	2
3 名	5	15
4 名	8	32
5 名	3	15
6 名	6	36
7 名	9	63
8 名	10	80
9 名	1	9
10 名	9	90
11 名	4	44
12 名	10	120
13 名	4	52
14 名	7	98
15 名	5	75
16 名	8	128
17 名	11	187
18 名	8	144
19 名	9	171
20 名	13	260
21 名	3	63
22 名	7	154
23 名	6	138
24 名	9	216
25 名	2	50
26 名	5	130
27 名	1	27
29 名	1	29
30 名	4	120
31 名	1	31
32 名	1	32
33 名	5	165
34 名	3	102
35 名	3	105
36 名	2	72
37 名	1	37
38 名	2	76
39 名	2	78
43 名	1	43
44 名	1	44
46 名	2	92
53 名	1	53
57 名	1	57
(無回答)	70	-
合計	269	3,539

◆ 勤務する保育士のうち、4 年制大学卒業者

該当人数	回答数	人数合計
1 名	47	47
2 名	31	62
3 名	21	63
4 名	12	48
5 名	6	30
6 名	4	24
7 名	1	7
8 名	3	24
9 名	2	18
10 名	3	30
12 名	1	12
13 名	1	13
(無回答)	67	-
合計	199	378

- 269 ヶ所のうち、199 ヶ所（74.0%）で保育士が勤務。
- 上記 199 ヶ所のうち、4 年制大学卒業の保育士が勤務するのは 132 ヶ所（66.3%）。
- 勤務する保育士の合計 3,539 人のうち、4 年制大学卒業者 378 人の割合は 10.7%

(問4) つづき)

認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。
 なお、以下に記載の人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でご記入ください。

◆ 幼稚園教諭＋保育士の両業務に従事する者（合計）

該当人数	回答数	人数合計
1名	1	1
2名	2	4
3名	1	3
4名	2	8
5名	3	15
6名	3	18
7名	2	14
8名	3	24
9名	2	18
10名	3	30
11名	1	11
12名	5	60
13名	1	13
15名	1	15
16名	1	16
17名	2	34
18名	2	36
19名	2	38
20名	1	20
21名	5	105
22名	1	22
23名	2	46
24名	2	48
25名	1	25
31名	2	62
32名	2	64
43名	1	43
(無回答)	215	-
合計	269	793

◆ 幼稚園教諭＋保育士の両業務に従事する者のうち、4年制大学卒業者

該当人数	回答数	人数合計
1名	17	17
2名	5	10
3名	6	18
4名	4	16
(無回答)	22	-
合計	54	61

- 269ヶ所のうち、54ヶ所（20.0%）で幼稚園教諭＋保育士の両業務に従事する者が勤務。
- 上記54ヶ所のうち、4年制大学卒業の者が勤務するのは32ヶ所（59.3%）。
- 勤務する両業務に従事する合計793人のうち、4年制大学卒業者61人の割合は7.7%

問5 貴園・貴所において2014年4月に採用された新卒の幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。

◆ 採用した幼稚園教諭（合計）

該当人数	回答数	人数合計
1名	23	23
2名	13	26
3名	5	15
5名	1	5
6名	1	6
（無回答）	226	-
合計	269	75

◆ 採用した幼稚園教諭のうち、4年制大学卒業者

該当人数	回答数	人数合計
1名	15	15
2名	6	12
（無回答）	22	-
合計	43	27

● 2014年4月に採用された幼稚園教諭75人のうち、4年制大学出身者27人の割合は36.0%。

◆ 採用した保育士（合計）

該当人数	回答数	人数合計
1名	55	55
2名	25	50
3名	15	45
4名	6	24
5名	2	10
7名	1	7
10名	1	10
（無回答）	164	-
合計	269	201

◆ 採用した保育士うち、4年制大学卒業者

該当人数	回答数	人数合計
1名	50	50
7名	1	7
（無回答）	54	-
合計	105	57

● 2014年4月に採用された保育士201人のうち、4年制大学出身者57人の割合は28.4%。

認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。
なお、以下に記載の人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でご記入ください。

◆ 採用した幼稚園教諭＋保育士の両業務に従事する者（合計）

該当人数	回答数	人数合計
1名	5	5
2名	1	2
3名	3	9
4名	3	12
6名	1	6
21名	1	21
（無回答）	255	-
合計	269	55

◆ 採用した幼稚園教諭＋保育士の両業務に従事する者のうち、4年制大学卒業者

該当人数	回答数	人数合計
1名	8	8
2名	1	2
4名	1	4
（無回答）	4	-
合計	14	14

● 2014年4月に採用された両業務に従事する55人のうち、4年制大学出身者14人の割合は25.5%。

a

問6 貴園・貴所における幼稚園教諭・保育士の今後の採用見通しについてお答えください。

◆ 幼稚園教諭免許状 保有者

選択項目	回答数	構成比
1. 不足しており、採用数を増やしたい。	12	4.5%
2. 適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい。	41	15.2%
3. 過剰であり、採用数を減らしたい。	0	0.0%
4. わからない	25	9.3%
(無回答)	191	71.0%
合計	269	100.0%

◆ 保育士資格 保有者

選択項目	回答数	構成比
1. 不足しており、採用数を増やしたい。	35	13.0%
2. 適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい。	52	19.3%
3. 過剰であり、採用数を減らしたい。	4	1.5%
4. わからない	31	11.5%
(無回答)	147	54.6%
合計	269	100.0%

◆ 幼稚園免許状・保育士資格の両方の保有者

選択項目	回答数	構成比
1. 不足しており、採用数を増やしたい。	47	17.5%
2. 適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい。	60	22.3%
3. 過剰であり、採用数を減らしたい。	3	1.1%
4. わからない	27	10.0%
(無回答)	132	49.1%
合計	269	100.0%

問7 今後、4年制大学、短期大学、保育専門学校のうち、いずれの卒業者をより採用したいとお考えですか。

選択項目	回答数	構成比
1. 4年制大学	35	13.0%
2. 短期大学	31	11.5%
3. 保育専門学校	2	0.7%
4. 特にこだわらない	168	62.5%
(無回答)	33	12.3%
合計	269	100.0%

問8 新卒の幼稚園教諭・保育士を採用される際、重視する内容をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. コミュニケーション能力	210	78.1%
2. 基礎的な学力	113	42.0%
3. 幼児教育・保育の専門知識	117	43.5%
4. 社会常識・マナー	204	75.8%
5. 積極性・行動力	150	55.8%
6. 幼児への愛情	179	66.5%
7. チームで働く力	177	65.8%
8. 幼児教育・保育への情熱	189	70.3%
9. 目的達成能力	61	22.7%
10. トラブル・問題解決能力	71	26.4%
11. 特別なケアを要する幼児への対応力	55	20.4%
12. その他	23	8.6%

※ 問8は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 269ヶ所（回答を得たすべての幼稚園・保育所等の数）

問9以降は広島修道大学「教育学科（仮称）の概要」を見た上での回答を求めた。

問9 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」を卒業した学生を採用したいと思いますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 採用したい	42	15.6%
2. 採用を検討したい	80	29.7%
3. どちらとも言えない	94	34.9%
4. 採用はしない	2	0.7%
(無回答)	51	19.0%
合計	269	100.0%

(問9で) 1または2の場合、よろしければ採用可能と思われる人数をご記入ください。

選択項目	回答数	人数合計
1名	42	42
2名	24	48
3名	8	24
4名	1	4
(無回答)	47	-
合計	122	118

(問9) 補足

⇒ ●ページ・問9の結果（採用可能人数）を「1. 採用したい」のみに限定した場合の結果。

選択項目	回答数	人数合計
1名	12	12
2名	10	20
3名	4	12
4名	1	4
(無回答)	15	-
合計	42	48

問10 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

※ 103箇所から回答を得た。以下、回答内容を掲載（原文ママ）。順不同。

1	『心と心の交流ができる』『様々な場面で共感し合える』能力をもっている人を採用し、保育・幼児教育を行ってほしいと願う。知識が優先してしまっても、適応しないと意味がない。実践力の豊かな人材育成を望む。
2	・生活経験豊かな人を望みます。 ・できれば、運動部など一つの事を継続した力を持っていれば良いと思います。 ・ふりかえりながら、前を目指すポジティブな面も持ち合わせてほしいです。 ・第一に、子どもたちと成長していこうと考えてほしいです。（多くを子どもたちから学ぶ事です）
3	学問の詰め込みだけを行うのではなく、保護者とのコミュニケーション能力や子どもの気持ちに寄り添うことの大切さに気付かせてあげられる環境を作っていって欲しいと考えます。
4	常識的な日頃の社会人としてのマナーが第一。又、打たれ弱い人ではなく、ハングリー精神のある方がより職場の中でも調和と向上心をもって人との関係が保たれると思います。ねばならないではなく、違った考えもあると思える柔軟さもある人。ようは、人格（素直さ・前向きな人）ですかね...
5	職場の内（職員間）外（保護者・近隣）とのコミュニケーション能力の強化
6	大人の礼儀をわきまえた学生を養成してください
7	保育や教育はその子の人生を左右するとても大切な仕事であることを常に忘れず教養を身につけ大学でしっかりと学んで取得した資格をしっかりと生かしていただきたいと願っています。
8	公立保育所のため直接人事のことに関わることは出来ませんが、就職する上において、実習は必須となりますが、それ以上に他の部分での経験もたくさんされていた方が、社会に出て有利なのではないかと思えます。保育に限らず、多方面での経験をたくさんできるようにすすめてあげるとよいかと思えます。
9	人と接する力のある学生さんを期待します。
10	昨今の学生は家庭教育を受けていない人が大半であり、先ず社会常識に欠ける。注意されるとはぶてる。人の話を真面目に真剣に聴こうとしない。社会人になるための基礎学習をしっかりと身につけられる様な専門教育をしてほしい。学問的な事はその上に自然に培われるものであると思う!!
11	総合大学ならではの教養と経験を持ち、幼児教育の専門知識をしっかりと勉強してほしい。

12	①子どもに遊んでもらえるかどうか見極めてもらいたい。 ②学友としっかり関わっているかどうか見極めてもらいたい。 ・この2つは大学で修得できるものではありませんので、保育所等の世界に送り出す前に学校で把握しておく必要があると思います。 ③子どもとの集団的なあそびをしっかり身につけさせてほしい。 ・こどものころ、集団であそぶ経験がほとんどないので、これは学校でしっかり教えておく必要があります。 後は一般的な学習が平均的であれば良いと思います。その他のことは現場で教えるのが一番で、学校には期待しておりません。
13	何よりも情熱だと思います。情熱のある所だとロコミで人が集まります。
14	人と接する職業ですので、相手に対する思いやりや感謝の気持ち等を大切に出来る学生が多く輩出される事を期待しております。
15	現在、鈴峯女子短期大学の生徒の実習を受けています。吸収合併されることで、生徒の基礎学力が up することを期待します。しっかり教育してあげてください。期待しています。
16	短大・4大学校などの違いではなく、最終的には「人」だと思います。年によってこちらが求める力も多少変わることがあります。一言でまとめられないところがこの仕事の難しさかもしれません。ただ、4年制は短大に比べて時間的な余裕があり、卒論を書くという違いはありますので、研究的視点や書く力に期待は持っています。バランスは必要ですが...。自惚とは違う「一種免許取得者として就職する」自信とか誇りを持って卒業してきてほしいと思います。
17	つながる教育、子ども子育て支援制度などの社会のニーズに応じていくには、貴大学のように、いろいろな専門の資格を取得した人材が必要となるため、学科の開設に期待いたします。
18	何年度に開設ですか。
19	幼児教育は、公的なものにあまりしぼられず、独自の教育観で教育又は保育にあたってきました。小学校教育とは性格のまったく違う幼児教育、養護について、よく理解し、訓練された人材の育成を期待しています。
20	・コミュニケーション力の必要な職業だと思います。職員間はもちろんのこと、子どもへの話し方、聞き方、保護者や地域の方とのコミュニケーションも多いです。しっかり鍛えてもらったら良いと思います。 ・保育現場での実習が豊かな方が、実際に仕事につくことを考えると重要なことだと思います。年令に応じた子どもの発達や対応についても現場での実践が一番だと思います。
21	保育に関する知識や一般的な教養をきちんと身につけ、保育に対する熱意を持ち、永く勤められるような人材を育成していただきたいです。
22	乳幼児期の子どもたちを育む職場なので、人として大切にする心の根っこを育てていきます。まず自分自身、「自己肯定心」「他者を認める心」を持っているかどうか、この部分に是非ともスポットを当ててください。
23	広島には共学・4年での保育士資格を取得できる学校が少ないので、すばらしいことだと思います。保育に関しての経験や知識は保育園に就職後に得ていけばいいので、新卒の方には社会人としてのマナーや指導に対する柔軟な心（受け入れる心）など、まずは基本的なところを身につけて社会に出て頂ければ、と思います。期待しています。
24	基礎的な学力と社会常識・マナーを持った人材の育成を期待する。
25	・保育園はシフト制や数人担任ですが、幼稚園は1クラス1人担任で敬遠されがちですが、是非幼稚園の教諭になりたいという方の養成をお願いします。 ・ピアノの授業のなくなった短大等もあり、現場に出られてから本人が苦勞するという現状です。是非ピアノの力もつけてあげてください。
26	現代社会の教育課題の本質を見据えそれに対応できる人材を育成していただければと思います
27	現場の実態をよく知って、学びを深めつつ、それに挑むような積極的姿勢をもって卒業させて頂くことを願います。
28	地元を受け入れられる学生、地元と密着する学部・学科であってほしい。どんどん現場経験の教員を増やし、少人数で徹底的に力量のある教員を育ててほしい。
29	近県で教諭一種免許状（小・幼）及び保育士資格が共にとれる4大は殆どなかったのではないのでしょうか。これから幼、保、認定等進む道が不透明である中、幼児に携わる仕事に就こうと思っている若者に、どの大学を指南したら良いか迷っていました。期待しています。

30	四年制大卒の場合、学力はすぐれていても「実践力」が不足している場合が多いと感じております。どうぞ"すぐ使える力"を養って下さい。この職業は知識だけが整っていても、どうにもなりません。せっかく四年生を卒業するのですから、何か特徴を持って、教育にたずさわってほしいと思います。
31	・音楽などの技術面も大切ですが...人物がしっかりしていることが重要だと考えます。人間関係、コミュニケーション力、協調性、思いやり、人を大切にする、生命倫理に対する正しい考え方が身についているか ・学問的なことだけでなく社会常識、マナーなど人間としての生き方の基礎をしっかり身につけて欲しい。
32	保育士不足ですので是非優秀な人材を送り出して下さい。
33	近年の新卒者は、挨拶ができない、言葉づかいがおかしい等、マナーや社会常識に欠ける者が多いと思います。専門知識に関しては、正直、数年間の勉強で身についたと考えるのは思い上がりで、現場で少しずつ身につければよいことです。それより基本的な常識、マナーを知らない人は人として子供の指導・保育に向いていないと考えます。
34	私にはよく理解できませんが、4年制を出て来た方でも保育ということをどう勉強して来られたのかと疑いたいのです。人文学部、教育学部とは基本的にはどのような教育なのでしょう。先ず基本的人権がわかっていませんよ。子どもを無視して、自分がやろうとしたことを強制的におしつけます。昔からの大学の講義そのまゝのようです。 ・基本的人権を忘れない ・叱らず保育する ・ひとりひとりを大切にする ・子どもに無理におしつけることなく子どもが持てる良さをいかにして引き出すか ・意見（思ったこと、考えたこと）を大きな声ではっきり言う子にしていける←大学生でもできない人がある 大学と現場ではいかに違うかということ、保育の現場で役立つ様に教育をしていただきたい。ほんとうの保育とは？現場で役立つ保育とはを指導者はうんと考えてとり組んでいただきたい。あゝしろ、こうしろというのは、子どもは動かされているだけで、子どもは変わりません。価値ある保育をしていたら育つような保育士さんを育ててください。 これだけの時間をとって協力しようとしたが、何の役にも立たないというようにされてはたまりません。私達現場のものは大学出の人に弱っているのですから無駄にしないでお願いしますようよろしくお願いいたします。
35	遊び心と生き抜く力をもったたくましい心豊かな人間像を育成してください。
36	伝統ある広島修道大学で幅広い視点での人材を育成する教育学科を今後新設されることに心より期待をしております。
37	特に要望はありません。真面目な努力家を望みます。
38	働くことの意味、自分を育てる意味など、根源的な内容についても指導をしていただき、人としての生き方を身につけた人材を育成してほしい。
39	発達障害の疑いの子どもが増加傾向にある為、一人一人に合った支援が必要となっている。現場に入ると、時間内での研修は困難となる為、学生の時に支援方法をしっかり学んで欲しい。
40	近年保育の世界では保育の内容の充実に加え、保護者支援についての対応の重要度が高まっています。時代の変化とともに柔軟に対応できる人材は必須です。一方で、子どもへの愛着、自己肯定感を育む、健やかな成長の支援ということについては強い気持ちを持って、保育に当たる事が大切なので、保育を語りたい熱い人材の育成を期待致します。
41	知識のみでなく、人間性重視の教育をお願いしたい。
42	・教える人より支援できる人の養成をお願いしたい。 ・多様な価値観を理解・受容できる人の養成。 ・感性の強い人、人の気持ちがわかる人、気づき（自分・他人）気づく人
43	専門知識はもちろんですが、その土台となる「人間力」をしっかりと培って欲しいです。
44	色々な要望がありますが、まず一番に人に接していく仕事ですので、人として中味のしっかりつまっている方を育ててほしいと思います。
45	・与えられたことをこなすだけでなく、想像の翼を働かせ、イメージ豊かな人材を期待します。 ・子どもが大好きである、愛しいと思える人になっていただきたいです。
46	保育士、幼稚園教諭とともに野原をしっかりとかけ回ったような経験をしてほしい。自然物、小動物、昆虫などもさわれたり知識もほしい。

47	学生が年々、幼児化しているように思うので、自分の考えをきちんともち、実行できるなど、きちんとした大人になって卒業してほしい。また、専門知識だけでなく、ある程度の基礎学力がないと、保育士として働き始めた後の成長の差が出てくる。（指導しても身につかないなど） 人の命を預かる仕事なので、責任感を持ち、仕事に向き合うために、早い時期より、実習を通して現場を経験させてほしい。
48	何の仕事にも前向きな人
49	幼児教育を志して学んでいかれるのであれば、少しぐらいの困難があっても続けてほしいと思います。持続することも大きな才能のひとつだと——。幼児教育は創造する能力が大事です。何ごとにもポジティブに、おおらかに、楽しんでつくることの好きな方を育ててほしいと思います。
50	・初等教育コースを選び勉強される方に対しては、特に音楽の技能を身につけて頂き、即戦力となる様努力して頂きたい。 ・実習を多く経験され、机の上だけの勉強、知識だけでなく、現実の毎日に通じるものをしっかりと身につけて頂きたい。
51	保育士は今、不足状態にあります。卒業されたら、保育現場で働きたいと思ってもらえるよう保育士はやりがいのある職業であることを伝えていただきたいと思います。
52	人（他人）を育てるには自らも育っていく必要があります。マニュアル通りに進まない時に対処する能力を身につけられることがこれからは特に重要だと思います。
53	現代の教育現場は、教育者にとって非常に厳しいのが現実です。保護者の要求も大きく、又、現代は、特別なケアを要する子どもも増えてきています。そういった厳しい現場での激務に乗り越えられる、明るい人材、素直な人材を求めています。
54	正直申し上げて鈴峯女子短大の四大化であれば採用はむずかしいと思われます。学んでくるものに差がありすぎますので。ただ今は頭数さえ揃えばという施設も多く、不足気味ですので、就職には困らないと思います。
55	・幼児期の教育の大切さも認識されていますが、対応する職員の資質も問われています。専門的な知識と実践を合わせもち、又、保護者にも信頼される人格の育ちも大切なことだと思います。 ・支援がいる幼児についても知識の豊富な方と出会いたいと思います。
56	福島市の学生（卒業生）が居る事。遠方に居住の人だと中々就職に結びつかない。採用が出来ない。
57	4年制であるならば、短大にプラス何か専門的に深めた学びの部分があれば...と期待します。たとえば発達、障害、発達障害、保健衛生、カウンセリング等、保育士には様々な専門的な知識が要求されます。
58	授業の中でグループ討議を活発に行ったり、一つのこと（学園祭でも何でもいいですが）をみんなで創りあげていくような活動をしたり、意思を出し合い、時には論議してぶつかり合ったり、その中で合意をつくり出していくような取りくみをたくさん経験できておくのがいいと思います。
59	近年現場では、課題のある児童が増えており、その子たちへの保育力が求められます。基礎的な学力はもちろんですが、実際に現場で実習やボランティア、連携会などを通して学ばれることをおすすめします。又個々に個性が違う子、保護者の人格もそれぞれ違いますので、それらに適応できる柔軟さが必要かと思います。先生方にも現場での声をききながら、課題をすすめられることを期待します。子どもや人を大切に思い、現場に来てくださる保育士・教諭がたくさん育てられることを期待します。よろしくをお願いします。
60	発達の理解はもちろんのこと、人と人との関わりの場であるので、コミュニケーション能力も必要です。健康で進んで物事に取り組む姿勢のある人物を求め期待
61	新卒で、どちらかの資格しかない（保育士、幼稚園教諭）という学生はむずかしいと思うので、必ず両方とらせるようにして下さい。
62	日本の将来を担う人材又その未来の担う子供たちの育ちを見守る教育者として自覚をもってほしいと願います。
63	採用試験で「何故幼稚園の先生になりたいと思ったか？」という質問をすると、「子どもが好きだから」とか「自分の特技が活かせるから」とか答える学生が殆どであるが、そういった理由は当たり前の回答であり、その程度の気持ちで就職したのでは、これからの幼児教育は担えないと思う。大学で専門性を高め、幼児教育に情熱をもって取り組める人材を育成していただきたいと思う。在学中に社会性を磨いたり、コミュニケーション能力を高めるような経験をしっかりとらせて欲しい。
64	学歴重視ではなく、人間性をしっかり育てて頂きたいです。

65	福山市立女子短大が福山市立大となったため、地元の学生が入学しにくくなり、また在生学生も卒業後に各自の地元へ帰ってしまう可能性が高いという問題が生じています。広島修道大には福山市からの入学を希望する学生が多いため、地域に根ざした採用・進路指導を望みます。広島市内の大学のなかでは、広島修道大の卒業生が占める社員の割合がどの企業も多い印象が、福山市ではあります。
66	大学に行くほどの若者が、自分の好きな道を模索しようとするだけでなく、人に喜ばれるための勉強をしようという志を加えて下さったら幸いです。
67	人としての豊かさのある人、子どもを愛する人を期待します。
68	接遇、マナーも社会人として身につけていただきたい。チームワークが大切なので、協調性が必要です。人が好き、子どもが好きな方に保育士になっていただきたい。
69	日常生活のマナーを少し身につけていただければ良いと思います。（どの学校に対してもお願いしたいと思います）小さな園にまでアンケートをお送りいただき、ありがとうございました。
70	子育ての基本は家庭にあると思います。最近の子どもは家庭環境が大きく影響しているように思われます。学生の皆さんには、子育て中の方の話を聞く時間を持つなどして現状を知ってもらった上で、子どもに対する教養知識を得ていただきたいと思います。
71	問8にも記入しましたが、人に接していく仕事なので「頭で考える」より「心で感じる」ことを大切にしてほしいと思います。専門的な技術は現場に入らないと身に付いていきません。それを吸収できる幅広い視野と受け入れる姿勢を身に付けて欲しいと思っています。自分も大切に、そして相手の人も大切に思える心を育んでもらえていたら現場で育っていくものは大きいと思います。
72	広島県内にある大学で、幼稚園教諭・保育士の免許を取得できる大学・短大が多くあります。現場で即実践力となる人材を育てていきたい。
73	学業はもちろんですが、社会人としてのマナーとか、臨機応変に行動のできる人間性など身につけるようになってほしいです。言われた事だけしかできないのでは保育園としてチーム力を向上できません。まわりが見える人材育成をしてほしいです。
74	学生の質の向上をより進めて下さい。
75	財満先生のもとで学ばれた学生さんが、以前は障害者支援の現場へ入ってこられていましたが、この頃は貴大学から福祉の現場へ入ってこられる学生さん少なくなったように思います。
76	特別支援の子どもが増加している中、専門的に学んで現場に来ていただけるのはありがたいです。児童教育学科等では初等教育（特に小学校）中心になってしまうので、その中でも幼稚園を重視した教育をされる中で幼稚園現場に来ていただけると即戦力になります。小学校中心に勉強されて幼稚園に来られると対応が難しい場合がある。
77	やる気、元気があり、他職員とコミュニケーションがうまくもち、少々の失敗にくじけない学生。人として常識のある行動。
78	現保育園では高い教養は必要と感じません。子供を育て保育するには知識だけでは無理です。又、子供に接する場合、邪魔になる事もあります。元気で明るくコミュニケーションが取れる知恵のある学生が保育園では良いです。教養は大切な事ですが、人間性もしっかり育てて下さい。
79	子どもに深い愛情をもち、年齢に応じた成長発達、又一人ひとりを大事にした保育をしっかり学ばれる場になることを願います。宜しくお願いします。
80	採用時より担任の可能性が高くなっています。より多くの実習をする事によって、現場の実態を理解して欲しい。短大生は2年間で自分の進路を決めなくてはなりません、4年生の1年生～2年生での実習は、自分の進路まで考えていないので、単位の為の実習という感じが見られます。
81	心を育てる保育。気になる子どもたちが多くなった現状があります。支援や養護面での教育の充実される事が良いと思います。
82	専門的な学習も大切ですが、子どもの手本となるよう、社会常識や人として必要な態度、考えも身に付けておいていただきたいと思います。自所で採用していませんので、参考にならない部分があるかと思います。
83	保育の仕事は思っている以上に雑用業務が多いので、汚い、しんどいこともあることを知らせておいてほしいと思います。
84	これからは、4年制大学卒業生を採採用していく方向で考えたいが、人材不足であり、短卒採用となる。幼児教育の理論はもちろん実践（実技）等のカリキュラムもとり入れていただきたい。

85	在学中に基礎学力はもちろんのことですが、保育は人と人が関わる仕事ですからコミュニケーション能力や社会常識をわきまえた上で乳幼児への愛情・情熱をもてる人材の育成をよろしくお願いします。
86	メンタル面の弱い人が多いです。教育・福祉場面で仕事される場合、自分でケアできることも大事です。ケアが不充分だと、目の前の子どもへの人権侵害がおこりかねません。
87	現場に行く機会を多くし自分なりの課題をみつけれられる人材を育てて欲しい。
88	子どもへの愛情と他者（職員）とのコミュニケーションがとれる人であってほしい。精神的にもたくましくあってほしい。
89	便利な社会で育ってきた若者は、人を育てる立場にある職につく事は、かなり厳しいと思います。（人としてどうか？）経験を積み重ね、実践力のある人材を求めます。
90	大学在学中にできる限り実践力を身につけて欲しいです。
91	積極性と行動力、記録力のある人が必要と思われます。新制度の中で粘り強く仕事を続けていける人材育成を望みます。
92	沢山、資格が取れるのは魅力の1つであるが、実践の中で更に深めていく研鑽をする必要があるのが教育である。4年間の学びを実践で活かしていくことはもちろん、長期間勤める人が少ないのも事実であり（出産等で辞職するなど）取得した資格を活かす志も高くもって欲しいと願う。
93	・理論は大切ですが実践力を身につけてほしいと思います。大学在学中に実習だけでなく、ボランティア等で身近な施設等に訪問させてもらう等、積極的に乳幼児に関われると良いです。 ・色々な家族形態があり、保護者支援の必要性も知っておいてほしいです。
94	保育の仕事は対人なので、精神的に疲れることが多いです。ストレスを上手に発散させたり、気持ちを切りかえたりできる人が長く勤めることができるように思います。今までの個人の育ちにも関係することなので大学に期待することではないのかもしれませんが、そのような話が就職までにあると良いのかも・・・と思いました。
95	幼児教育の道に進みたいという学生には強い意欲や情熱を持っていてほしいです。それと同時に簡単な仕事ではないという現実も理解してほしいです。自分の思っていたのと違うから辞める、自分の思い通りにできないから辞めるといった意思の学生では困ります。自信は必要ですが、自信過剰になって先輩のアドバイスを聞けないようでは今後の成長は望めません。自分に対して都合の良い人の言うことだけ聞くのもダメです。チームワークを必要とする仕事ですからある程度のコミュニケーション能力、常識、素直さは欲しいです。
96	保育所には支援の必要な児童が年に増えている状況です。是非とも専門的な知識と人権感覚の育った学生さんを輩出して頂きたいと期待します。
97	乳幼児期の保育の人間形成における重要性は、ますます認識されなければなりません。保育現場で活躍する人材をお育て下さるよう切にお願い申し上げる次第です。期待する点はこのことにつきます。
98	人事については、公立なので各保育所ではなく、市の担当課が募集をします。毎年途中入所もあり、不足が続いています。しかし、非常勤、臨時職員ばかりなので、申し訳ないです。
99	幼児教育は未来を担う子ども達の発達をうながす重要な仕事です。基礎学力は基より、全ての事に対応できる人間力を備えた人材が必要。そういう人材を育てていただきたいと思います。
100	社会人で働く心得、コミュニケーション力
101	人を育てるという仕事は責任が大きく、特に乳幼児期につけるべき力、人間として豊かに生きていける土台の力を育むための学びを在学中に充分して頂きたいです。また、これからの社会を担う一員としての自覚をしっかりとち、視界の広い情熱をもった人材育成を期待しています。
102	採用に関しては、保育所は一切関知しておりません。市へおたずね下さい。
103	学科の特色で示しておられる内容を充分鍛えていただき、あたたかい情熱の続く教員を望みます。

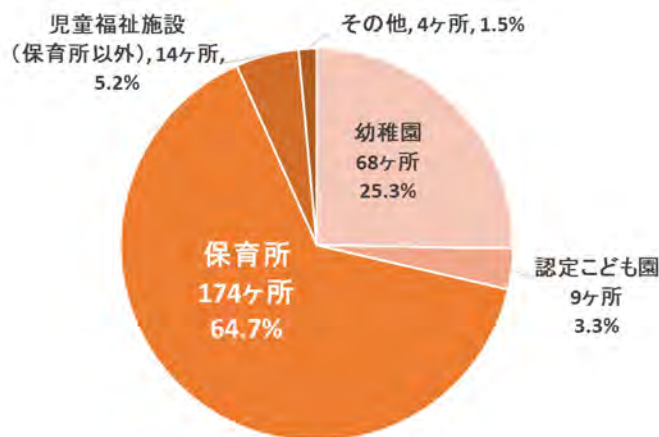
3. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（幼稚園・保育所等）」集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

- 保育所・幼稚園をはじめ、認定こども園、保育所以外の児童福祉施設、病児保育所等から回答。

人材需要アンケート（幼稚園・保育所等）で回答を得た 269 ヶ所の施設等を種類別でみた場合、最も多かったのは保育所の 174 ヶ所、次いで多かったのは幼稚園の 68 ヶ所であった。以上で全体の 9 割で、残り 1 割は認定こども園、保育所以外の児童福祉施設、その他（病児保育所など）からの回答であった。

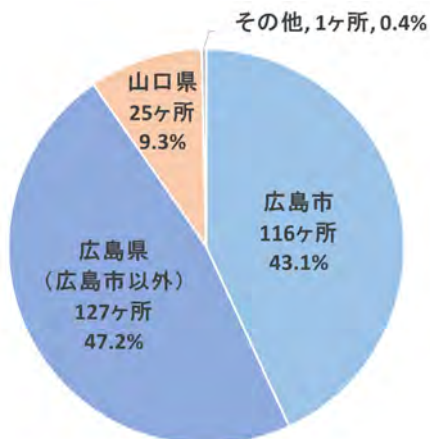
グラフ 回答を得た施設等の種類別（「問 1」結果より）



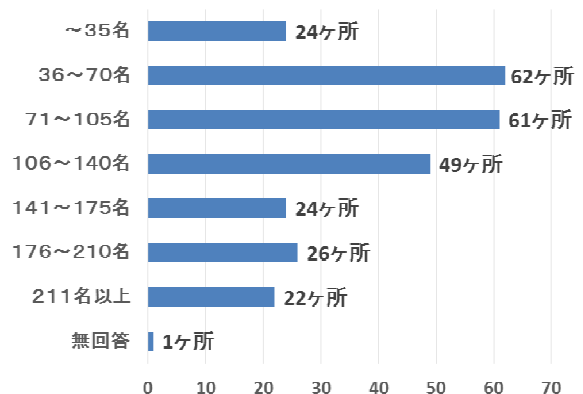
- 広島市内をはじめ県内全域・山口県（東部）の、幅広い規模の幼稚園・保育所等から回答。

回答を得た施設等 269 ヶ所のうち、約 9 割にあたる 243 ヶ所が広島県内、約 1 割が山口県内（東部）の施設等であった。園児数・幼児数（規模）別にみた場合、「36～70 名」と回答した施設等が 62 ヶ所で最も多く、以下「71～105 名」61 ヶ所、「106～140 名」49 ヶ所など、幅広い規模の施設等から回答があった。

グラフ 回答を得た施設等の所在地（「問 2」結果より）



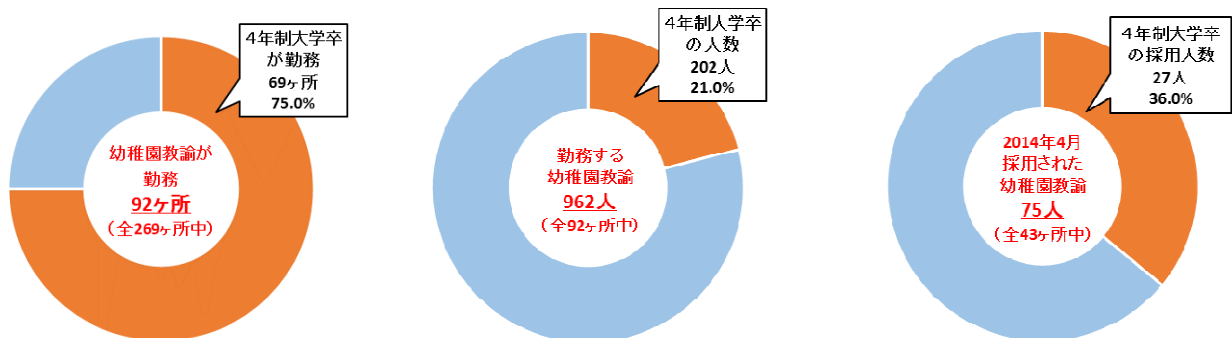
グラフ 同 園児数・幼児数（「問 3」結果より）



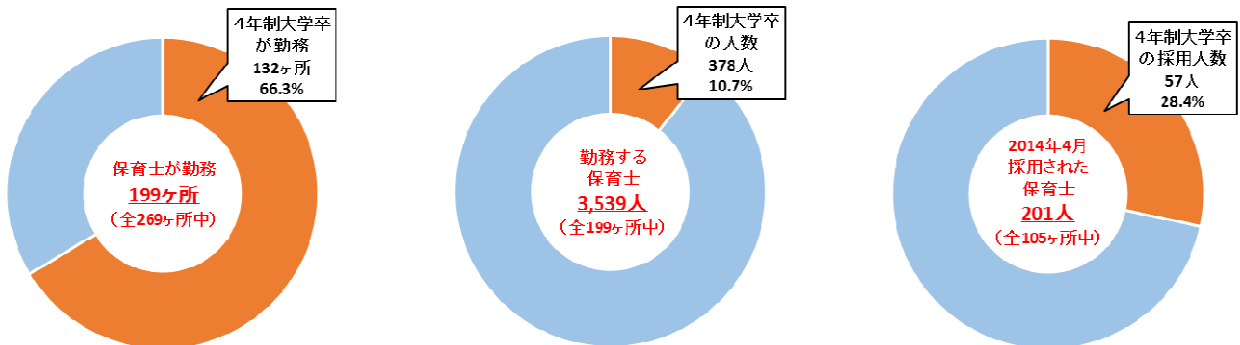
● 6割以上の施設等で4年制大学卒の幼稚園教諭・保育士が勤務し、採用幅は拡大傾向。

幼稚園教諭が勤務するとした92ヶ所の施設等のうち、69ヶ所（75.0%）に4年制大学卒の者がいた。勤務する人数は962人中202人（21.0%）だが、2014年4月の採用人数は75人中27人（36.0%）であった。保育士は199ヶ所のうち132ヶ所（66.3%）で4年制大学卒の者が勤務し、勤務する人数は3,539人中378人（10.7%）だが、2014年4月の採用人数は201人中57人（28.4%）であった。幼稚園教諭・保育士両方の業務に従事する者は54ヶ所のうち32ヶ所（59.3%）で4年制大学卒の者が勤務し、勤務する人数は793人中61人（7.7%）だが、2014年4月の採用人数は55人中14人（25.5%）であった。このように、あらゆる場合において、4年制大学卒の人材の採用幅は拡大している状況がうかがえた。

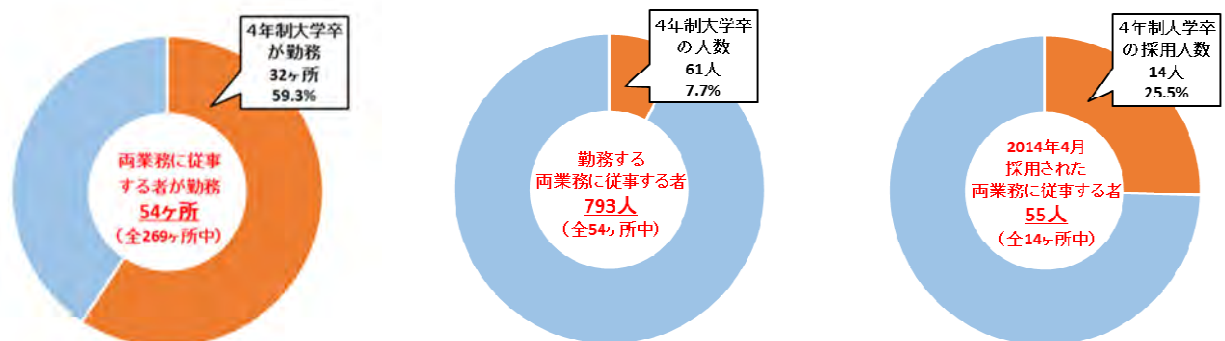
グラフ 幼稚園教諭の勤務・採用状況（「問4」「問5」結果より）



グラフ 保育士の勤務・採用状況（「問4」「問5」結果より）



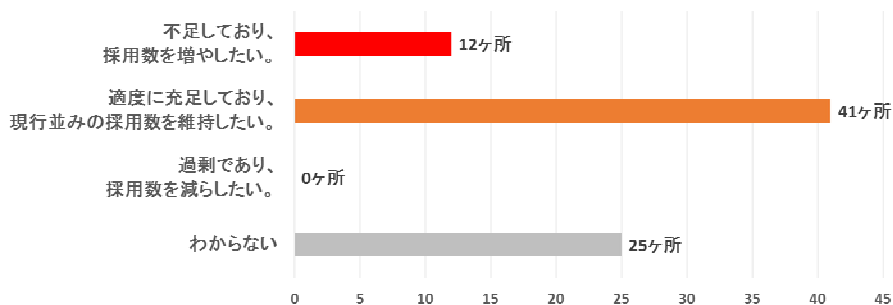
グラフ 幼稚園・保育士の両業務に従事する者の勤務・採用状況（「問4」「問5」結果より）



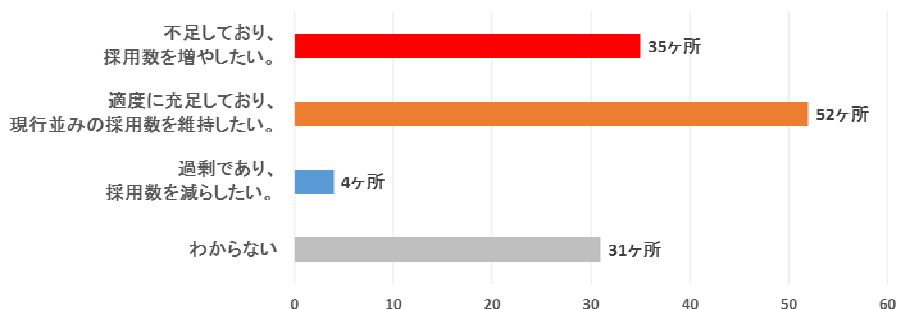
● 新制度開始を間近に控え、幼稚園免許状・保育士資格の両方を持つ者が不足気味。

保有する免許状・資格別の今後の採用見通しについては、「幼稚園免許状・保育士資格の両方の保有者」が「不足しており、採用数を増やしたい」とした回答が最も多かった。2015年4月の「子ども・子育て新支援制度」の開始を控え、両方の免許状・資格を持つ人材の需要が特に高まっている状況が伺えた。

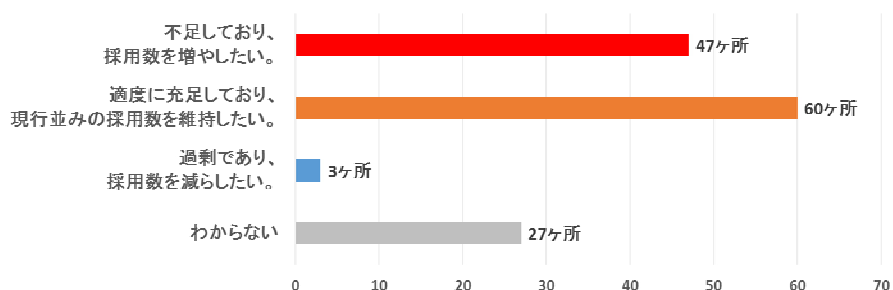
グラフ 幼稚園教諭免許状保有者の採用見通し（「問6」結果より）



グラフ 保育士資格保有者の採用見通し（「問6」結果より）



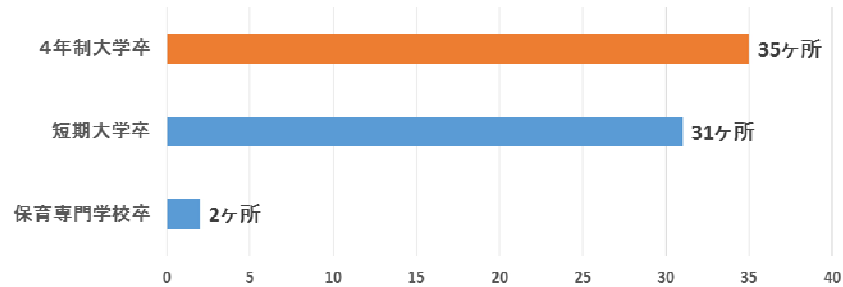
グラフ 幼稚園免許状・保育士資格の両方を持つ者の採用見通し（「問6」結果より）



● 今後は「4年制大学卒」を「採用したい」が、「短期大学卒」「保育専門学校卒」を上回る。

今後の人材採用については、採用予定者の学歴は168ヶ所が「特にこだわらない」とし最も多かった一方で、35ヶ所が「4年制大学卒」を「採用したい」と回答し、「短期大学卒」31ヶ所、「保育専門学校卒」2ヶ所を上回った。

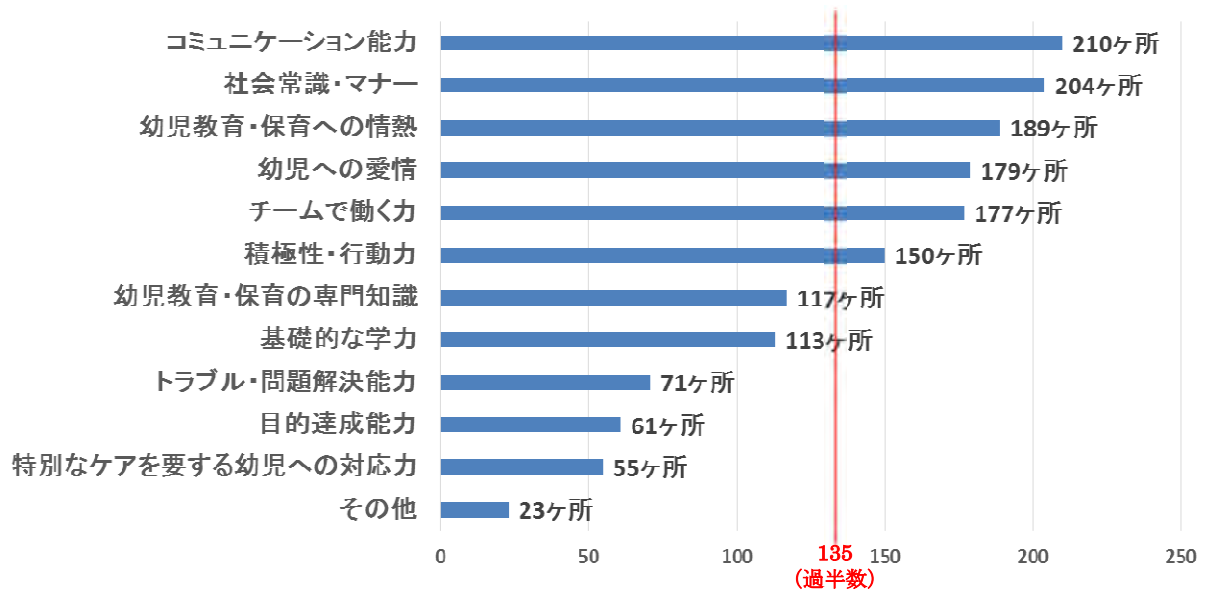
グラフ 学歴別の今後の採用見通し（「問7」結果より）



● 幼稚園教諭・保育士にも「コミュニケーション能力」などの社会人基礎力が強く求められる。

新卒の幼稚園教諭・保育士に求める内容として、189ヶ所（70.3%）が「幼児教育・保育への情熱」、179ヶ所（66.5%）が「幼児への愛情」と回答する一方、それらを上回る210ヶ所（78.1%）が「コミュニケーション能力」、204ヶ所（75.8%）が「社会常識・マナー」を挙げ、幼稚園教諭・保育士に対しても社会人基礎力が強く求められている状況が伺えた。

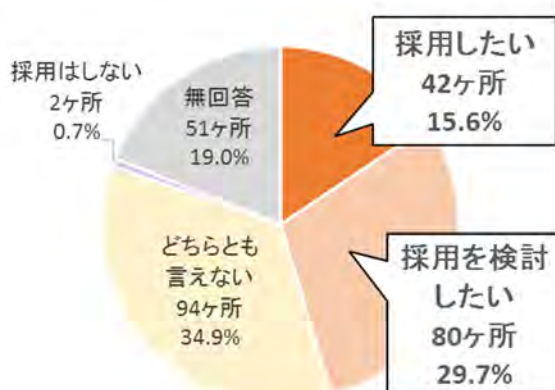
グラフ 学歴別の今後の採用見通し（「問7」結果より）



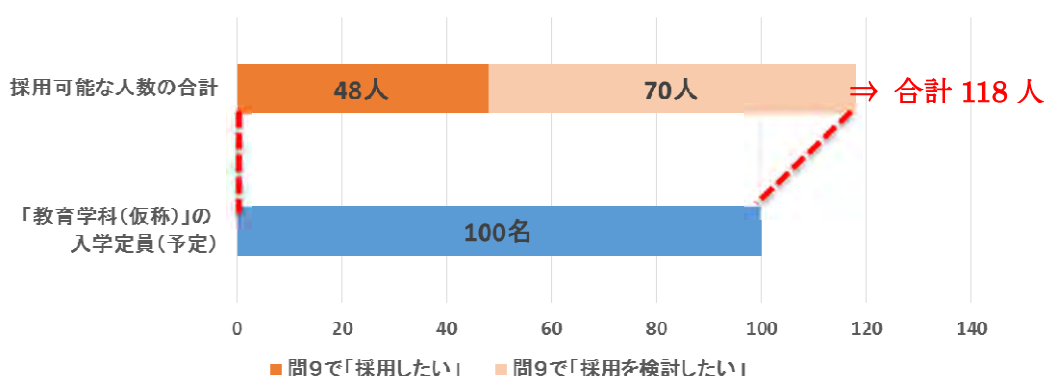
● 半数近くが「教育学科（仮称）」卒業生に採用意欲を示し、118人の採用数が示される。

広島修道大学が新設を予定する人文学部「教育学科（仮称）」の卒業生について、42ヶ所（15.6%）が「採用したい」、80ヶ所（29.7%）が「採用を検討したい」とし、合計すると半数近い 122ヶ所（45.4%）が採用意欲を示した。また、これら122ヶ所から示された採用可能人数の合計は118人、「採用したい」のみに限っても48人おり、採用意欲を示しながら人数未提示だった施設等47ヶ所（「採用したい」のみでも15ヶ所）を含めると、更なる人材需要があると推察される。

グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」卒業生の採用意欲（「問9」結果より）



グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」卒業生の採用が見込まれる人数（「問9」結果より）



3章

人材需要の見通し調査②

【新設構想についての人材需要アンケート調査(企業・団体等)】

結 果

1. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」概要

- ◆ **調査内容：** 広島修道大学が平成 28 年度に新設を予定する「人文学部 教育学科（仮称）」の卒業生の人材需要の見通しを測定するために、人材需要アンケート調査（企業・団体等）を実施した。

→ 配布アンケート用紙は 63 ページ・【添付②】「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」

- ◆ **調査時期：** 平成 26 年 9 月
- ◆ **調査対象：** 広島修道大学卒業生の採用実績がある広島県内を中心とした中国・四国地方の企業・団体など、計 609 ヶ所を調査対象とした。
- ◆ **調査方法：** 調査対象先の採用担当者宛にアンケート調査用紙 1 部・依頼状・返送用封筒を送付した。ご協力可能な場合、回答済のアンケート調査用紙をご返送頂くかたちとした。
- ◆ **回収件数：** 238 箇所（回収率 39.1%）／609 箇所

1. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」集計結果

※「構成比」（％）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 貴社・貴団体の業種をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 建設業	12	5.0%
2. 製造業	27	11.3%
3. 情報通信業	4	1.7%
4. 運輸業	7	2.9%
5. 卸売・小売業	86	36.1%
6. 金融・保険業	16	6.7%
7. 不動産業	6	2.5%
8. 飲食・宿泊業	8	3.4%
9. 医療・福祉	13	5.5%
10. 教育・学習支援	6	2.5%
11. その他サービス業	41	17.2%
12. 電気・ガス業	2	0.8%
13. 水産・農林・鉱業	0	0.0%
14. 公務・団体	4	1.7%
15. その他	5	2.1%
（無回答）	1	0.4%
合計	238	100.0%

問2以降、次ページにつづく。

問2 貴社・貴機関の所在地（本社・主たる事業所等）をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 広島市	133	55.9%
2. 府中町	1	0.4%
3. 海田町	2	0.8%
4. 熊野町	1	0.4%
5. 坂町	2	0.8%
6. 廿日市市	7	2.9%
7. 大竹市	1	0.4%
8. 安芸太田町	0	0.0%
9. 北広島町	0	0.0%
10. 安芸高田市	1	0.4%
11. 江田島市	0	0.0%
12. 呉市	10	4.2%
13. 東広島市	6	2.5%
14. 大崎上島町	0	0.0%
15. 竹原市	1	0.4%
16. 三原市	2	0.8%
17. 世羅町	0	0.0%
18. 三次市	1	0.4%
19. 尾道市	4	1.7%
20. 福山市	12	5.0%
21. 府中市	2	0.8%
22. 神石高原町	0	0.0%
23. 庄原市	3	1.3%
24. 山口県	16	6.7%
25. 島根県	9	3.8%
26. 鳥取県	1	0.4%
27. 岡山県	13	5.5%
28. 愛媛県	5	2.1%
29. 高知県	1	0.4%
30. 香川県	3	1.3%
31. 徳島県	0	0.0%
32. その他	1	0.4%
(無回答)	0	0.0%
合計	238	100.0%

問3 貴社の従業員規模もしくは貴団体の職員規模をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 100人未満	79	33.2%
2. 100人以上	93	39.1%
3. 500人以上	33	13.9%
4. 1,000人以上	29	12.2%
5. 5,000人以上	4	1.7%
(無回答)	0	0.0%
合計	238	100.0%

問4 新卒生を採用する際に、求める能力・体験等をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. コミュニケーション能力	226	95.0%
2. 基礎的な学力	119	50.0%
3. 専攻学問の専門的な知識	15	6.3%
4. 語学力	13	5.5%
5. 考え抜く力	101	42.4%
6. 前に踏み出す力	125	52.5%
7. 目的達成志向	143	60.1%
8. 適応力	162	68.1%
9. インターンシップ経験	2	0.8%
10. ボランティア経験	1	0.4%
11. 忍耐力	153	64.3%
12. 理解力	114	47.9%
13. 論理力	42	17.6%
14. 取得資格・免許（見込含む）	37	15.5%
15. その他	8	3.4%

※ 問4は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 238 箇所（全回答企業・団体数）

問5 貴社・貴団体において新卒生を採用される際、出身学部・学科等についてどの程度考慮されますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 採用予定者全員について、出身学部・学科等は考慮する	24	10.1%
2. 一部の採用予定者については、出身学部・学科等は考慮する	19	8.0%
3. 出身学部・学科等は問わない	192	80.7%
4. わからない	1	0.4%
(無回答)	2	0.8%
合計	238	100.0%

問6 貴社・貴団体における広島修道大学卒業生の採用状況をお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 毎年採用している	73	30.7%
2. 数年おきに採用している	92	38.7%
3. 時期は不明だが、採用したことがある	63	26.5%
4. 採用したことはない	3	1.3%
5. わからない	3	1.3%
(無回答)	4	1.7%
合計	238	100.0%

問7以降は広島修道大学「教育学科（仮称）の概要」を見た上での回答を求めた。

問7 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」が養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。

選択項目	回答数	構成比
1. ニーズは極めて高い	14	5.9%
2. ニーズはある程度高い	89	37.4%
3. どちらとも言えない	126	52.9%
4. ニーズは高くない	7	2.9%
(無回答)	2	0.8%
合計	238	100.0%

問8 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」を卒業した学生を採用したいと思われますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 採用したい	33	13.9%
2. 採用を検討したい	47	19.7%
3. どちらとも言えない	145	60.9%
4. 採用はしない	12	5.0%
(無回答)	1	0.4%
合計	238	100.0%

(問8) で) 1または2の場合、よろしければ採用可能と思われる人数をお答えください

選択項目	回答数	人数合計
1人	16	16
2人	19	38
3人	7	21
5人	4	20
10人	1	10
(無回答)	33	-
合計	80	105

〔問8〕 補足

⇒ ●ページ・問8の結果（採用可能人数）を「1. 採用したい」のみに限定した場合の結果。

選択項目	回答数	人数合計
1人	5	5
2人	6	12
3人	4	12
5人	3	15
10人	1	10
（無回答）	14	-
合計	33	54

以下の問9は問8で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」を選択した企業・団体（80ヶ所）のみが回答対象

問9 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」は、2年次より3つのコースに分かれます。採用を検討したいと思われるコースをお答えください。

選択項目	回答数	構成比
1. 初等教育コース	3	3.8%
2. 学校教育コース	1	1.3%
3. 教育科学コース	6	7.5%
4. コースは特に問わない	69	86.3%
（無回答）	1	1.3%
計	80	100.0%

問10 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

※ 50箇所から回答を得た。以下、回答内容を掲載（原文ママ）。順不同。

1	今後大切な学科であると思います。一方、優秀な多くの人材が輩出されたとしても、受け入れ側に限りのある分野であると思います。
2	勉学だけでなく、社会適応に優れた人材を育成してほしいと思います。今後の少子高齢化に伴い、すべての学生が先生になれるわけではなく、成長の壁をのりこえる忍耐力をつけ、つぶしがきく学生育成を期待します。
3	コミュニケーション力が全体的に落ちている様に思います。専門以外の面でも、社会に通用する人の育成を期待します。
4	（仮称）「人文学部 教育学科」を「教育学部 教育学科」にされた方が宜しいかと思います。修道大学としても、この方が宜しいかと....
5	特にありませんが、コミュニケーション能力があり、基礎学力の高い人材が期待できそうに思えます。民間企業側も歓迎したいと思います。
6	学校教育・保育を基礎に、生涯教育についても学べる環境が出来れば良いと思います。

7	1. 広島大学の教育学部等、広島県内の他大学の教育系との差別化がより（もっと）必要ではないでしょうか？ 2. 少子化が進む中で、教員（特に義務教育の小中学校の先生）がそこまで必要になる見込みがあるのでしょうか... 3. 教育系以外の民間企業にて、“教育系”の学生がどのような部門・部署で必要とされているのでしょうか... 学生にとって就職等に困らないような学校にしていきたいと切に願います。
8	貴校の時代変化への対応姿勢は積極的で良いと思います。以上
9	小売業においても教育に対する取り組みを強化しており、社会的な教養と教育の基礎知識を兼ね揃えた学生の入社を強く要望しております。
10	今後も求人票の送付を続けていきますので、履歴書の送付をお願いします。
11	学ぶことを目的とするのではなく、社会に活かすことを目的とし、学校・保育等の実習を重ねていただきたい。企業としても学科新設に期待しています。
12	教育学部を卒業した学生はあまり民間企業を受けられないと思います。ただ、プレゼンテーション力や基礎学力などは身につけてもらい、ぜひ弊社にもお越しいただきたいですね。
13	人を育てることは、自身を磨くことと同時で、教育は共育と考える人材を育成して欲しいと思います。
14	「人文学部 教育学科」を卒業された方の多くは教育関係の仕事に就くことを目指されると思います。少子高齢化がすすむ中でより高度な教育を望む子弟が今後増えるものと考えられます。人材の育成に期待しております。
15	期待しない。必要性を全く感じない。
16	教育専門コースのようにみえるが、一般企業への就職数がどれくらいになるか推測できない。
17	教師を志望する学生ですから、高等教育レベルの学力を当然に身につけていることと信じて採用したいと思います。
18	資格を取得できる学科は非常にニーズがあると思います。
19	教育とは、まず自分が学ぶことが一番大切です。しっかりと学んだ学生は、どのような職種でも活躍できると思っています。今後とも是非よろしくお願い致します。
20	立派な教員を養成してください。
21	自身が幼少の頃から様々な経験をし、成功や失敗をくり返すなかで自身に自問することで見出すべき内容を学問として机上で学ぶような印象を受けました。今の教育現場のニーズに合っているのかどうかは教育者でないので分かりませんが、専門性の高い学問のようなので、多くの時間を費やして下さい。
22	・設置の理念を入学し学ぶ学生に対していかに具体的に浸透させていくかが重要に思います。 ・教育者としてのモラル向上や学習しつづける姿勢を4年間しっかりと身につけさせることも大切であると思います。 ・特別支援学校の教育カリキュラムの充実に期待しています。社会福祉・社会貢献の観点からも人材育成は重要に思います。
23	知識以上に人間としての基本を教えてほしいです。
24	・広島県内の私立大学では、貴校卒業生の平均レベルが相対的に高いと思われるが、推薦入学者のあらゆるレベルが低く、それが貴校学生採用の足枷となっていると思う。 ・今年よりインターンシップが就職活動において重要度を増しているが、参加率が絶望的に悪く、学生の意識の低さとしてとらえてしまう。K大学は対照的に参加率が高く、好印象を持つ。また学内でインターンシップの窓口が複数あり、タテ割りを外部へ押しつけている不便さを感じる。
25	広島県内にも似たような学科をお持ちの大学も多くあります。他大学とは異なる魅力が必要となりそうですね。
26	教員採用試験を受験される学生の方は「民間企業一本です」とお答えいただくのですが、内定式間際になって辞退をお申し出になるケースが多く、大変苦慮しています。その場合は正直に言っていた方が人間性も信頼できます。若い人材を育てることはこれからの日本の基盤を築くことです。主体性があり、ホスピタリティ溢れる子供達を育てられる人材が生まれることを期待しています。
27	教育とは、知識を伝えるだけではなく、健全な考え方を育成するものです。健全な考え方の基盤となるものは、正しい歴史観です。日本の繁栄を創り出す若者を育成するため、自虐史観ではなく、自由主義史観や日本の伝統について学ぶ機会を設けて頂きたい。

28	少子高齢化の中で子供の人数が少ないと言われている昨今、現実的には、例えば広島市でも待機児童が多く、母親の働く環境であったり、子供を育てやすい環境が作れていないと思います。その中でいかに先生の人数増、それによる雇用の拡大、結果、保育園、幼稚園の増、その結果、小中高の教育の充実性だと思います。頑張っている先生を輩出して頂ければと思います。
29	子供だけでなく、保護者の気持ちも理解することができる人材がたくさん育ちますよう、願っております。
30	教員・保育士等の教育職と一般企業では、採用時期にずれがあり、両方をかけ持ちで就職活動をするとうまく行かないと思うので、3年次頃から将来の就職について進路を考えてもらえるよう教育して頂きたいと思います。
31	以下の点について期待します。 ・将来的に経営幹部を担うことのできる人材 ・経営の視点を持った「専門職」の育成
32	私も30年間、音楽教育に携わり、単に子供が好きだけでは、実社会での教育現場になじめない方を多く見してきました。教育は人間形成の基礎を作り、世の中を変えていく力もある大切な分野ですので、是非、大学での4年間を理想だけでは終わらない意義のある期間にしていだけたらと思います。
33	当社が求める人材として、自らで課題を見つけそれを成し遂げる人であるため、まずは課題を発見できる力を養っていただける教育を期待します。また、上司・部下・先輩・後輩間での物事を教える・伝える能力というものを大学生の時期に養って頂きたいです。（理論だてで、どうしたら相手に分かりやすく伝えられるか考えられる人が少ないため）
34	教育は社会形成の原点だと考えています。未来の日本をつくっていく人を教育する意味を深く考え、大きな目標を持って教育に取り組める人が育つ事を期待しています。
35	私どもの業界（信用金庫）においては、直接的な関心は薄い。
36	「学校教育」以外の教育のあり方、関わり方なども知ってほしい。
37	今の教育制度を変えていく様な学生にしてもらいたい。
38	一般的な企業ですと、ニーズはそんなにないのではないかと思います。
39	企業においても人材育成は最重要課題であり、人材育成のできる人材を求めています。教職に関する専門知識は、実際に現場においても非常に役立っています。（自分も教諭免許を取得しているため）
40	たくさんの経験を通して元気のある学生を育ててあげてください。期待しております。
41	専門性の向上も大切であるが、その前にベースとなる人間形成に関することを高めることも重要である。その面では本学科の意義は十分にあるものと思います。
42	勉強ができるにこした事はないですが、それ以上に応用がきく人を望みます。
43	自ら考え、行動できる人材の育成に期待をしたいと思います。
44	教育関連に進みたい学生が選ぶ学部だと思いますが、学校の教員を目指した学生が一般企業に就職する事も多くあると思います。ぜひ、一般企業に入っても対応出来る学生を育ててくれることを期待しています。ちなみに自社（ウェディング事業）は25名中5名（20%）が教員を目指した学生です。
45	専門的な知識はもちろんのこと、幅広い考え方・物事の捉え方を学ばれる事を期待します。近年、修道大学からの採用はしたもの、1年以内に退職をするケースが続いております。退職理由に関しては、仕事内容の不一致、人間関係のもつれ、などではありましたが、それをも乗り越えられる精神力、目標達成意欲が磨かれると、社会に出てからも、能力が充分に発揮できるのではないかと思います。
46	新設構想中の教育学科に関しては、教師不足の今日、ニーズ的には高いかもしれませんが、今までの修道大学のカラーからは少し外れているような気がします。修道大学の"強み"がなくなり、今までの良かった部分が分散され、結局修道大学は何を売りにしている大学だったのか？わからなくなるように思われます。
47	教育学科の卒業生が広く社会に貢献されることを願います。
48	考え方や知識・技能は必須ですが、コミュニケーション力を重視した上での目的達成や、最後まで「やりきる」力が重要であると考えます。また、自身で問題や課題を見つけ、自ら動く行動力等、世界と戦える力を養える様、期待致します。

49	広島近郊の私学において、教員を養成する学科が誕生することは意義がある。
50	多様な人材をどのように育成していくのが企業内での人材育成のテーマとして考えられます。同様に教育も価値観の異なる親世代に育てられた子供達をどのように育て、導いていくかという大きなテーマを抱えておられることと推察します。画一的でなく柔軟な考え方が出来る人材をいかに育てるか、貴大学の取り組みに大いに期待しています。

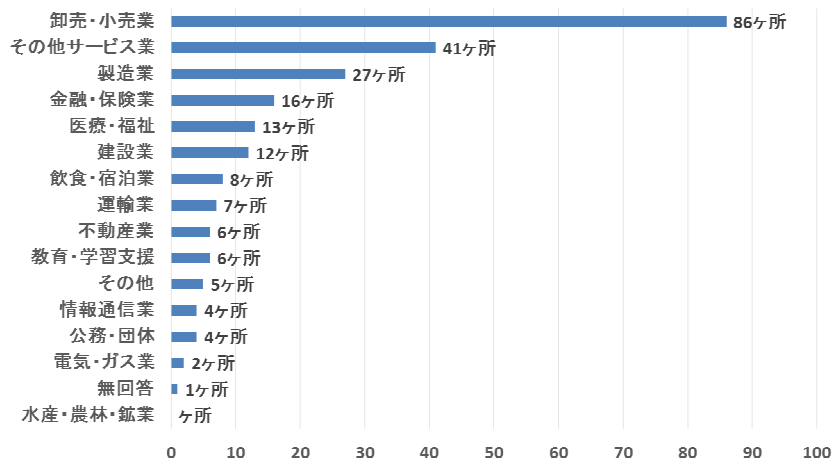
3. 「新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）」集計結果のポイント

※「構成比」（％）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

- 「卸売・小売業」「サービス業」をはじめ、幅広い業種の企業・団体から回答。

人材需要アンケート（企業・団体等）で回答を得た 238 ケ所の企業・団体等を種類別でみた場合、最も多かったのは「卸売・小売業」が 86 ケ所、次いで「その他サービス業」が 41 ケ所であった。これらを筆頭に幅広い業種の企業・団体等から回答を得ることができた。

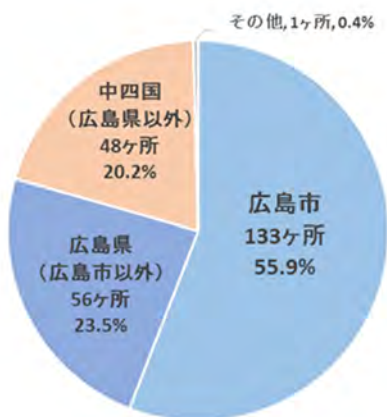
グラフ 回答を得た施設等の種別（「問1」結果より）



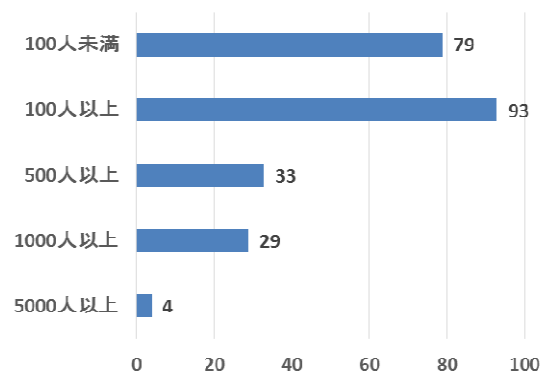
- 広島市内をはじめ県内および中四国の、さまざまな規模の企業・団体等から回答。

回答を得た企業・団体等 238 ケ所のうち、189 ケ所が広島県内、48 ケ所が山口県・岡山県など中四国の企業・団体等であった。従業員規模別にみた場合、「100 人以上」の回答が 93 ケ所で最も多く、以下「100 人未満」79 ケ所、「500 人以上」33 ケ所とつづき、幅広いの企業・団体等から回答が得られた。

グラフ 回答を得た企業等の所在地（「問2」結果より）



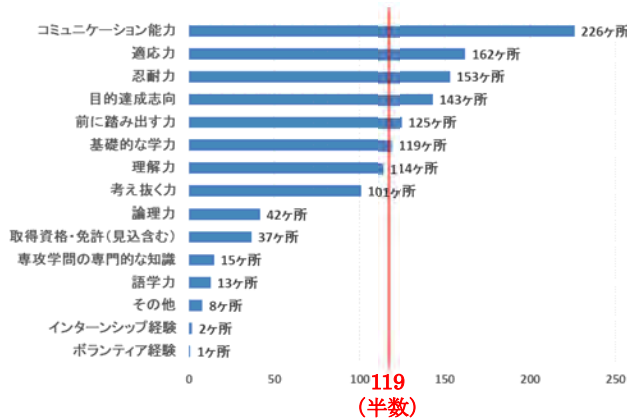
グラフ 同 従業員規模（「問3」結果より）



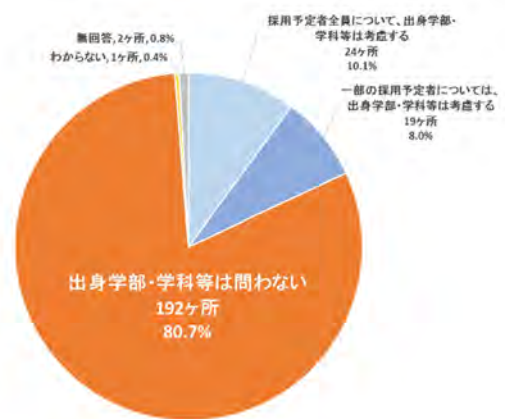
● 一般企業の採用においては出身学部・学科よりも、社会人基礎力を重視の傾向。

新卒生採用の際に重視する能力・体験等としては、9割以上である226ヶ所が「コミュニケーション能力」を、他にも過半数が「適応力」「忍耐力」「目的達成志向」「前に踏み出す力」を挙げた。一方で「専攻学問の専門的な知識」は1割に満たない15ヶ所に留まり、その証左として約8割の192ヶ所が新卒生の「出身学部・学科等は問わない」と回答した。

グラフ 新卒生採用時に求めるもの（「問4」結果より）



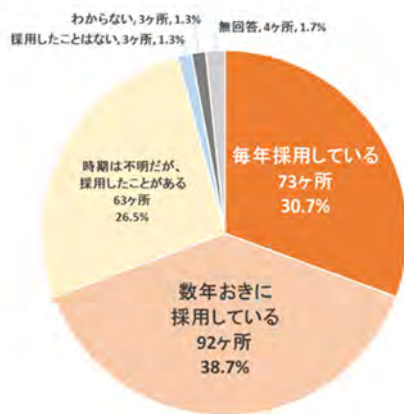
グラフ 新卒生の出身学部について（「問5」結果より）



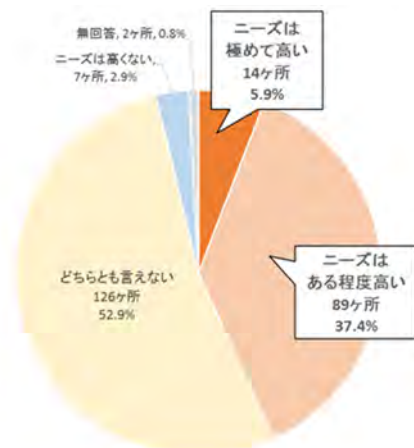
● 7割が広島修道大の卒業生を定期的に採用し、4割以上が「教育学科（仮称）」の必要性を認める。

回答を得た企業・団体等238ヶ所のうち、約7割が広島修道大学の卒業生を「毎年採用している」または「数年おきに採用している」と回答した。また、4割以上が「教育学科（仮称）」は「ニーズが極めて高い」または「ニーズはある程度高い」と回答し、その社会的ニーズについて認めた（他に「どちらとも言えない」が約半数）。

グラフ 広島修道大卒業生の採用状況（「問6」結果より）



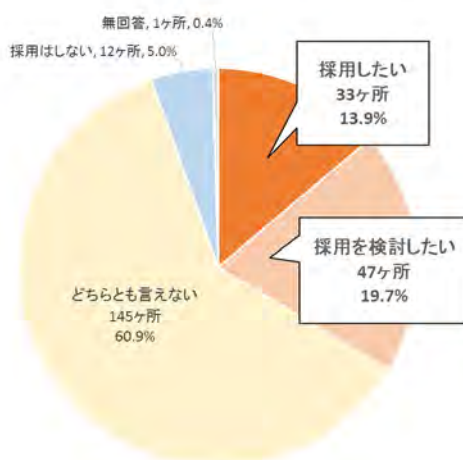
グラフ 「教育学科（仮称）」の必要性（「問7」結果より）



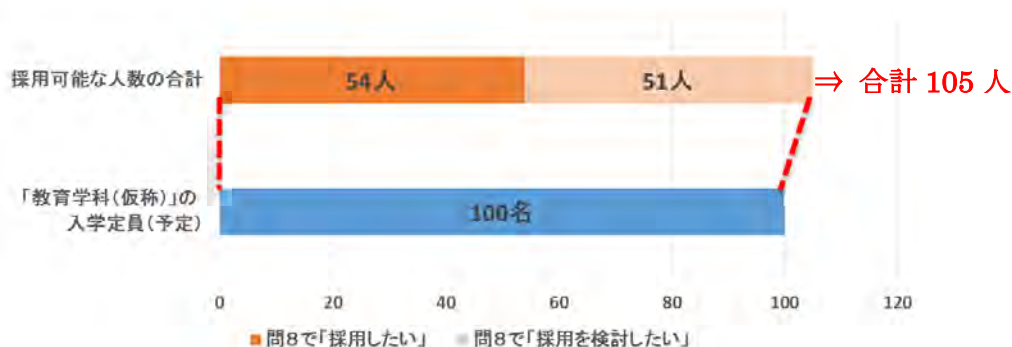
● 3割以上が「教育学科（仮称）」卒業生に採用意欲を示し、105人の採用数が示される。

広島修道大学が新設を予定する人文学部「教育学科（仮称）」の卒業生について、33ヶ所（13.9%）が「採用したい」、47ヶ所（19.7%）が「採用を検討したい」とし、合計すると3割以上の80ヶ所（33.6%）が採用意欲を示した。また、これら80ヶ所から示された採用可能人数の合計は105人、「採用したい」のみに限っても54人おり、採用意欲を示しながら人数未提示だった施設等33ヶ所（「採用したい」のみでも14ヶ所）を含めると、更なる人材需要があると推察される。一方、採用意欲を示した80ヶ所のうち、69ヶ所（86.3%）は「コースは特に問わない」としており、「教育学科（仮称）」卒業生は幅広く採用の機会があると思われる。

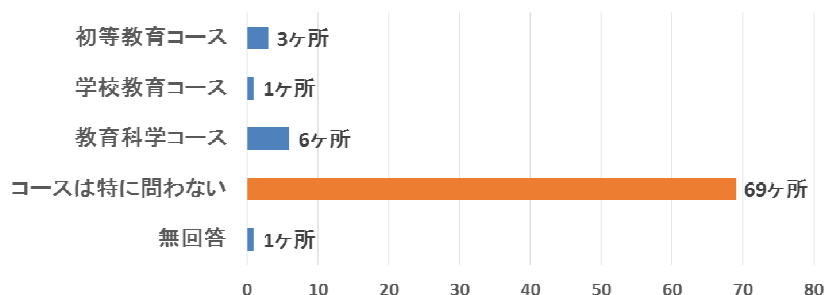
グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」卒業生の採用意欲（「問8」結果より）



グラフ 広島修道大学「教育学科（仮称）」卒業生の採用が見込まれる人数（「問8」結果より）



グラフ コース別の採用意欲（「問9」結果より）



【添付①】

「新設構想についての高校生アンケート調査」

新設構想についての高校生アンケート調査

(対象：2014年度現在、高校2年生の皆さん)

広島修道大学(広島市安佐南区大塚東1-1-1)は2016年4月に人文学部人間関係学科教育学専攻(定員50名)を改組し、「人文学部 教育学科」(仮称・定員100名)の新設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、2016年に大学進学時期をむかえる現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、構想内容に少しでも反映したいと考えています。

なお、回答いただいた皆さんから得られた情報は広島修道大学の新設学科構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

高校生の皆さんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は広島修道大学から委託された第三者機関(株式会社紀伊國屋書店)が実施しています。

問1 あなたがお住まいの市町村または都道府県をお答えください。(あてはまるものに○)

- 【広島県】
- | | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1. 広島市 | 2. 府中町 | 3. 海田町 | 4. 熊野町 | 5. 坂町 |
| 6. 廿日市市 | 7. 大竹市 | 8. 安芸太田町 | 9. 北広島町 | 10. 安芸高田市 |
| 11. 江田島市 | 12. 呉市 | 13. 東広島市 | 14. 大崎上島町 | 15. 竹原市 |
| 16. 三原市 | 17. 世羅町 | 18. 三次市 | 19. 尾道市 | 20. 福山市 |
| 21. 府中市 | 22. 神石高原町 | 23. 庄原市 | | |
- 【広島県以外】
- | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|
| 24. 山口県 | 25. 島根県 | 26. 鳥取県 | 27. 岡山県 | 28. 愛媛県 |
| 29. その他 () | | | | |
- ※「その他」の場合、都道府県名をご記入ください。

問2 あなたの性別をお答えください。(あてはまるものに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 高校卒業後の希望進路についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------|------------|---------|
| 1. 大学 | 2. 短期大学 | 3. 専門学校 |
| 4. 就職 | 5. その他 () | |

問4 あなたの興味のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------------|--------------|-------------|
| 1. 文学・歴史・心理 | 2. 経済・経営・商学 | 3. 法学・政治 |
| 4. 社会・社会福祉・観光 | 5. 外国語・国際関係 | 6. 教育・保育 |
| 7. 理学・工学・情報 | 8. 農・畜産・水産 | 9. 医学・歯学・薬学 |
| 10. 医療(看護) | 11. 医療(看護以外) | 12. 栄養・家政 |
| 13. スポーツ・健康科学 | 14. 芸術 | 15. その他 () |

問5 あなたが将来、希望する進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------------|------------|-------------|
| 1. 教員 | 2. 公務員 | 3. 一般企業 |
| 4. 専門職(資格をいかす職業) | 5. 起業・会社経営 | 6. まだ決めていない |
| 7. その他 () | | |

以下は広島修道大学が2016年(平成28年)4月に新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」の概要です。

特別支援教育を含む教育学の知識に裏打ちされた幅広い視点で教育・保育を行い、
学び続けることのできる教員を養成します

人文学部 教育学科(仮称) 新設構想中

学科の概要

開設時期: 2016年(平成28年)4月(予定)
開設場所: 広島修道大学(広島市安佐南区大塚東1-1-1)
修業年限: 4年
入学定員: 100名(収容定員: 400名)
取得学位: 学士(教育学)

設置の理念

「人間の発達と形成」に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと、家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行い、現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と学び続ける力を身につけた教育実践力を備えた人材を養成することを目的とします。

養成する人材

教育学科(仮称)は、次の3つの資質を兼ねそろえた人材を養成します(ディプロマ・ポリシー)。

確かな思考

「人間の発達と形成」について深さと広がりのある知識と教養を獲得するとともに、それらを再構成し発信するための教育的リテラシーを修得し、自ら主体的に学びを創り出すことができるようになること。

広がる経験

多様な教育実践の機会に積極的に参画し、「人間の発達と形成」について得た考え方や知識・技能を他者との協働のもとで活用していくことができるようになること。

開かれた心

「人間の発達と形成」をめぐる諸問題に対して他者への敬意を払いつつ、幅広い教育学的教養と教育実践力をもって当事者として向き合っていく態度を涵養できるようになること。

学科の特色

2年次より3コースに分かれ、教諭一種免許状(幼・小・中・高)・保育士資格の取得が目指せます

初等教育コース

幼児期から児童期の子どもたちへの教育的働きかけに重点をおいて学ぶ。
【取得可能な免許: 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格】

学校教育コース

思春期・青年期を視野に入れた児童・生徒への教育的働きかけに重点をおいて学ぶ。
【取得可能な免許: 小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)】

教育科学コース

人間に対する理解を高めるとともに、自らのキャリア形成に活かしていくために教育学を深く学ぶ。
【取得可能な免許: 中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)】

3コース共通で特別支援学校教諭一種免許状のほか、社会教育主事と児童福祉司の任用資格の取得が目指せます

近年、教育の現場では特別なケアを必要とする子どもたちに対応できる人材が強く求められています。特別支援学校教諭免許状を取得することで、教員として活躍できる場は大きく広がります。

教育の専門知識と幅広い教養・知識を兼ね備え、広く社会の発展に貢献できる人材を育成します

広島修道大学の教育学科(仮称)は教育の場で必要な専門知識はもちろん、広く社会で求められる教養・知識を修得します。また、地域社会と強いつながりを持ち、地域とともに発展してきた本学の卒業生はさまざまな分野で活躍しており、教育学科(仮称)の卒業生も幅広い活躍の場が期待されます。

卒業後の進路

広島修道大学 人文学部 教育学科(仮称)の学生は卒業後、教育機関・保育施設をはじめ、社会の幅広い分野で活躍が期待されます。

【活躍が期待される場の例】

小学校 中学校 高等学校 中等教育学校
幼稚園 認定こども園 保育所
社会福祉施設 行政機関 一般企業(教育関連を含む様々な業種)

学費 周辺大学を含む

大学名・学部名・学科名 所在地	入学金	授業料・ 施設費等	初年次 学費
広島修道大学 人文学部 教育学科(仮称) 広島市安佐南区大塚東1-1-1	220,000	1,030,000	1,250,000
比治山大学 現代文化学部 こども発達教育学科 広島市東区牛田新町4-1-1	270,000	950,000	1,220,000
広島文教女子大学 人間科学部 初等教育学科 広島市安佐北区可部東1-2-1	250,000	990,000	1,240,000
安田女子大学 教育学部 児童教育学科 広島市安佐南区安東6-13-1	230,000	1,040,000	1,270,000

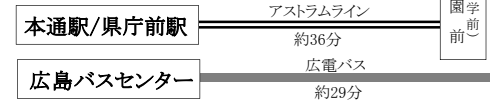
※いずれも諸会費は含みません。
※広島修道大学 人文学部 教育学科(仮称)の学費は予定です(変更となる場合があります)。
※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(平成26年7月時点)に基づきます。

広島修道大学へのアクセス

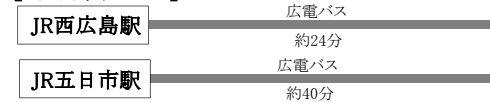
【広島駅から】



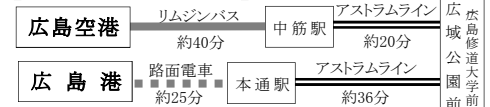
【中心部から】



【西方面から】



【広島港・空港から】



上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

問6は2ページの「人文学部 教育学科(仮称)」の概要をご覧の上で全員がお答えください。

問6 あなたは広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」を受験したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 受験したい → 1の方は **問7** **問8** にお答えください。
2. 受験しない → 2の方は **問9** **問10** にお答えください。

以下の問7・問8は、問6で「1. 受験したい」と回答した方がお答えください。

問7 あなたは広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 合格した場合、入学したい
2. 合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい

2の方は、併願先として検討中の大学・学部をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

他大学等	1. 国公立大学の教育系学部・学科	2. その他の私立大学の教育系学部・学科
	3. 短期大学の保育科	4. その他 ()

広島修道大学の「人文学部 教育学科(仮称)」以外の学部・学科

【商学部】	5. 商学科	6. 経営学科
【人文学部】	7. 人間関係学科心理学専攻	8. 人間関係学科社会学専攻
	9. 英語英文学科	
【法学部】	10. 法律学科	11. 国際政治学科
【経済科学部】	12. 現代経済学科	13. 経済情報学科
【人間環境学部】	14. 人間環境学科	

問8 広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」は入学後、3つのコースに分かれ、将来の目標に応じた教員免許状等の取得を目指します。あなたが現時点で最も選択したいと思うコースをお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 初等教育コース【取得可能な免許：小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格】
2. 学校教育コース【取得可能な免許：小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)】
3. 教育科学コース【取得可能な免許：中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)】

※上記3コース共通で特別支援学校教諭一種免許状、社会教育主事と児童福祉司の任用資格が取得可能です。

4. 未定

以下の問9・問10は、問6で「2. 受験しない」と回答した方がお答えください。

問9 あなたが広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」を「受験しない」とされた理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 興味・関心のある学問分野ではないから
2. 国公立大学への進学を希望しているから
3. 他の私立大学への進学を希望しているから
4. 短期大学への進学を希望しているから
5. 専門学校への進学を希望しているから
6. アクセスが不便そうだから
7. 学費が高いから
8. その他、理由があればお書きください。

[]

問10 以下は広島修道大学が新設を構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」以外の学科です。あなたが受験を検討したいと思う学科、もしくは興味・関心がある学科はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------|----------------|----------------|
| 【商学部】 | 1. 商学科 | 2. 経営学科 |
| 【人文学部】 | 3. 人間関係学科心理学専攻 | 4. 人間関係学科社会学専攻 |
| | 5. 英語英文学科 | |
| 【法学部】 | 6. 法律学科 | 7. 国際政治学科 |
| 【経済科学部】 | 8. 現代経済学科 | 9. 経済情報学科 |
| 【人間環境学部】 | 10. 人間環境学科 | |

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

【添付②】

「新設構想についての人材需要アンケート調査
(幼稚園・保育所等)」

新設構想についての人材需要アンケート調査 (幼稚園・保育所等)

広島修道大学 (広島市安佐南区大塚東1-1-1) は2016年4月に人文学部人間関係学科教育学専攻 (定員50名) を改組し、人文学部教育学科 (仮称・定員100名) の新設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、幼稚園・保育所等の皆様からご意見をいただくことで、今後もより一層、教育・保育に貢献できる人材輩出を行って参りたいと考えております。

なお、回答いただいた皆さんから得られた情報は広島修道大学の新設学科構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は広島修道大学から委託された第三者機関 (株式会社紀伊國屋書店) が実施しています。

はじめに、貴園・貴所についてお尋ねいたします。

問 1 貴園・貴所についてお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください)

- | | | |
|-------------------|------------|--------|
| 1. 幼稚園 | 2. 認定こども園 | 3. 保育所 |
| 4. 児童福祉施設 (保育所以外) | 5. その他 () | |

問 2 貴園・貴所の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください)

- | | | | | | | |
|---------|----------|-------------|---------|-----------|----------|---------|
| 【広島県】 | 1. 広島市 | 2. 府中町 | 3. 海田町 | 4. 熊野町 | 5. 坂町 | 6. 廿日市市 |
| | 7. 大竹市 | 8. 安芸太田町 | 9. 北広島町 | 10. 安芸高田市 | 11. 江田島市 | 12. 呉市 |
| | 13. 東広島市 | 14. 大崎上島町 | 15. 竹原市 | 16. 三原市 | 17. 世羅町 | 18. 三次市 |
| | 19. 尾道市 | 20. 福山市 | 21. 府中市 | 22. 神石高原町 | 23. 庄原市 | |
| 【広島県以外】 | 24. 山口県 | 25. その他 () | | | | |

※「その他」の場合、都道府県名をご記入ください。

問 3 現時点の園児・幼児数をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. ~35名 | 2. 36~70名 | 3. 71~105名 |
| 4. 106~140名 | 5. 141名~175名 | 6. 176名~210名 |
| 7. 211名以上 | | |

問 4 貴園・貴所において勤務されている幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。(該当する人数をご記入ください)

- | | | | | | |
|---------|----|----------------------|-------------------|----------------------|----|
| ◆ 幼稚園教諭 | 合計 | <input type="text"/> | 名 (そのうち、4年制大学卒業者は | <input type="text"/> | 名) |
| ◆ 保育士 | 合計 | <input type="text"/> | 名 (そのうち、4年制大学卒業者は | <input type="text"/> | 名) |

以下の欄は、認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。なお、以下に記載の人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でご記入ください。

- | | | | | | |
|-------------|----|----------------------|-------------------|----------------------|----|
| ◆ 幼稚園教諭+保育士 | 合計 | <input type="text"/> | 名 (そのうち、4年制大学卒業者は | <input type="text"/> | 名) |
|-------------|----|----------------------|-------------------|----------------------|----|

問 5

貴園・貴所において2014年4月に採用された新卒の幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。
(該当する人数をご記入ください)

◆ 幼稚園教諭 合計 名 (そのうち、4年制大学卒業者は 名)

◆ 保育士 合計 名 (そのうち、4年制大学卒業者は 名)

以下の欄は、認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。
なお、以下に記載の人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でご記入ください。

◆ 幼稚園教諭+保育士 合計 名 (そのうち、4年制大学卒業者は 名)

問 6

貴園・貴所における幼稚園教諭・保育士の今後の採用見通しについてお答えください。
(貴園・貴所で勤務される人材について、最もあてはまる番号をご記入ください)

◆ 幼稚園教諭免許状 保有者 ◆ 保育士資格 保有者 ◆ 幼稚園教諭免許状・保育士資格の両方の保有者

1. 不足しており、採用数を増やしたい
2. 適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい
3. 過剰であり、採用数を減らしたい
4. わからない

問 7

今後、4年制大学、短期大学、保育専門学校のうち、いずれの卒業者をより採用したいとお考えですか。
(最もあてはまるもの1つに○をしてください)

1. 4年制大学
2. 短期大学
3. 保育専門学校
4. 特にこだわらない

問 8

新卒の幼稚園教諭・保育士を採用される際、重視する内容をお答えください。
(あてはまるものすべてに○をしてください。)

- | | | |
|-----------------|----------------------|-----------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 | 3. 幼児教育・保育の専門知識 |
| 4. 社会常識・マナー | 5. 積極性・行動力 | 6. 幼児への愛情 |
| 7. チームで働く力 | 8. 幼児教育・保育への情熱 | 9. 目的達成能力 |
| 10. トラブル・問題解決能力 | 11. 特別なケアを要する幼児への対応力 | 12. その他 () |

以下は広島修道大学が2016年(平成28年)4月に新設構想中の人文学部 教育学科(仮称)の概要です。

特別支援教育を含む教育学の知識に裏打ちされた幅広い視点で教育・保育を行い、
学び続けることのできる教員を養成します

人文学部 教育学科(仮称)

新設構想中

学科の概要

開設時期： 2016年(平成28年)4月(予定)
開設場所： 広島修道大学(広島市安佐南区大塚東1-1-1)
修業年限： 4年
入学定員： 100名(収容定員：400名)
取得学位： 学士(教育学)

設置の理念

「人間の発達と形成」に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと、家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行い、現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と学び続ける力を身につけた教育実践力を備えた人材を養成することを目的とします。

養成する人材

教育学科(仮称)は、次の3つの資質を兼ねそろえた人材を養成します(ディプロマ・ポリシー)。

確かな思考

「人間の発達と形成」について深さと広がりのある知識と教養を獲得するとともに、それらを再構成し発信するための教育学的リテラシーを修得し、自ら主体的に学びを創り出すことができるようになること。

広がる経験

多様な教育実践の機会に積極的に参画し、「人間の発達と形成」について得た考え方や知識・技能を他者との協働のもとで活用していくことができるようになること。

開かれた心

「人間の発達と形成」をめぐる諸問題に対して他者への敬意を払いつつ、幅広い教育学的・教養と教育実践力をもって当事者として向き合っていく態度を涵養できるようになること。

学科の特色

2年次より3コースに分かれ、教諭一種免許状(幼・小・中・高)・保育士資格の取得が目指せます

初等教育コース

幼児期から児童期の子どもたちへの教育的働きかけに重点をおいて学ぶ。

【取得可能な免許： 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格】

学校教育コース

思春期・青年期を視野に入れた児童・生徒への教育的働きかけに重点をおいて学ぶ。

【取得可能な免許： 小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)】

教育科学コース

人間に対する理解を高めるとともに、自らのキャリア形成に活かしていくために教育学を深く学ぶ。

【取得可能な免許： 中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)】

3コース共通で特別支援学校教諭一種免許状のほか、社会教育主事と児童福祉司の任用資格の取得が目指せます

近年、教育の現場では特別なケアを必要とする子どもたちに対応できる人材が強く求められています。

特別支援学校教諭免許状を取得することで、教員として活躍できる場は大きく広がります。

教育の専門知識と幅広い教養・知識を兼ね備え、広く社会の発展に貢献できる人材を育成します

広島修道大学の教育学科(仮称)は教育の場で必要な専門知識はもちろん、広く社会で求められる教養・知識を修得します。また、地域社会と強いつながりを持ち、地域とともに発展してきた本学の卒業生はさまざまな分野で活躍しており、教育学科(仮称)の卒業生も幅広い活躍の場が期待されます。

卒業後の進路

広島修道大学 人文学部 教育学科(仮称)の学生は卒業後、教育機関・保育施設をはじめ、社会の幅広い分野で活躍が期待されます。

【活躍が期待される場の例】

小学校

中学校

高等学校

中等教育学校

幼稚園

認定こども園

保育所

社会福祉施設

行政機関

一般企業(教育関連を含む様々な業種)

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

問9以降は、3ページの「人文学部 教育学科（仮称）」の概要をご覧の上でお答えください。

問9

広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」を卒業した学生を採用したいと思われますか。
（あてはまるもの1つに○をし、1または2の場合は人数をご記入ください）

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. どちらとも言えない
4. 採用はしない



1または2の場合、よろしければ採用可能と思われる人数をご記入ください。

名

問10

広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科（仮称）」に対して、期待される点やご要望がありましたら、
ご自由にお書きください。

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

【添付③】

「新設構想についての人材需要アンケート調査
(企業・団体等)」

新設構想についての人材需要アンケート調査（企業・団体等）

広島修道大学（広島市安佐南区大塚東1-1-1）は2016年4月に人文学部人間関係学科教育学専攻（定員50名）を改組し、「人文学部 教育学科」（仮称・定員100名）の新設を構想しています。「人文学部 教育学科」（仮称）は教育・保育の場はもちろん、さまざまな分野で広く社会の発展に貢献できる人材の育成を目的としております。ついては将来ご採用をご検討いただく企業・団体の皆様にご意見を賜ることが重要と考え、本アンケートを実施させていただくことといたしました。

なお、回答いただいた皆さんから得られた情報は広島修道大学の新設学科構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は広島修道大学から委託された第三者機関（株式会社紀伊國屋書店）が実施しています。

はじめに、貴社・貴団体についてお尋ねいたします。

問 1 貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください）

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1. 建設業 | 2. 製造業 | 3. 情報通信業 |
| 4. 運輸業 | 5. 卸売・小売業 | 6. 金融・保険業 |
| 7. 不動産業 | 8. 飲食・宿泊業 | 9. 医療・福祉 |
| 10. 教育・学習支援 | 11. その他サービス業 | 12. 電気・ガス業 |
| 13. 水産・農林・鉱業 | 14. 公務・団体 | 15. その他（ ） |

問 2 貴社の本社もしくは貴団体の主たる事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください）

- | | | | | | | |
|---------|----------|-----------|---------|-----------|----------|---------|
| 【広島県】 | 1. 広島市 | 2. 府中町 | 3. 海田町 | 4. 熊野町 | 5. 坂町 | 6. 廿日市市 |
| | 7. 大竹市 | 8. 安芸太田町 | 9. 北広島町 | 10. 安芸高田市 | 11. 江田島市 | 12. 呉市 |
| | 13. 東広島市 | 14. 大崎上島町 | 15. 竹原市 | 16. 三原市 | 17. 世羅町 | 18. 三次市 |
| | 19. 尾道市 | 20. 福山市 | 21. 府中市 | 22. 神石高原町 | 23. 庄原市 | |
| 【広島県以外】 | 24. 山口県 | 25. 島根県 | 26. 鳥取県 | 27. 岡山県 | | |
| | 28. 愛媛県 | 29. 高知県 | 30. 香川県 | 31. 徳島県 | | |

32. その他（ ）

※「その他」の場合、都道府県名をご記入ください。

問 3 貴社の従業員規模もしくは貴団体の職員規模をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください）

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1. 100人未満 | 2. 100人以上 | 3. 500人以上 |
| 4. 1,000人以上 | 5. 5,000人以上 | |

問 4 新卒生を採用する際に、求める能力・体験等をお答えください。（あてはまるものすべてに○をしてください）

- | | | |
|----------------|-------------------|----------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 | 3. 専攻学問の専門的な知識 |
| 4. 語学力 | 5. 考え抜く力 | 6. 前に踏み出す力 |
| 7. 目的達成志向 | 8. 適応力 | 9. インターンシップ経験 |
| 10. ボランティア経験 | 11. 忍耐力 | 12. 理解力 |
| 13. 論理力 | 14. 取得資格・免許（見込含む） | 15. その他（ ） |

以下は広島修道大学が2016年(平成28年)4月に新設構想中の人文学部 教育学科(仮称)の概要です。

特別支援教育を含む教育学の知識に裏打ちされた幅広い視点で教育・保育を行い、
学び続けることのできる教員を養成します

人文学部 教育学科(仮称) 新設構想中

学科の概要

開設時期： 2016年(平成28年)4月（予定）
開設場所： 広島修道大学（広島市安佐南区大塚東1-1-1）
修業年限： 4年
入学定員： 100名（収容定員：400名）
取得学位： 学士（教育学）

設置の理念

「人間の発達と形成」に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと、家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行い、現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と学び続ける力を身につけた教育実践力を備えた人材を養成することを目的とします。

養成する人材

教育学科（仮称）は、次の3つの資質を兼ねそろえた人材を養成します（ディプロマ・ポリシー）。

確かな思考

「人間の発達と形成」について深さと広がりのある知識と教養を獲得するとともに、それらを再構成し発信するための教育学的リテラシーを修得し、自ら主体的に学びを創り出すことができるようになること。

広がる経験

多様な教育実践の機会に積極的に参画し、「人間の発達と形成」について得た考え方や知識・技能を他者との協働のもとで活用していくことができるようになること。

開かれた心

「人間の発達と形成」をめぐる諸問題に対して他者への敬意を払いつつ、幅広い教育学的・教養と教育実践力をもって当事者として向き合っていく態度を涵養できるようになること。

学科の特色

2年次より3コースに分かれ、教諭一種免許状(幼・小・中・高)・保育士資格の取得が目指せます

初等教育コース

幼児期から児童期の子どもたちへの教育的働きかけに重点をおいて学ぶ。

【取得可能な免許： 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格】

学校教育コース

思春期・青年期を視野に入れた児童・生徒への教育的働きかけに重点をおいて学ぶ。

【取得可能な免許： 小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）】

教育科学コース

人間に対する理解を高めるとともに、自らのキャリア形成に活かしていくために教育学を深く学ぶ。

【取得可能な免許： 中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）】

3コース共通で特別支援学校教諭一種免許状のほか、社会教育主事と児童福祉司の任用資格の取得が目指せます

近年、教育の現場では特別なケアを必要とする子どもたちに対応できる人材が強く求められています。

特別支援学校教諭免許状を取得することで、教員として活躍できる場は大きく広がります。

教育の専門知識と幅広い教養・知識を兼ね備え、広く社会の発展に貢献できる人材を育成します

広島修道大学の教育学科(仮称)は教育の場で必要な専門知識はもちろん、広く社会で求められる教養・知識を修得します。また、地域社会と強いつながりを持ち、地域とともに発展してきた本学の卒業生はさまざまな分野で活躍しており、教育学科（仮称）の卒業生も幅広い活躍の場が期待されます。

卒業後の進路

広島修道大学 人文学部 教育学科(仮称)の学生は卒業後、教育機関・保育施設をはじめ、社会の幅広い分野で活躍が期待されます。

【活躍が期待される場の例】

小学校

中学校

高等学校

中等教育学校

幼稚園

認定こども園

保育所

社会福祉施設

行政機関

一般企業(教育関連を含む様々な業種)

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

問 5

貴社・貴団体において新卒生を採用される際、出身学部・学科等についてどの程度考慮されますか。
(あてはまるもの1つに○をしてください)

1. 採用予定者全員について、出身学部・学科等は考慮する
 2. 一部の採用予定者については、出身学部・学科等は考慮する
 3. 出身学部・学科等は問わない
 4. わからない
- ⇒ 2の場合、一部の採用予定者はどのような人材があてはまるか、よろしければご記入ください。
-

問 6

貴社・貴団体における広島修道大学卒業生の採用状況をお答えください。
(あてはまるもの1つに○をしてください)

1. 毎年採用している
2. 数年おきに採用している
3. 時期は不明だが、採用したことがある
4. 採用したことはない
5. わからない

問7以降は、2ページの「人文学部 教育学科（仮称）」の概要をご覧の上でお答えください。

問 7

広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」が養成する人材は、社会的ニーズが高いと
思われますか。(あてはまるもの1つに○をしてください)

1. ニーズは極めて高い
2. ニーズはある程度高い
3. どちらとも言えない
4. ニーズは高くない

問 8

広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」を卒業した学生を採用したいと思われますか。
(あてはまるもの1つに○をし、1または2の場合は人数をご記入ください)

1. 採用したい
 2. 採用を検討したい
 3. どちらとも言えない
 4. 採用はしない
- ⇒ 1または2の場合、よろしければ採用可能と思われる人数をご記入ください。
-
- 名

問 9

問9は、問8で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」とお答えいただいた場合のみ、ご回答ください。
広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」は2ページの「学科の特色」が示すとおり、
2年次より3つのコースに分かれます。採用を検討したいと思われるコースをお答えください。
(最もあてはまるもの1つに○をしてください)

1. 初等教育コース
2. 学校教育コース
3. 教育科学コース
4. コースは特に問わない

問10

広島修道大学が新設構想中の「人文学部 教育学科(仮称)」に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。
